

第3次 鎌ヶ谷市
みどりあふれる!
都市農業
創造プラン



かまたん

令和5年3月

「市民が支える都市農業のまち かがや
—農家（生産者）と市民（消費者）の強いパートナーシップ—」
の実現に向けて

鎌ヶ谷市は、千葉県の北西部、都心から 25km 圏内に位置し、首都近郊の住宅都市として発展してきました。市内では、梨などの果実類や野菜など多様な農産物が生産されており、市民の身近な場所で農業が営まれています。こうした本市の農業をさらに発展させるべく、市では平成 25 年に「第 2 次鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン」を策定し、農家の直売機会拡大や農産物の P R 促進、加工品の開発支援など様々な施策を展開してきました。こうした施策は一定の成果を上げてきましたが、一方で、高齢化や担い手不足の深刻化、農地の減少など、本市の農業は全国同様厳しい状況が続いています。

この間、平成 28 年 5 月に国の都市農業振興基本計画が策定され、これまで「宅地化すべきもの」と位置付けられていた都市農地が「あるべきもの」へと見直され、都市農業の重要性がより明確にされました。また、スマート農業技術の進展や、環境に配慮した農業を推進する機運の高まりなど、新しい動きもみられています。

こうした変化に対応し、本市の農業がより魅力的な産業として持続的に発展していくことを目指して、この度「第 3 次鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン」を策定しました。

今後、本計画に基づき、関係者の皆様とともに、各施策を着実に実行し、「市民が支える都市農業のまち かがや —農家（生産者）と市民（消費者）の強いパートナーシップ—」を実現してまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、ご審議いただきました策定委員会の皆様をはじめ、各種アンケートやパブリックコメントを通じて様々なご意見をいただきました生産者、市民、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



令和 5 年 3 月

鎌ヶ谷市長 芝田裕美

はじめに

鎌ヶ谷市では、市街地やその周辺に多くの農地や直売所がありますが、農業の経営主体は、その多くが小規模なもので、地域の農業として親しまれています。このため、市民（消費者）と農家（生産者）が、お互いに、身近な存在として感じることができる状況にあります。

この特徴を生かし、市民と農家がより深く協働し、パートナーシップを築いていくことが、本市農業の基盤を強化し、より発展させていくために重要となります。

鎌ヶ谷市では、この基本的な理念に基づき、農業振興のための、各施策を実施してまいります。

鎌ヶ谷産の美味しい梨を
大人になっても食べたいな。



親子梨狩り体験教室

農業まつり「秋の収穫・感謝祭」



精魂込めて栽培した野菜を
地元の人に買ってほしいな。

目次

第1章 計画策定の趣旨と背景.....	1
1 策定の趣旨	1
2 計画期間.....	1
3 計画の位置づけ.....	2
第2章 鎌ヶ谷市の農業を取り巻く環境と現状	3
1 鎌ヶ谷市の概況	3
2 鎌ヶ谷市の農業を取り巻く主な環境変化	4
3 鎌ヶ谷市の農業の現状	6
4 前計画での取組み.....	12
第3章 調査結果からみえる課題及び対応の方向性	14
1 農家の減少への対応	14
2 所得減少への対応	15
3 農地減少への対応	16
4 市民の農業に対する理解促進の必要性	17
5 環境に配慮した農業推進の必要性.....	18
第4章 鎌ヶ谷市の農業振興指針	19
1 鎌ヶ谷市の農業の将来像	19
2 基本方針.....	19
3 施策体系.....	20
第5章 各施策の取組み内容.....	22
第6章 計画の推進に向けて	32
1 進行管理.....	32
2 各主体の役割.....	32
3 目標指標.....	33
参考資料.....	35
1 本市と周辺市の統計データ	37
2 生産者アンケート調査結果	44
3 消費者アンケート調査結果	80
4 鎌ヶ谷のみどりあふれる都市農業創造プラン策定委員会設置要綱.....	93
5 鎌ヶ谷のみどりあふれる都市農業創造プラン策定委員名簿	94
6 計画策定の流れ	95
7 用語解説.....	96

第1章 計画策定の趣旨と背景

1 策定の趣旨

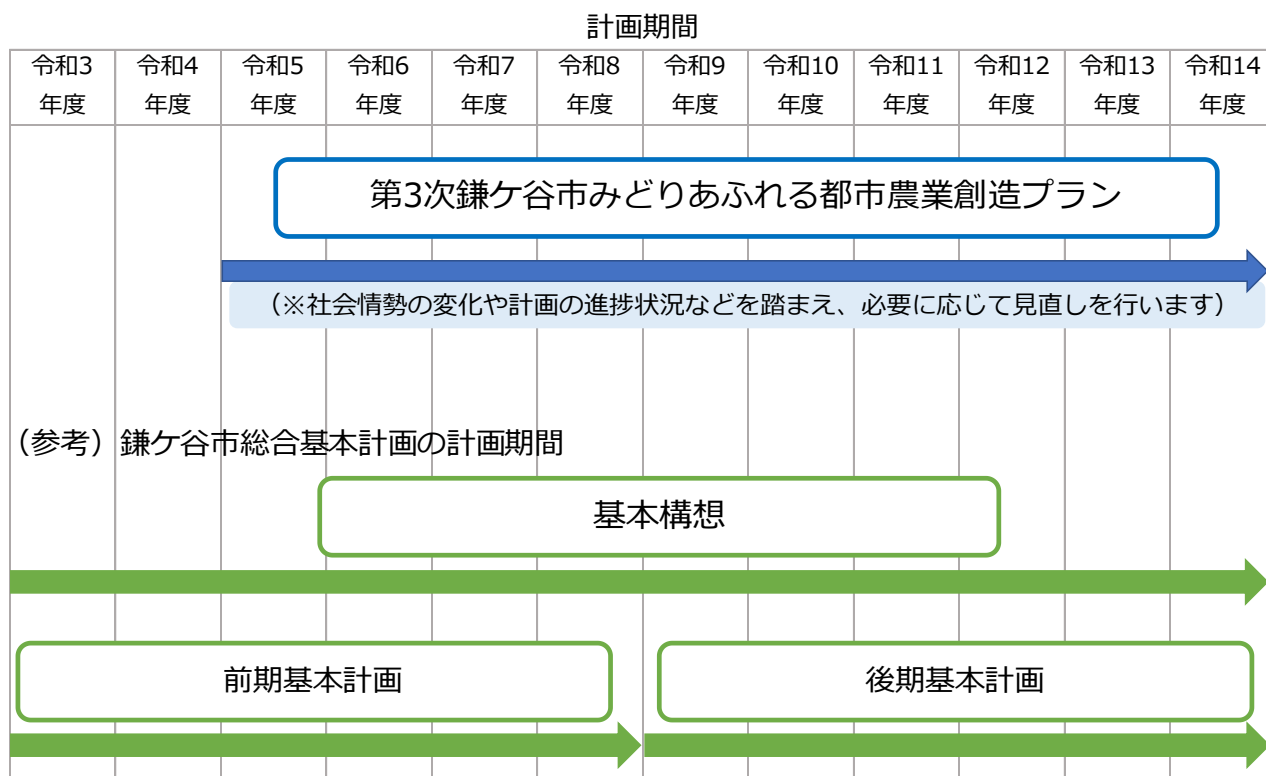
本市の農業は、都市化の影響を受けながらも、都市農業として発展してきました。しかし、近年はさらに都市化が進展し、農住混在化が進んだことにより、その取り巻く環境はますます厳しいものとなっています。

都市における農業は、生鮮食料品を中心とした農畜産物供給の機能だけでなく、自然環境の保全、緑の確保、水害防止等の公益的機能も併せ持っており、人々が生活する上で非常に重要な役割を果たしています。

このような農業を、今後とも守り発展させるべく、平成 25 年に策定した「第 2 次鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン（農業振興ビジョン）」での取り組み実績や現在の本市の農業情勢を踏まえつつ、持続性のある農のまちづくり実現に取り組むための指針として本計画を策定します。

2 計画期間

本計画の期間は、令和 5 年度を初年度とし、令和 14 年度までの 10 年間とします。なお、期間中であっても、社会情勢の変化や計画の進捗状況などを踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

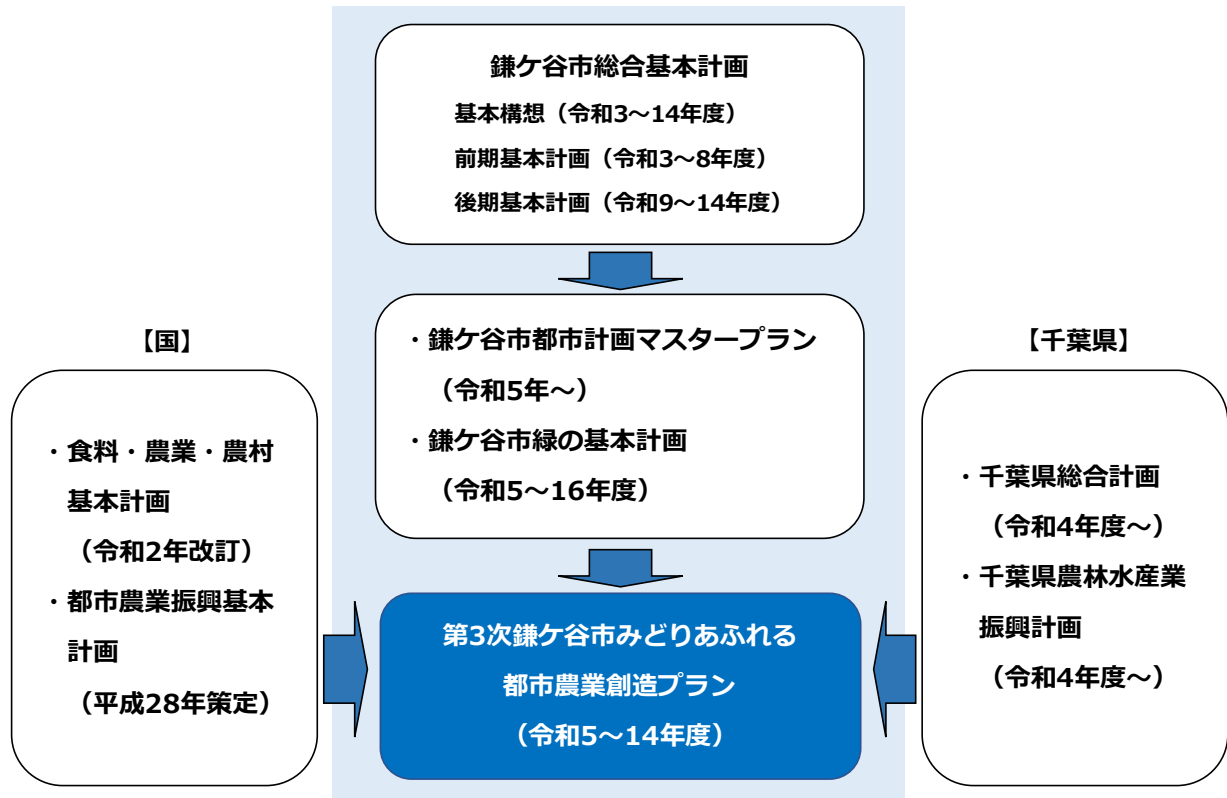


3 計画の位置づけ

本計画は、「鎌ケ谷市総合基本計画」を上位計画とし、同計画の農業振興分野に関する指針を定めた個別計画に位置付けられます。また、本市の他課の関連する分野の計画、国や県の農業振興に関する計画と整合を図り、連携して推進します。

併せて、本計画は、都市農業振興基本法における都市農業の振興に関する計画として位置づけます。

上位・関連計画



第2章 鎌ヶ谷市の農業を取り巻く環境と現状

1 鎌ヶ谷市の概況

本市は千葉県の北西部に位置し、都心から 25 km 圏内にあります。市の面積は 21.08 平方 km で、市内には東武野田線（東武アーバンパークライン）、新京成線、北総線、成田スカイアクセス線の私鉄 4 路線が乗り入れ、8 駅が立地しています。また、国道 464 号、主要地方道千葉鎌ヶ谷松戸線、主要地方道船橋我孫子線、主要地方道市川印西線など、東西、南北等の方向に道路網が発達しています。こうした恵まれた位置関係と交通利便性を背景に、首都近郊の住宅都市として発展してきました。

人口は、昭和 30 年代後半からの宅地開発の進行を背景に増加が進み、平成 8 年 12 月には人口 10 万人を超え、平成 30 年 8 月に 11 万人に到達しました。その後大きな増減はなく、令和 2 年 10 月時点の人口は、109,932 人となっています。

鎌ヶ谷市の位置



(出典) 鎌ヶ谷市「鎌ヶ谷市総合基本計画」

2 鎌ヶ谷市の農業を取り巻く主な環境変化

本市の農業は、市街地及びその周辺で営まれる都市農業として発展してきましたが、その取り巻く環境は大きく変化しています。本項では、主な環境変化を整理しました。

(1) 都市農業に対する意識の変化

都市部の農地は、過去には「宅地化すべきもの」と捉えられる時代もありました。しかし、平成 27 年に「都市農業振興基本法」が制定されるとともに、平成 28 年に国の「都市農業振興基本計画」が定められ、現在都市農地は「あるべきもの」と位置づけられています。都市農業は、新鮮な農産物の供給、農業体験・交流活動の場や心安らぐ緑地空間の提供、都市住民の農業への理解醸成、国土・環境の保全、災害時の防災空間の確保など多面的な機能を有しており、その役割への期待が高まっています。そのため、生産緑地及び特定生産緑地[※]の制度活用も含めて、今後も都市農地を保全することが求められています。

(2) 価値観やライフスタイルの変化

社会の成熟に伴い、豊かさの価値観について、物質的な面で生活を豊かにするだけでなく、心の豊かさやゆとりある生活を求める価値観が強まっています。こうした中、都市部では、潤いや安らぎのある生活を求め、余暇や退職後のセカンドライフとして農業に携わったり、田舎への移住を志向するなど、「農ある暮らし」の人気が高まっています。

また、核家族化や単身世帯の増加など家族構成の変化がみられ、一世帯あたりの人数が少なくなっていることから、農産物もカット済みの野菜や調理済みの商品など加工品のニーズが高まっています。

さらに、女性の社会進出も進んでおり、農業分野でも女性のさらなる活躍が期待されています。

本市の農業振興にあたっては、こうした価値観やライフスタイルの変化を踏まえた施策を展開することが求められています。

(3) 情報化及びスマート農業技術の進展

AI、ビッグデータ[※]の活用や IoT[※]化の進展などデジタル分野の目まぐるしい技術進歩が進み、農業分野においても、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用し、省力化や高品質生産を実現するスマート農業[※]が注目を浴びています。自動走行システムによる省力化やセンサー管理による生産性向上・高品質化、草刈りの無人化など農家の抱える課題に応える技術が既に多く開発されており、今後もさらなる技術の進展と普及拡大が期待されています。



コンピューター制御を活用したビニールハウス

(4) 温室効果ガス削減や環境保全に対する意識の高まり

地球温暖化が深刻化する中、温室効果ガスの排出を抑制し、実質ゼロとする「脱炭素」に向けた取組みが世界で推進されています。また、公害の発生防止やリサイクル活動など、環境保全に向けた意識も高まっています。

農業分野をみると、国は令和3年に「みどりの食料システム戦略」を策定し、農林水産業のCO₂ゼロエミッション化[※]の実現、化学農薬使用量(リスク換算)の50%低減、化学肥料使用量の30%低減、耕地面積に占める有機農業の取組み面積の割合を25%に拡大等の目標を掲げています。

このように、農業分野においても、地球温暖化や環境負荷低減に向けた取組みを推進する機運が高まっています。

(5) 経済のグローバル化の進展

近年、FTA（自由貿易協定）やEPA（経済連携協定）の締結が拡大し、経済のグローバル化が進んでいます。

農業分野では、海外からの輸入農産物との競争にさらされる一方で、日本の高品質な農産物を海外に輸出するチャンスも拡大しており、令和3年には農林水産物・食品の輸出額が1兆円を突破しました。国では、農林水産物・食品について、令和7年までに2兆円、令和12年までに5兆円という目標を掲げており、今後もさらなる輸出拡大を見込んでいます。

また、コロナ禍以前は県内の観光農園に多くの外国人観光客が訪れており、コロナ禍収束後にはこうしたインバウンド需要が回復することも期待されます。

少子高齢化によって内需の縮小が見込まれる中、こうした輸出やインバウンドといった外需を取り込んでいくことが、日本の農業の発展にとって重要性を増しています。

(6) 自然災害の激甚化

近年、台風や豪雨など自然災害が激甚化しており、全国で人的・物的被害が相次いでいます。令和元年には、千葉県でも、令和元年房総半島台風、東日本台風、10月25日の大雨によって多くの方が被災し、農林水産業でも甚大な被害が発生しました。

風水害は農業への影響が大きく、本市でも農業者からの相談が増加傾向にあります。地球温暖化によって今後も風水害のさらなる激甚化が懸念されており、農業分野でも対応が求められています。



令和4年6月3日の降雹により傷付いた梨



令和元年房総半島台風により被災したハウス

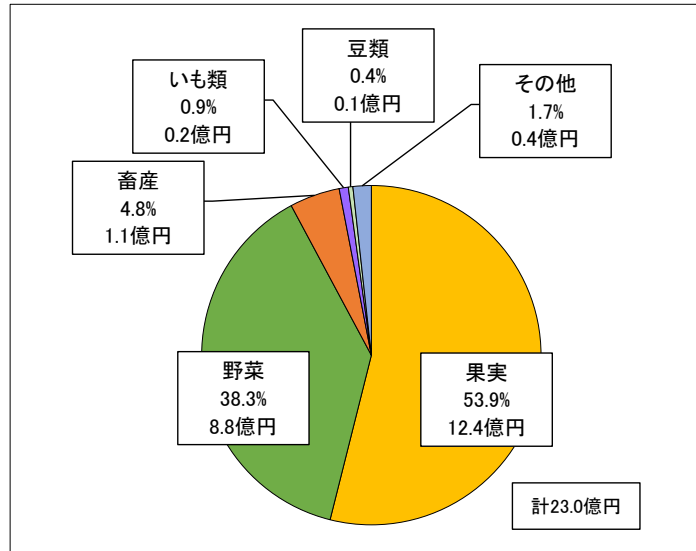
3 鎌ヶ谷市の農業の現状

(1) 農業産出額

本市の農業産出額は23億円で、種類別には、果実12.4億円（構成比53.9%）、野菜8.8億円（同38.3%）、畜産1.1億円（同4.8%）の順に大きくなっています。

果実の割合は、県の産出額111億円の11%を占めており、特に高いことが特徴といえます。

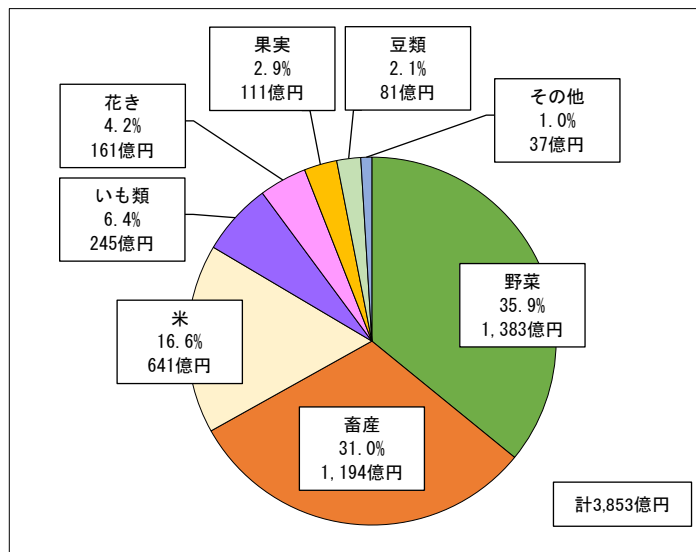
鎌ヶ谷市の農業産出額と割合



(注) 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。また、「その他」の金額は、「計」から上記グラフに記載した個別項目の金額を引いて算出しています。

(出典) 農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」（令和2年）

千葉県農業産出額と割合



(注) 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。また、「その他」の金額は、「計」から上記グラフに記載した個別項目の金額を引いて算出しています。

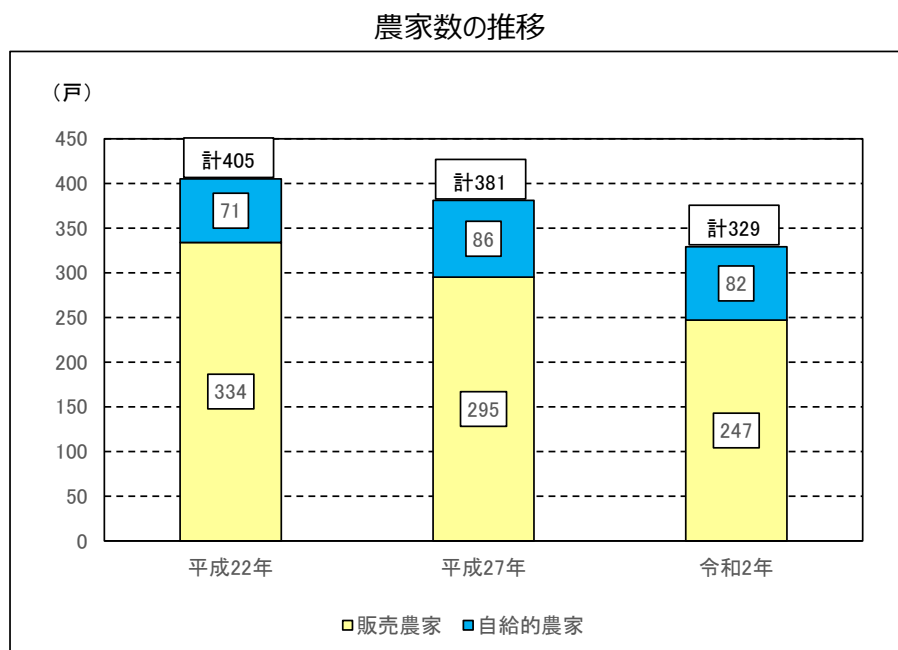
(出典) 農林水産省「生産農業所得統計」（令和2年）

(2) 農家の現状

ア 農家数の推移

農家数は、平成22年:405戸 → 平成27年:381戸 → 令和2年:329戸（平成22年比▲18.8%）と減少傾向にあります。

平成22年との比較では、自給的農家[※]が、平成22年:71戸 → 令和2年:82戸（同+15.5%）と増加する一方、販売農家[※]は、平成22年:334戸 → 令和2年:247戸（同▲26.0%）と減少しています。



(出典) 農林水産省「農林業センサス」



イ 販売金額規模別の農業経営体[※]数

販売金額規模別の農業経営体[※]数をみると、構成比では「100～500万円未満」（37.1%）の割合が最も高くなっています。

平成22年と令和2年を比較すると、「100万円未満」（減少率▲26.3%）、「100～500万円未満」（同▲32.1%）の減少率が3割前後であるのに対し、「500万円～1,000万円未満」（同▲18.5%）、「1,000万円以上」（同▲21.2%）の減少率は2割前後となっており、販売金額が小さい農家の減少率がより大きくなっています。

販売規模別の農業経営体数

(戸・%)

販売金額	平成22年	令和2年		
	戸数	戸数	構成比	平成22年比
100万円未満	57	42	16.7%	▲ 26.3
100～500万円未満	137	93	37.1%	▲ 32.1
500～1,000万円未満	92	75	29.9%	▲ 18.5
1,000万円以上	52	41	16.3%	▲ 21.2
計	338	251	100.0%	▲ 25.7

(出典) 農林水産省「農林業センサス」



ウ 主な品目別の農業経営体※数

主な品目別の経営体数をみると、野菜類では「だいこん」（79 経営体）、果樹類では「日本なし」（144 経営体）などの経営体数が多くなっています。

主な品目別の経営体数

		(経営体) 経営体数			(経営体) 経営体数
野菜類	だいこん	79	果樹類	日本なし	144
	ねぎ	56		ぶどう	18
	にんじん	45		くり	8
	ほうれんそう	40		その他の果樹	6
	さといも	32		温州みかん	2
	なす	32		その他かんきつ	1
	はくさい	31		稲・ いも類	ばれいしょ
	キャベツ	30	かんしょ		7
	きゅうり	28	水稲(食用)		3
	トマト	27	大豆		3
	ブロッコリー	23	その他の豆類	9	
	ピーマン	12	畜産	乳用牛	1
	たまねぎ	8		肉用牛	1
	いちご	7	花き類	切り花類	3
	すいか	5			
	レタス	4			
	やまのいも	1			
その他の野菜	41				

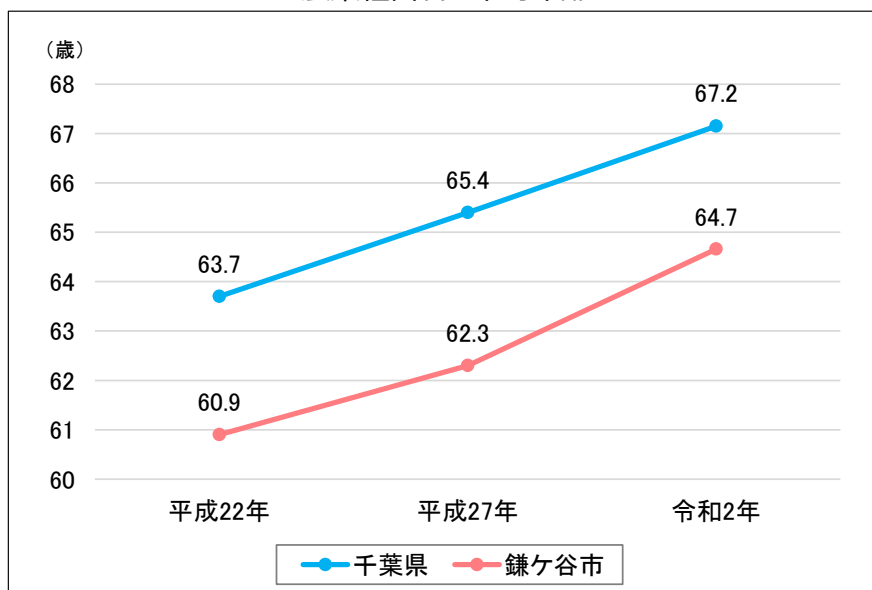
(注) 上記品目は主なもののみ掲載しています。

(出典) 農林業センサス (令和2年)

エ 農業経営者の平均年齢

令和2年における農業経営者の平均年齢は64.7歳で、千葉県平均(67.2歳)を下回っています。ただし、平成22年(60.9歳)と比較すると、3.8歳上昇しています。

農業経営者の平均年齢



(出典) 内閣府「地域経済分析システム (RESAS)」

(3) 農地の現状

ア 農地の分布と生産緑地面積

本市の農地は、市街化区域にも多く分布しており、典型的な都市農業が営まれています。

生産緑地の市街化区域に対する面積比をみると、5.7%と県内で、最も高い水準となっており、市街地と共存して農業が営まれています。

農地の分布状況



市街化区域と生産緑地の面積

市町村	市街化区域面積 (ha)	生産緑地		
		地区数 (地区)	面積 (ha)	対市街化区域面積比
鎌ヶ谷市	1,073	145	61.27	5.7%
白井市	845	41	38.53	4.6%
船橋市	5,509	486	171.10	3.1%
流山市	2,151	248	66.37	3.1%
柏市	5,453	550	157.33	2.9%
松戸市	4,444	522	123.42	2.8%
市川市	3,984	308	87.09	2.2%
八千代市	2,238	170	45.11	2.0%
我孫子市	1,615	123	28.61	1.8%
四街道市	1,245	73	19.03	1.5%
野田市	2,395	181	30.61	1.3%
成田市	2,057	77	25.42	1.2%
富津市	1,158	55	12.49	1.1%
習志野市	1,862	82	13.47	0.7%
千葉市	12,882	411	88.96	0.7%
袖ヶ浦市	2,187	61	8.03	0.4%
市原市	6,131	135	21.14	0.3%
木更津市	3,401	83	10.74	0.3%
君津市	2,195	24	3.62	0.2%
佐倉市	2,424	15	3.74	0.2%
印西市	1,907	17	2.50	0.1%

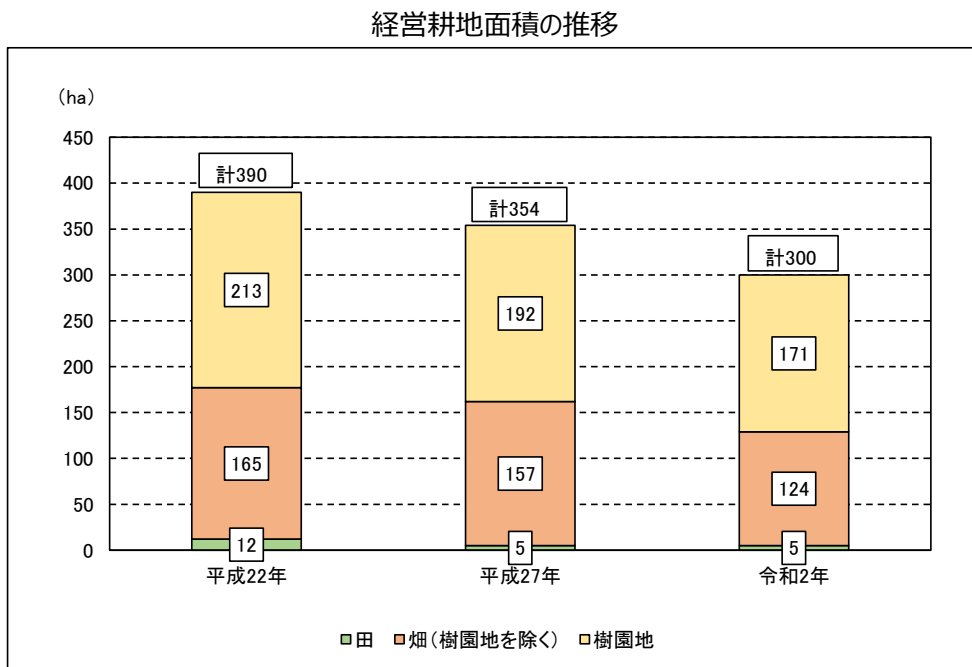
(注) 生産緑地地区は
令和4年3月31日現在。
市街化区域面積は
平成30年3月31日現在。
(出典) 千葉県ホームページの
データより作成

(出典) 都市計画基礎調査 (令和3年)

イ 経営耕地面積の推移

経営耕地面積は、平成 22 年:390ha → 平成 27 年:354ha → 令和 2 年:300ha（平成 22 年比▲23.1%）と減少傾向にあります。

平成 22 年との比較では、樹園地が平成 22 年:213ha → 令和 2 年:171ha（同▲19.7%）、畑が平成 22 年:165ha → 令和 2 年:124ha（同▲24.8%）、田が平成 22 年:12ha → 令和 2 年:5ha（同▲58.3%）となっています。



(出典) 農林水産省「農林業センサス」



4 前計画での取組み

本市では、前計画（第2次鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン）の計画期間において、以下のような取組みを行ってきました。取組みの中には、農業の高齢化や担い手不足などの理由により、達成できなかった点もありますが、本計画では、これまでの成果を承継しつつ、環境変化や課題に対応した施策を展開します。

前計画での取組み

基本方針	基本施策	施策	取り組んできたこと、その成果
(1) 持続性のある農業経営の確立	①担い手の育成	a 農業経営者（経営体）の育成	農業経営改善計画認定申請書や家族経営協定※書の作成を支援することで、認定農業者 22 名の認定や、家族経営協定 25 件の締結がありました。
		b 新規就農者の確保・育成	新規就農相談に臨時対応するとともに、農業青少年クラブ（4Hクラブ）※への研修機会の創出など支援を実施し、確保及び育成につなげました。
		c 農業者への研究活動支援	梨及び野菜の共進会（品評会）を開催し、生産技術の改良及び品質への意識向上を図ることで、農業者の営農意欲を高め、近年では県の梨コンクールにて2年連続一等賞（農林水産大臣賞）を受けるなど成果が表れています。 また、国や県から情報提供のあるシンポジウムや勉強会等について、農業者へ周知し、参加者の増加につなげました。
	②流通システムの改善	a 農家の販路拡大の支援	市ホームページに、市内にある梨直売所（31件）の情報を掲載することで、販路拡大を支援しました。
		b 直売体制の拡大	毎週土曜日に市役所駐車場にて“かまがや朝市※”を開催し、鎌ヶ谷市農産物を販売することで、農業者の直売体制の拡大につなげました。
		c 異業種交流の推進	農業部門と商工業部門の交流を深め、梨を使用したスパークリングワインやサイダー、肉まんなどを商品開発しました。
	③鎌ヶ谷ブランドの推進	a 本市を代表する農産物のPR促進	「鎌ヶ谷市農産物ブランド化推進協議会※」を適宜開催し、市内農業団体及び個人農業者をブランド団体・農業者として認定しました。 また、オリジナルロゴマークの入った幟や暖簾を配付することで、市場関係者や消費者に対する、鎌ヶ谷市農産物の周知を図り、ブランド化を促進しました。
		b 梨・野菜等を活用した新品種及び加工品の研究開発支援	各種PRイベントなどで、梨ワインやスパークリングワインの普及活動を実施することで、鎌ヶ谷ブランドの推進に寄与しました。

基本方針	基本施策	施策	取り組んできたこと、その成果
(1) 持続性のある農業経営の確立（続き）	④環境に配慮した農業の推進	a 土づくりを基本とした環境保全型農業 [※] の確立	農業者に対し、エコファーマー認定制度の周知を図ることで、3名の新規認定者増を達成し、環境保全型農業 [※] や、持続的な農業経営の推進につなげました。
		b 関係機関・大学の連携	農業事務所など農業関係機関と連携し、研修会や講習会を実施することで、農業生産技術の向上と品種改良等を進めました。
		c 剪定枝リサイクルの継続実施	剪定作業期間に合わせ、市内中沢地区に設置した集積場にて果樹剪定枝を回収し、堆肥として活用しました。また、平成29年度よりバイオマス発電を、令和2年度からは糞尿吸着材への活用を試行実施し、734 m ³ の果樹剪定枝をリサイクルしました。
		d 使用済農業資材のリサイクル	年2回、農業用廃プラスチックを農業者より回収（令和2年度は18,990 kg）し、東金にあるリサイクル工場に搬入することで、農業廃材の再利用等を推進し、焼却処分量の減少につなげました。
(2) 農家（生産者）と市民（消費者）の共存共栄	①市民が農業とふれあえる空間・体験の場づくり	a 農地の確保	農業経営基盤強化促進法に基づく利用権設定等促進事業 [※] を実施し、令和2年度時点において114,341 m ² の農地の集積化を進めることで、農産物供給機能の維持や耕作放棄地 [※] の防止につなげました。
		b 市民農園 [※] の推進	公営市民農園 [※] の維持管理や周知に努め、市民による農園の利用を推進することで、利用率90%を達成し、農業の理解浸透と農業に接する場づくりを行いました。
		c 援農ボランティアの組織化	定期的に「鎌ヶ谷市援農ボランティア連絡協議会」を開催し、ボランティアの活動状況の把握や情報交換を実施しました。
	②農家（生産者）と市民（消費者）の交流推進	a 市民（消費者）との交流推進	「農業まつり 秋の収穫・感謝祭」や市内小学生及び未就学児を対象とした「親子梨狩り体験」など各種イベントを実施し、農家（生産者）と市民（消費者）との交流を推進することで、相互理解を深めました。



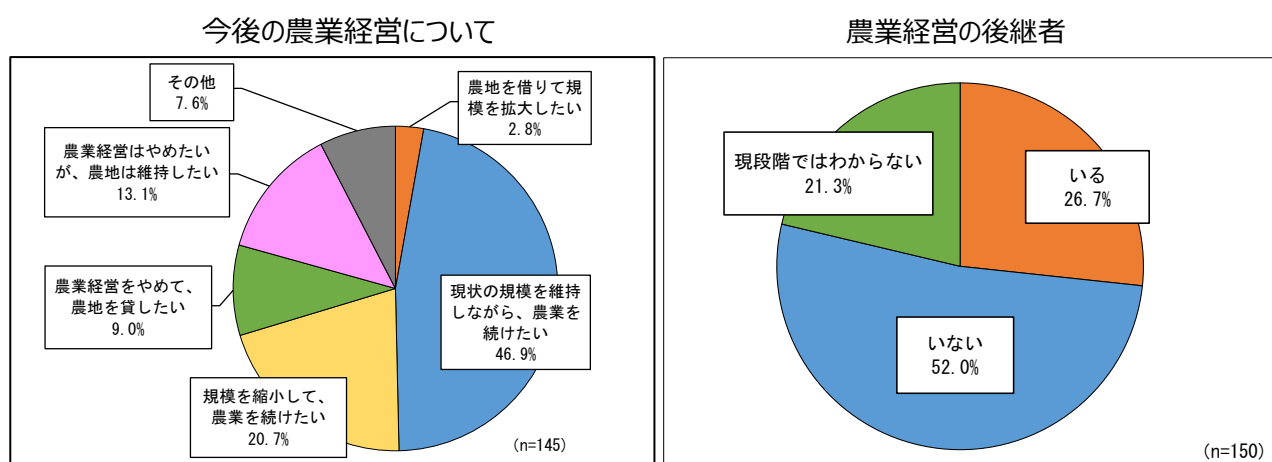
第3章 調査結果からみえる課題及び対応の方向性

1 農家の減少への対応

本市の農家数は、平成 22 年:405 戸 → 平成 27 年:381 戸 → 令和 2 年:329 戸（平成 22 年比▲18.8%）と、過去 10 年間で 2 割近く減少しています。この間、農業経営者の平均年齢は、60.9 歳から 64.7 歳に上昇しています。

生産者アンケートによれば、今後の意向についても、農業経営をやめたいとする割合が 22.1%（＝「農業経営はやめたいが、農地を維持したい」（13.1%）と「農業経営をやめて、農地を貸したい」（9.0%）の合計）、農業経営の後継者がいないとする割合は 52.0%に上っています。

こうした状況から、今後も農家の減少傾向は続くことが予想されます。そのため、農業の持続性を確保するために、担い手を確保・育成することが急務といえます。



(注 1) 単一回答形式。

(注 2) 比率は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならないことがあります。

(出典) 鎌ヶ谷市「農業生産者向けアンケート」(令和 4 年 8～9 月)

(注 1) 単一回答形式。

(注 2) 比率は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならないことがあります。

(出典) 鎌ヶ谷市「農業生産者向けアンケート」(令和 4 年 8～9 月)

上記課題を解決するための取組み例

- ・ 農業経営の法人化の促進
- ・ 就農に関する相談窓口の設置
- ・ 就農希望者と受入れ農家のマッチング
- ・ 農業士[※]等による技術継承の促進
- ・ 農家とボランティアの分業体制の確立

2 所得減少への対応

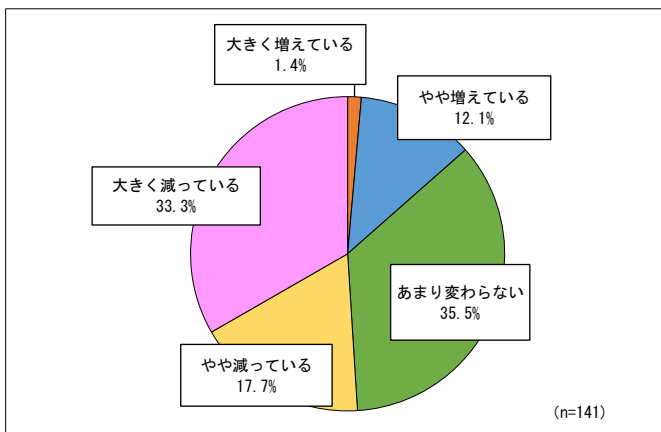
生産者アンケートによれば、本市の農業者の農業販売額は、5年前と比べ51.0%が「減少している」（＝「やや減っている」（17.7%）と「大きく減っている」（33.3%）の合計）と回答しており、厳しい経営環境にあることがうかがわれます。

また、前掲の農業経営の後継者がいないと回答した方にその理由を尋ねたところ、「農業所得が少ないから」が47.3%で最も高くなっています。そのため、後継者確保にあたっては、農家の所得向上が重要な事項といえます。

一方、本市には多くの直売所が立地しており、一般的な市場出荷以外にも多様なチャネルで販売できるポテンシャルを有しています。また、梅干しやジャム、飲むお酢、ドライフルーツ、ワインなど、加工品の製造・販売を積極的に推進している生産者もみられます。さらに、昨今では、スマート農業※技術の進展により、センサーによる栽培管理や有害鳥獣被害対策など、生産性向上に寄与する技術も生まれています。

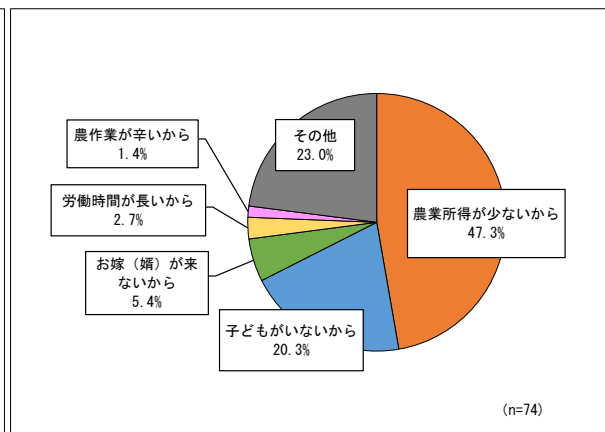
こうした販路拡大や付加価値・生産性向上に関する取組みを支援し、農家の販売額や所得向上を目指すことが必要と言えます。

5年前と比較した農業販売



(注1) 単一回答形式。
 (注2) 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。
 (出典) 鎌ヶ谷市「農業生産者向けアンケート」(令和4年8～9月)

後継者がいない理由



(注1) 単一回答形式。
 (注2) 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。
 (出典) 鎌ヶ谷市「農業生産者向けアンケート」(令和4年8～9月)

上記課題を解決するための取組み例

- ・ブランド認定農家の拡充
- ・鎌ヶ谷市農産物ブランド化ロゴマーク・キャッチフレーズの活用
- ・SNSによる情報発信
- ・6次産業化※の推進
- ・生産者のスマート農業※の導入支援
- ・市ホームページや広報を活用した販売の推進
- ・鎌産鎌消（地産地消）の推進

3 農地減少への対応

本市の経営耕地面積は、平成 22 年に 390ha でしたが、令和 2 年には 300ha（平成 22 年比 ▲23.1%）となり、過去 10 年間で約 2 割減少しています。

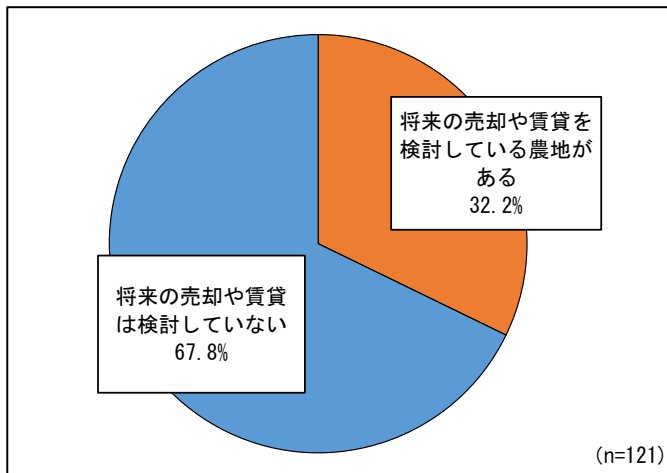
背景には担い手不足や厳しい経営環境があるとみられ、今後も農地の減少や耕作放棄地[※]の増加が懸念されます。

一方、生産者アンケートで農地保有者の将来の売却・賃貸意向について尋ねたところ、「将来の売却や賃貸を検討している農地がある」割合が 32.2%となっています。

また、市民農園[※]や体験農園の利用意向について、消費者アンケート回答者（市内住民）の 71.0%と 7 割以上が利用したいと回答しています。

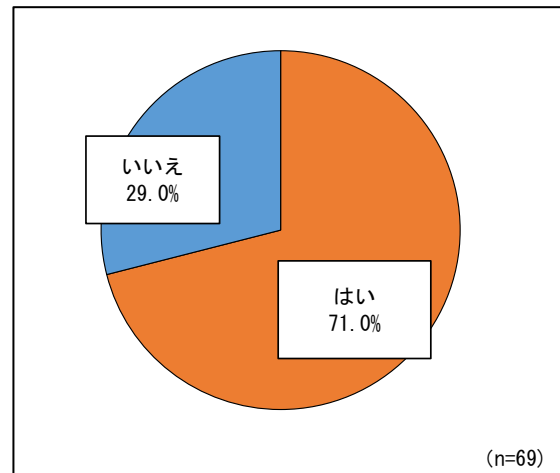
今後は、規模縮小や廃業を検討する農家の農地の売買・賃貸借のマッチングや市民農園[※]・体験農園等としての活用を含め、市内の優良農地を保全していく施策を推進する必要があります。

将来の売却や賃貸について



(注 1) 単一回答形式。
 (注 2) 比率は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならないことがあります。
 (出典) 鎌ヶ谷市「農業生産者向けアンケート」（令和 4 年 8～9 月）

市民農園や体験農園の利用意向（市内住民）



(注 1) 単一回答形式。
 (注 2) 比率は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならないことがあります。
 (出典) 鎌ヶ谷市「『農業』に関するアンケート」（消費者向け・令和 4 年 6～8 月）

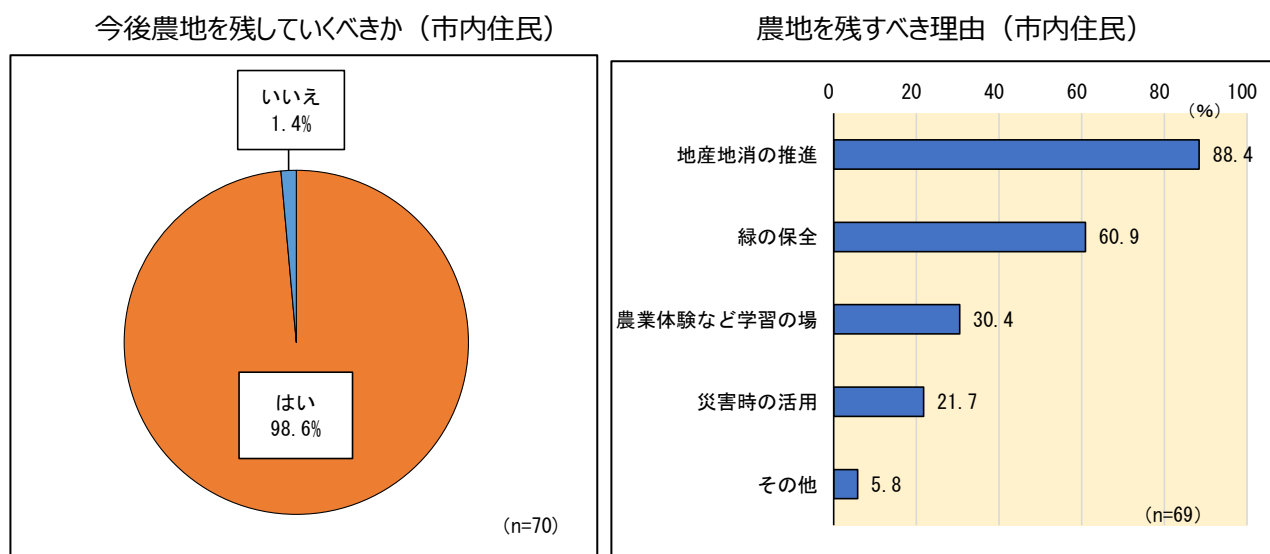
上記課題を解決するための取組み例

- ・ 耕作放棄地[※]対策の推進
- ・ 農地承継・貸借の促進
- ・ 生産緑地[※]の指定促進
- ・ 新規市民農園[※]の整備

4 市民の農業に対する理解促進の必要性

本市の農業には、市街地と農地とが隣接して行われる都市農業であるという特性があります。都市農業の振興にあたっては、市民の理解が不可欠です。そのため、市民と生産者との交流推進や、教育との連携を図り、市民の農業への理解を促進することが必要です。

特に、市民の98.6%が「農地を保全すべき」としており、その理由として、地産地消の推進や緑の保全を挙げています。都市農業には、こうした機能のほか、身近な農業体験・交流活動の場の提供、災害時の防災空間の確保など様々な機能があるため、多面的機能に対する理解を深めることが重要です。



(注1) 単一回答形式。

(注2) 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

(出典) 鎌ヶ谷市「『農業』に関するアンケート」
(消費者向け・令和4年6～8月)

(注) 複数回答形式。

(出典) 鎌ヶ谷市「『農業』に関するアンケート」
(消費者向け・令和4年6～8月)

上記課題を解決するための取組み例

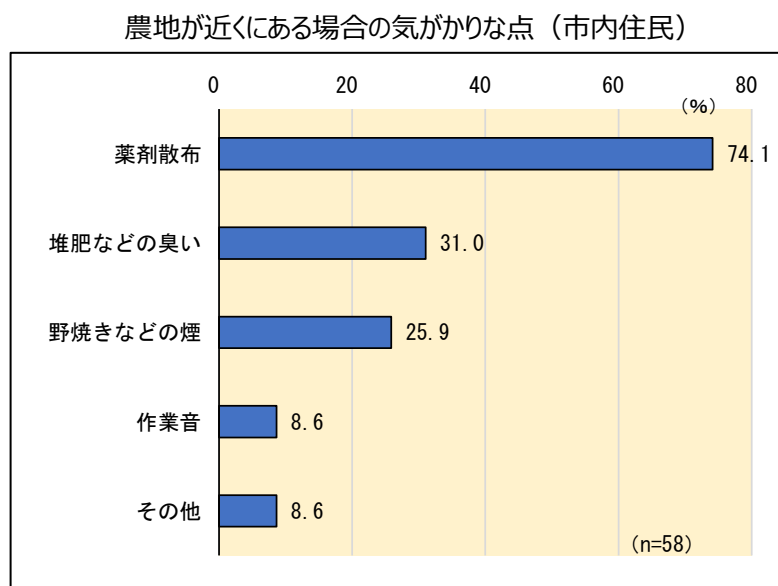
- ・ 市民農園[※]の維持及び環境改善
- ・ 農福連携[※]の推進
- ・ 教育現場での農業体験の推進
- ・ 学校給食や保育園給食での農産物の活用 [鎌産鎌消（地産地消）の推進]

5 環境に配慮した農業推進の必要性

消費者アンケートでは、農地が近くにある場合の気がかりな点として、薬剤散布を挙げる回答者が74.1%と多くなっています。市街地と共存する都市農業において、こうした消費者の声に配慮することは、本市農業の持続性確保にとって重要と言えます。

一方、生産者アンケートでも、「土づくりを基本とした環境保全型農業^{*}の確立（安全な土づくりの推進、有機質肥料の推進等）」を重要と考える割合が66.0%と高い割合となっており、減農薬・無農薬をはじめとする環境配慮型農業への意識が高い状況にあります。

こうした状況を踏まえ、自然と調和した環境配慮型の農業を推進していくことが必要と言えます。



(注) 複数回答形式。

(出典) 鎌ヶ谷市『農業』に関するアンケート（消費者向け・令和4年6～8月）

上記課題を解決するための取組み例

- ・ 有機質肥料や減農薬減化学肥料の推進
- ・ 農業環境対策（防薬、防臭、防煙等）の推進
- ・ 果樹剪定枝等リサイクルの継続的実施
- ・ 農業廃棄物リサイクルの継続的実施

第4章 鎌ヶ谷市の農業振興指針

1 鎌ヶ谷市の農業の将来像

本市では、前計画である「第2次鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン」において、将来像に「市民が支える都市農業のまち かまがや ―農家（生産者）と市民（消費者）の強いパートナーシップ―」を掲げ、各施策を推進してきました。

このテーマは、都市農業という特性を有する本市にとって普遍的なものであり、平成27年に都市農業振興基本法が制定され、都市農業の多面的機能の発揮が強く求められている社会情勢を考慮すると、今後も本市が目指す農業の将来像としてふさわしいものと言えます。

そのため、本市の農業が目指す将来像は、前計画を継承し、以下のとおり定めます。

市民が支える都市農業のまち かまがや
―農家（生産者）と市民（消費者）の強いパートナーシップ―

2 基本方針

本計画では、上記将来像を実現するため、次の3つの基本方針に沿って施策を展開していきます。

（1） 持続性のある農業の確立

担い手の減少や環境保全の必要性等の課題がある中、本市の農業が将来にわたって持続的に発展していくため、担い手の確保・育成や、環境と調和した農業の推進に取り組めます。

（2） 農業経営の魅力向上

農家の所得減少という課題に対応すべく、付加価値や生産性の向上、販路の拡大といった農家の収入・所得の向上に寄与する施策を展開し、農業経営の魅力を高めます。

（3） 農家（生産者）と市民（消費者）の共存共栄

市内の農地減少が進む中、都市農地の保全に向けた取組みを推進するとともに、生産者と消費者が交流する場・機会を積極的に提供し、生産者と消費者の共存共栄を目指します。

3 施策体系

将来像	基本方針	基本施策	施策
<p>市民が支える都市農業のまち かまがや ― 農家（生産者）と市民（消費者）の強いパートナーシップ ―</p>	<p>(1) 持続性のある農業の確立</p>	<p>ア 担い手の育成</p>	<p>(ア) 農業経営者（経営体）の育成</p>
			<p>(イ) 新規就農者の確保・育成</p>
			<p>(ウ) 農業者への研究活動支援</p>
			<p>(エ) 援農ボランティアの活躍推進</p>
		<p>イ 環境に配慮した農業の推進</p>	<p>(ア) 環境保全型農業の確立</p>
			<p>(イ) 剪定枝等リサイクルの継続実施 (ウ) 使用済み農業資材のリサイクル</p>
	<p>(2) 農業経営の魅力向上</p>	<p>ア 付加価値と生産性の向上</p>	<p>(ア) 本市を代表する農産物のPR促進</p>
			<p>(イ) 新品種及び鎌ヶ谷市農産物を活用した加工品の開発支援</p>
			<p>(ウ) 異業種交流の推進</p>
			<p>(エ) スマート農業の推進</p>
		<p>イ 販路拡大と地産地消の推進</p>	<p>(ア) 農家の販路拡大の支援</p>
			<p>(イ) 地域での直販体制の拡大</p>
<p>(3) 市民農家（生産者）との 共存共栄</p>	<p>ア 農地の保全と市民が農業とふれあえる場づくり</p>	<p>(ア) 優良農地の保全</p>	
		<p>(イ) 市民農園の推進</p>	
	<p>イ 農家（生産者）と市民（消費者）の交流推進</p>	<p>(ア) 市民（消費者）との交流推進</p>	
		<p>(イ) 教育との連携</p>	

(注) ★印は、重点的に推進する取組み。

取組み	
a	認定農業者制度及び家族経営協定の促進
b	農業経営の法人化の促進
c	女性農業者の育成
d	農業者の健康管理の推進
a	就農に関する相談窓口の設置 ★
b	農業青少年クラブ（４Ｈクラブ）活動への支援
c	就農希望者と受入れ農家のマッチング
a	共進会の開催
b	技術研修会や先進事例報告会の開催及び周知
c	農業士等による技術継承の促進
d	農業者同士の研究活動に対する支援の促進
a	ボランティアに対する講習会、研修会の開催
b	農家とボランティアの分業体制の確立 ★
c	農家に対する援農ボランティア制度のPR
a	有機質肥料や減農薬減化学肥料の推進 ★
b	農業環境対策（防薬、防臭、防煙等）の推進
a	果樹剪定枝等リサイクルの継続的実施 ★
a	農業廃棄物リサイクルの継続的実施 ★
a	鎌ヶ谷市農産物ブランド化推進協議会の運営
b	ブランド認定農家の拡充 ★
c	鎌ヶ谷市農産物ブランド化ロゴマーク・キャッチフレーズの活用
d	鎌ヶ谷市マスコットキャラクター“かまたん”による鎌ヶ谷市農産物の魅力発信や消費喚起
e	SNSによる情報発信
a	6次産業化の推進
b	農業事務所、農業協同組合（JA）等との連携強化
a	農商工連携の支援
a	生産者のスマート農業の導入支援
a	市ホームページや広報等を活用した販売の推進 ★
b	鎌産鎌消（地産地消）の推進
c	被災農産物等の活用支援
d	関係機関と連携した農家の輸出支援
a	かまがや朝市開催の支援
b	地域直売イベントの開催
c	農業関係機関との連携による販売
a	耕作放棄地対策の推進
b	農地承継・貸借の促進 ★
c	生産緑地の指定促進
d	農地の持つ多様な機能のPR
a	新規市民農園の整備 ★
b	市民農園の維持及び環境改善
c	農家による技術栽培指導の実施
a	農業まつりや収穫体験など各種イベントの開催
b	農福連携の推進
a	学校給食や保育園給食での農産物の活用
b	教育現場での農業体験の推進 ★

第5章 各施策の取組み内容

各施策の具体的な取組み内容は以下のとおりです。

なお、本市の農業を取り巻く情勢や生産者・消費者のニーズ等を踏まえ、特に重要性が高いと考えられる取組みについては、「★重点」を付しています。当該取組みについては、本計画期間において特に優先的・重点的に推進します。

(1) 持続性のある農業の確立

ア 担い手の育成

(ア) 農業経営者（経営体）の育成

認定農業者制度[※]や家族経営協定[※]の促進、農業経営の法人化や女性農業者の育成など、農業の担い手となる農業経営者（経営体）の育成に取り組みます。

【取組み内容】

a 認定農業者制度[※]及び家族経営協定[※]の促進
認定農業者制度 [※] の活用や家族経営協定 [※] の締結によるメリットを、チラシやパンフレットなど啓発物資を作成し周知することで、制度の活用や締結を促進し、農業経営者の経営基盤の充実と、持続性のある経営体制の確立を図ります。
b 農業経営の法人化の促進
農業経営の法人化によるメリット（家計と経営の分離による経営管理の効率化、対外信用力の向上、人材確保の促進、経営継承の円滑化等）をホームページ等により周知し、意欲ある農業経営者の法人化を促進します。
c 女性農業者の育成
農業関係機関と連携した技術指導や、女性農業者同士の交流の場づくり、農業者団体への積極的な登用を促すことで、女性農業者の育成を図ります。
d 農業者の健康管理の推進
個人経営者の多い農業者の健康増進を図るため、市や農業協同組合（JA）、千葉県厚生農業協同組合連合会、農家代表である地区健康推進委員で組織される本市農家健康管理推進協議会と連携し、検診（健診）の実施や検診（健診）結果により必要な方へは生活習慣の改善や受診を促すことで、農業者の健康管理を推進します。



(イ) 新規就農者の確保・育成

就農希望者がスムーズに就農できるよう、相談窓口の設置や受入農家とのマッチングに取り組むとともに、新規就農者・既存農家の後継者を含めた若手農業者が交流し、技術力を高められるよう支援を行います。

【取組み内容】

a 就農に関する相談窓口の設置 【★重点】
就農までのスキームを記載したパンフレットの作成や、就農希望者に関する情報を農業関係機関と共有することで、新規就農希望者がスムーズに就農できるよう支援します。
b 農業青少年クラブ（4Hクラブ）※活動への支援
農業青少年クラブ（4Hクラブ）※会員相互の連携を通じ、次代を担う農業団体の健全な発展と組織強化を図るため、他市の4Hクラブとの交流会の開催などの活動について支援し、若手農業者のネットワーク構築を図ります。
c 就農希望者と受入れ農家のマッチング
就農希望者が希望を実現できるよう、就農希望者と受入れ意向のある農家の情報をリスト化するなどし、双方への情報提供をスムーズに行うことで、マッチングを積極的に推進します。

(ウ) 農業者への研究活動支援

共進会の開催や研修会・講習会の実施、農業者同士の情報交換の場の提供等を通じ、農業者の技術力向上を支援します。

【取組み内容】

a 共進会の開催
本市で生産された梨・野菜の共進会（品評会）を開催することで、生産技術の改良や品質向上、生産農家の営農意欲向上を図ります。
b 技術研修会や先進事例報告会の開催及び周知
農業事務所と連携した、栽培技術に関する研修会及び先進事例報告会の開催周知や、農業者の意向を反映しながら内容を検討することで、農業者の技術向上を図ります。
c 農業士[※]等による技術継承の促進
農業士 [※] による本市農業者への技術指導講習会等を実施し、栽培技術の継承を促進することで、農業者全体の技術維持・向上を図ります。
d 農業者同士の研究活動に対する支援の促進
各農業者が新たに実証した栽培技術のノウハウ共有や先進的機器等の導入結果といった情報交換の場の提供など、農業者同士が行う研究活動を支援します。

(工) 援農ボランティアの活躍推進

農業の高齢化と担い手不足が顕著化する中、農家の営農を支援する援農ボランティアは大きな力となります。本市でも、援農ボランティアに対する講習会、研修会の開催や、農家とボランティアの分業体制の確立などを通じ、意欲ある援農ボランティアの活躍を推進します。

【取組み内容】

a ボランティアに対する講習会、研修会の開催
本市援農ボランティア連絡協議会に登録しているボランティアを対象とした講習会や研修会を開催することで、農作業技術の向上を図り、また、市が主催する各種イベントへ参加してもらうことで、活躍の場を広げます。
b 農家とボランティアの分業体制の確立 【★重点】
農家が補助を必要とする農作業を明確にし、ボランティアへの講義内容を精査することで、農家とボランティアの分業体制を確立し、双方がよりメリットを感じられる援農ボランティア活動を実現します。
c 農家に対する援農ボランティア制度のPR
援農ボランティアの受け入れ実績のない農家に対し、ボランティアが行うことができる作業を周知することで、受け入れ農家の拡大を図ります。また、受け入れ農家が拡大することにより、農家とボランティアのマッチング率の増加へとつなげます。



イ 環境に配慮した農業の推進

(ア) 環境保全型農業[※]の確立

農業の持続性確保に向けて、安全・安心や環境に配慮した有機質肥料・減農薬減化学肥料の推進や、周辺市街地に配慮した農業環境対策に努めます。

【取組み内容】

a 有機質肥料や減農薬減化学肥料の推進 【★重点】
令和3年5月に策定されたみどりの食料システム戦略を踏まえつつ、有機質肥料や減農薬減化学肥料を利用した農産物栽培に関する情報提供、ちばエコ農産物 [※] の積極的周知など、環境に優しい安全・安心な農産物の生産を支援します。
b 農業環境対策（防薬、防臭、防煙等）の推進
周辺市街地への影響を考慮した営農活動に関する啓発活動や、防薬・防臭・防煙に活用可能なネット・カバーや消臭剤等の導入支援を検討するなど、農業環境対策を推進します。

(イ) 剪定枝等リサイクルの継続実施

野焼きの減少や焼却処理施設の負担軽減に向け、平成12年度から実施している果樹剪定枝等のリサイクルを引続き実施します。

【取組み内容】

a 果樹剪定枝等リサイクルの継続的实施 【★重点】
野焼きに替わる処理方法として農業者から事業の継続的な実施への要望が多くあり、また、焼却処理施設への負担軽減等にも繋がることから、平成12年度より実施している果樹剪定枝等のリサイクルについて処理スキームの見直しを適宜行いながら、引続き実施します。

(ウ) 使用済み農業資材のリサイクル

プラスチックやビニールなどの農業廃棄物を再利用することで、焼却処分量を減らし、環境負荷の低減につなげます。

【取組み内容】

a 農業廃棄物リサイクルの継続的实施 【★重点】
農業生産活動で使用されたプラスチックやビニールなど農業廃棄物を回収し、資源として再利用することで焼却処分量の減少につなげ、環境に配慮した農業を推進します。

(2) 農業経営の魅力向上

ア 付加価値と生産性の向上

(ア) 本市を代表する農産物のPR促進

本市の魅力的な農産物を市の内外にPRし、認知度の向上と消費喚起を図ります。また、ブランド化ロゴマークやキャッチフレーズを活用し、付加価値の向上につなげます。

【取組み内容】

a 鎌ヶ谷市農産物ブランド化推進協議会 [※] の運営
ブランド農家の新規認定や更新、農産物のブランド化を推進するための事業の方針決定を行うため、関係機関や生産者で構成される鎌ヶ谷市農産物ブランド化推進協議会 [※] を運営します。
b ブランド認定農家の拡充 【★重点】
鎌ヶ谷市農産物ブランド化推進協議会 [※] で承認されブランド農家として認定を受けた際のメリットである、ロゴマーク入りの幟や暖簾・シールなど啓発物資の配付や新規啓発物資を考案することで、新規認定や認定の更新を促し、ブランド認定農家の拡充を図ります。
c 鎌ヶ谷市農産物ブランド化ロゴマーク・キャッチフレーズの活用
ブランド認定農家に、農産物ブランド化ロゴマーク・キャッチフレーズを活用していただき、付加価値の向上を図ります。
d 鎌ヶ谷市マスコットキャラクター“かまたん”による鎌ヶ谷市農産物の魅力発信や消費喚起
本市のマスコットキャラクター“かまたん”を使用した直売所の賑やかしや、出荷の際に使用できる物資の配布やイベント・直売所でのPRを行うことにより、農産物の魅力を発信します。
e SNSによる情報発信
新鮮・安心・安全な農産物づくりを行っている様子をSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で発信することで、消費者が安心して農産物を購入しやすい仕組みを構築します。

鎌ヶ谷市農産物ブランド化ロゴマーク・キャッチフレーズ



本市では、「鎌ヶ谷市農産物ブランド化推進協議会[※]」の厳正な審査により承認され、市で定める「鎌ヶ谷市農産物ブランド化推進要綱」に基づいて認定された、市内の農業者及び農業者団体が生産した農産物に、左記のロゴマーク・キャッチフレーズを標示し、新鮮・安心・安全な農産物のブランド化の推進を図っています。

このロゴマークは、鎌ヶ谷市を代表する梨、野菜をモチーフに、農産物がイキイキして新鮮、安心、安全であることを表しています。

ロゴマーク・キャッチフレーズ使用許可にあたっては、以下の5点を認定基準としています。

- ① 鎌ヶ谷市農産物のブランド化に意欲的な農家又は生産者団体であること。
- ② 千葉県防除暦及び各種農薬の使用基準のとおり農薬を使用すること。
- ③ 千葉県農産物等施肥基準のとおり肥料を使用すること。
- ④ 生産履歴を記帳すること。
- ⑤ 市内に居住している者又はそれらの者で構成された団体であること。

鎌ケ谷市マスコットキャラクター **かまたん**

鎌ケ谷市では、鎌ケ谷市農産物ブランド化ロゴマークを基調としたマスコットキャラクター「かまたん」による PR を行っています。



○「かまたん」の由来

「かま」は鎌ケ谷のかま、「たん」は親しみやすく小さい子どもからお年寄りまでみんなが言いやすい、そして、「野菜をたーんと食べてね！」「夢がたーんと広がりますように☆」との願いを込めて名付けられました。

○コンセプト

暖かい北総台地の畑にしょいかごを背負って鎌ケ谷のために生まれてきた**梨と野菜の妖精**。
味が自慢の野菜や果物を、シャリシャリ感☆とシャキシャキ感☆を全面に、いつもニコニコおいしそうにほおぼる謎の元気っ子。

○かまたんの歴史

平成 23 年	☆梨が実り始めた、夏のある日・・・【かまたん誕生！】 鎌ケ谷のおいしい農産物を PR するために「鎌ケ谷市農産物ブランドマスコットキャラクター」として生まれてきましたん！
	☆10月29日【かまたんお披露目式&愛称決定】 市内からも、県外からもたくさんの応募があり、集まった愛称の応募数は66件！いろんな候補があった中、最優秀賞に選ばれたのは「かまたん」！ここでぼくのお名前が決定したんよ♪
平成 26 年	☆4月1日【「鎌ケ谷市マスコットキャラクター」に就任】 鎌ケ谷産のお野菜や果物を PR する「鎌ケ谷市農産物ブランドマスコットキャラクター」だったぼくは、平成26年度から市全体の PR をする「鎌ケ谷市マスコットキャラクター」に任命されたん！
平成 27 年	☆11月【ゆるキャラグランプリ100位以内達成！】 総合1727キャラ中86位／ご当地1092キャラ中61位／県内78キャラ中5位 全国のキャラクターから投票でグランプリを決める「ゆるキャラグランプリ」で、かまたんは4回目の参加でついに目標だった100位以内を達成して、ある程度県外でも知られるようになってきたんだ！ これからも鎌ケ谷のためにがんばるよ！応援よろしくたん！！

○プロフィール

出生地：鎌ケ谷の畑

年齢：はく歳（白菜）

性別：男子

特技：むぎゅ〜う & ハグ

身長：お や さ い5尺8寸31分

好きなもの：梨の芯

体重：なし74個分

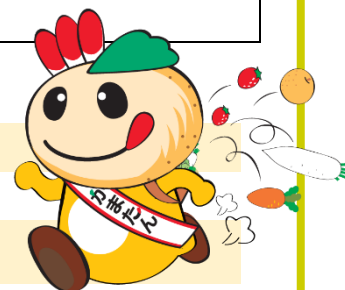
苦手なもの：あお虫くん

特徴：めちやくちゃ明るい子

頭の赤い3本は？：向かって左から、新鮮・安心・

野菜と果物に好き嫌いはナシ

安全を表しています。



(イ) 新品種及び鎌ヶ谷市農産物を活用した加工品の開発支援

関係機関と連携し、農産物の新品種や加工品開発に取り組む生産者を支援します。これにより、生産者の付加価値と生産性の向上を図ります。

【取組み内容】

a 6次産業化[※]の推進

本市には、少数ながらジャムやドライフルーツなど、加工品の製造・販売に取り組んでいる意欲的な農業者がみられます。こうした優れた加工品を情報発信して販売を促進するとともに、他の農家にもその取り組みを紹介し、6次産業化[※]に取り組む農業者の拡大を図ります。

b 農業事務所、農業協同組合（JA）等との連携強化

農業事務所や農業協同組合（JA）など関係機関と連携し、研修会や講習会を実施することで、農業生産技術の向上と品種改良等を進めます。



(ウ) 異業種交流の推進

農業部門と商工業部門との交流を推進し、加工品の新規開発や販売等の異業種連携につなげます。

【取組み内容】

a 農商工連携の支援

農業部門と商工業部門の交流を推進し、規格外の農産物を使用した加工品の新規開発や共同開催する各種イベントでの販売などを通じ、農産物の付加価値及び生産性の向上へとつなげます。

(エ) スマート農業[※]の推進

農家のスマート農業[※]導入を推進し、生産性の向上を支援します。

【取組み内容】

a 生産者のスマート農業[※]の導入支援

千葉県では、令和2年12月に「千葉県スマート農業推進方針」を策定しました。本市でも、生産状況の管理・分析による栽培管理の最適化、栽培ノウハウのデータ化による技術継承、センサーによる有害鳥獣被害対策の実施など、スマート農業[※]に関する情報提供を推進し、導入を支援します。

イ 販路拡大と地産地消の推進

(ア) 農家の販路拡大の支援

市内の直売所や地元農産物の取扱い店舗の紹介等により、鎌産鎌消（地産地消）を推進します。また、被災農産物の活用支援や、意欲ある農家の輸出支援にも取り組みます。

【取組み内容】

a 市ホームページや広報等を活用した販売の推進 【★重点】
市のホームページに、市内にある直売所の情報や位置マップを掲載することで、消費者が情報を得やすい環境づくりを進めることで、生産者の販路拡大につなげます。
b 鎌産鎌消（地産地消）の推進
地元農産物の取扱い店舗の紹介など、消費者が市内で地元農産物を購入できる環境を整えることで、地元農産物の消費を促進し、鎌産鎌消（地産地消）を推進します。
c 被災農産物等の活用支援
風雨や雹（ひょう）など天候による被害を受けた農産物について、関係機関と共同した販売会開催など様々な支援策を講じ、被災した生産者の支援につなげます。
d 関係機関と連携した農家の輸出支援
農産物の輸出を目指す生産者について、国や県など関係団体と連携し、手続きや販路に関する情報提供など輸出に向けた取組みを支援します。

(イ) 地域での直販体制の拡大

かまがや朝市[※]や地域直売イベントの開催、関係機関との連携等により、地域での直販拡大に努めます。

【取組み内容】

a かまがや朝市[※]開催の支援
事務局である農業協同組合（JA）と連携し、販売場所として市の敷地の貸出や販売農家 [※] のニーズに合わせた開催内容とすることで、“かまがや朝市 [※] ”への加盟農家の拡大を図り、かつ、生産者の販売機会の拡大へとつなげます。
b 地域直売イベントの開催
市内や市外で農産物のPRを兼ねた直売イベントを開催することで、農産物のブランド力向上と、生産者の販売機会の拡大につなげます。
c 農業関係機関との連携による販売
農業事務所や農業協同組合（JA）など関係機関と連携し、品評会やイベント、各地での販売会を開催することで、生産者の販売機会の拡充を目指します。



(3) 農家（生産者）と市民（消費者）の共存共栄

ア 農地の保全と市民が農業とふれあえる場づくり

(ア) 優良農地の保全

耕作放棄地[※]対策や農地の売買・賃貸借のマッチング、市民へのPR等により、市内の優良農地の保全を図ります。

【取組み内容】

a 耕作放棄地[※]対策の推進
農地の巡回や情報収集、農業者への働きかけ、相談対応等を日頃から行うことにより、耕作放棄地 [※] の発生防止に努めます。
b 農地承継・貸借の促進 【★重点】
経営規模の縮小や廃業を考えている農業者の所有する農地について、農業事務所や農業委員会などの関係機関と情報共有し、売買や賃貸借のマッチングをより推進することで、農地として保全することを目指します。
c 生産緑地[※]の指定促進
所有者の意向を踏まえながら、生産緑地への指定を促進することで、市内の生産緑地の保全を図ります。
d 農地の持つ多様な機能のPR
都市農地がもつ多面的機能（新鮮な農産物の供給、農業体験・交流の場としての活用、市街地での緑地空間の保全、災害時の防災空間の確保など）をPRし、都市農地に対する市民の理解を醸成することで、生産者側だけでなく住民側においても農地保全の意識を高めます。

(イ) 市民農園[※]の推進

都市農業が営まれる本市では、市民の身近な場所に農地があります。この特性を生かし、市民農園[※]の整備及び環境改善を推進することで、市民が農業と触れ合える場を提供します。

【取組み内容】

a 新規市民農園[※]の整備 【★重点】
市が運営する市民農園 [※] に限らず、企業など民間が運営する市民農園 [※] を積極的に誘致することで、市内での市民農園の新規整備を図ります。
b 市民農園[※]の維持及び環境改善
既存の市民農園 [※] の継続運営を図るとともに、水道の設置や道具の貸出しなど利用環境を改善し、利用者が利用しやすい環境づくりを目指します。
c 農家による技術栽培指導の実施
農業経験の乏しい利用者も気軽に市民農園 [※] を利用できるよう、農家による技術栽培指導の実施を推進します。

イ 農家（生産者）と市民（消費者）の交流推進

(ア) 市民（消費者）との交流推進

農業まつりや収穫体験の実施、農福連携[※]の推進等により、高齢者・障がい者を含む多くの市民が農業と触れ合う機会を創出します。

【取組み内容】

a 農業まつりや収穫体験など各種イベントの開催

農業まつり「秋の収穫・感謝祭」や親子梨狩り体験など各種イベントを実施し、農家（生産者）と市民（消費者）との交流を推進します。

b 農福連携[※]の推進

高齢者や障がい者の方が農業を通じて社会参加する機会をもてるよう、農作業を希望する高齢者・障がい者の方と、受入れ農家とのマッチングを推進します。



(イ) 教育との連携

学校給食や保育園給食での地元農産物の活用、教育現場での農業体験の推進等を通じ、子ども達が農業に興味をもち、理解を深めるよう努めます。

【取組み内容】

a 学校給食や保育園給食での農産物の活用

本市で収穫された農産物を、市内の学校給食や保育園給食などで使用し、子どもたちの本市農業に対する興味・理解を促進します。

b 教育現場での農業体験の推進 **【★重点】**

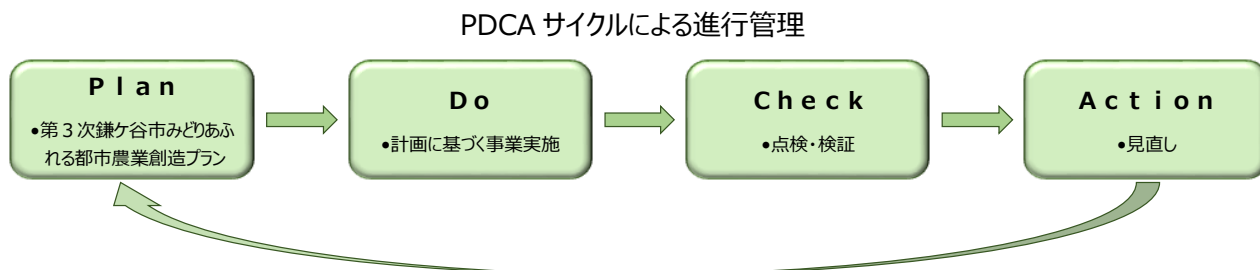
学校の授業等で農業体験の機会を提供し、生徒に直接農業と触れ合う場を創出することで、農業に対する理解を深めます。



第6章 計画の推進に向けて

1 進行管理

本計画の実施及び進行管理については、本市において、進捗状況を毎年点検・検証し、鎌ヶ谷市農政推進協議会にて意見をもらったうえ、翌年度以降の施策・事業に反映します。



2 各主体の役割

本計画で掲げた将来像を実現するためには、各主体がそれぞれの役割を認識し、連携して取り組んでいくことが必要です。各主体に期待される役割は、次のとおりです。

(1) 農業者

消費者へ新鮮で安心、安全な農産物を供給するとともに、行政や関係団体等と連携し、農産物の付加価値や生産性を高めることが期待されます。また、市民との交流により都市農業の役割を伝えていくことも期待されます。

(2) 市民

地元農産物を積極的に購入し、鎌産鎌消（地産地消）を推進することや、各種イベントへの参加、市民農園[※]の利用、援農ボランティアとしての活動等を通じ、農業に対する理解を深め、農業を支えていく役割が期待されます。

(3) 関係団体（生産者団体、農業共同組合（JA）等）

営農指導や農産物の付加価値向上、PR活動、消費者との交流、異業種との連携促進など、各種施策について組織的な取組みを推進することにより、生産者をバックアップする役割が期待されます。

(4) 市

本市の農業を取り巻く外部・内部環境や、生産者及び消費者のニーズを的確に把握した上で、本計画で掲げた将来像の実現に向け、関係機関と緊密に連携しながら、本計画に定めた農業振興施策を展開します。

3 目標指標

基本方針1 持続性のある農業の確立

項目	現状値	目標値または 目指す方向
農業経営体数	251 戸 (令和 2 年度)	→ (令和 14 年度)
認定農業者数	73 人 (令和 3 年度)	↑ (令和 14 年度)
農業青少年クラブ会員数	14 名 (令和 3 年度)	16 名 (令和 14 年度)
援農ボランティア登録者数 (累計)	80 人 (令和 3 年度)	110 人 (令和 14 年度)

基本方針2 農業経営の魅力向上

項目	現状値	目標値または 目指す方向
SNS による情報発信更新数	44 回 (令和 3 年度)	60 回 (令和 14 年度)
PR イベント参加者数	— (令和 3 年度)	660 人 (令和 14 年度)

基本方針3 農家 (生産者) と市民 (消費者) の共存共栄

項目	現状値	目標値または 目指す方向
経営耕地面積	300ha (令和 2 年度)	→ (令和 14 年度)
農地利用状況調査の改善面積 (累計)	0 m ² (令和 3 年度)	20,000 m ² (令和 14 年度)
農用地利用集積計画の新規面積 (累計)	23,996 m ² (令和 3 年度)	64,000 m ² (令和 14 年度)

※上位計画である鎌ヶ谷市総合基本計画の成果指標を目標値で、状態指標を目指す方向で基本方針ごとに表しています。

參考資料

1 本市と周辺市の統計データ

(1) 農業産出額

- 本市の農業産出額は 23.0 億円で、種類別には、果実 12.4 億円（53.9%）、野菜 8.8 億円（38.3%）、畜産 1.1 億円（4.8%）の順に大きくなっています。
- 市川市、船橋市とともに「果実」の産出額が多いことが特徴といえます。

単位（市）：1,000万円、（県）：億円

		農業 産出額	耕 種												
			小 計	米	麦類	雑穀	豆類	いも類	野菜	果実	花き	工芸 農作物	茶	その他 作物	
			①+②+③	①											
本市及び 周辺市	鎌ヶ谷市	産出額 (1,000万円)	230	219	-	-	-	1	2	88	124	x	0	-	x
		割合 (%)	100.0%	95.2%	-	-	-	0.4%	0.9%	38.3%	53.9%	-	0.0%	-	-
	市川市	産出額 (1,000万円)	240	240	0	-	-	2	2	60	165	8	0	-	3
		割合 (%)	100.0%	100.0%	0.0%	-	-	0.8%	0.8%	25.0%	68.8%	3.3%	0.0%	-	1.3%
	船橋市	産出額 (1,000万円)	689	553	9	-	-	12	8	403	112	x	1	-	x
		割合 (%)	100.0%	80.3%	1.3%	-	-	1.7%	1.2%	58.5%	16.3%	-	0.1%	-	-
	松戸市	産出額 (1,000万円)	474	474	4	-	-	10	4	406	43	4	1	-	2
		割合 (%)	100.0%	100.0%	0.8%	-	-	2.1%	0.8%	85.7%	9.1%	0.8%	0.2%	-	0.4%
	野田市	産出額 (1,000万円)	524	352	100	2	0	6	2	234	5	x	0	-	x
		割合 (%)	100.0%	67.2%	19.1%	0.4%	0.0%	1.1%	0.4%	44.7%	1.0%	-	0.0%	-	-
	習志野市	産出額 (1,000万円)	30	30	0	-	-	0	1	29	-	0	0	0	0
		割合 (%)	100.0%	100.0%	0.0%	-	-	0.0%	3.3%	96.7%	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	柏市	産出額 (1,000万円)	708	686	101	0	-	5	19	516	34	x	1	-	x
		割合 (%)	100.0%	96.9%	14.3%	0.0%	-	0.7%	2.7%	72.9%	4.8%	-	0.1%	-	-
流山市	産出額 (1,000万円)	95	95	11	-	-	3	2	73	5	1	0	-	0	
	割合 (%)	100.0%	100.0%	11.6%	-	-	3.2%	2.1%	76.8%	5.3%	1.1%	0.0%	-	0.0%	
八千代市	産出額 (1,000万円)	343	233	36	-	0	4	5	133	45	x	0	-	x	
	割合 (%)	100.0%	67.9%	10.5%	-	0.0%	1.2%	1.5%	38.8%	13.1%	-	0.0%	-	-	
我孫子市	産出額 (1,000万円)	164	162	87	-	0	2	3	69	1	-	0	-	1	
	割合 (%)	100.0%	98.8%	53.0%	-	0.0%	1.2%	1.8%	42.1%	0.6%	-	0.0%	-	0.6%	
千葉県	産出額 (1億円)	3,853	2,657	641	1	1	81	245	1,383	111	161	5	0	30	
	割合 (%)	100.0%	69.0%	16.6%	0.0%	0.0%	2.1%	6.4%	35.9%	2.9%	4.2%	0.1%	0.0%	0.8%	

単位（市）：1,000万円、（県）：億円

		畜産									加工農産物 ③	
		小計 ②	肉用牛	乳用牛	生乳	豚	鶏	鶏卵	ブロイラー	その他畜産物		
本市及び周辺市	鎌ヶ谷市	産出額 (1,000万円)	11	0	11	x	-	-	-	-	-	-
		割合 (%)	4.8%	0.0%	4.8%	-	-	-	-	-	-	-
	市川市	産出額 (1,000万円)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		割合 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	船橋市	産出額 (1,000万円)	135	0	40	38	x	12	x	-	x	-
		割合 (%)	19.6%	0.0%	5.8%	5.5%	-	1.7%	-	-	-	-
	松戸市	産出額 (1,000万円)	0	-	-	-	-	0	0	-	0	-
		割合 (%)	0.0%	-	-	-	-	0.0%	0.0%	-	0.0%	-
	野田市	産出額 (1,000万円)	171	0	100	94	x	21	9	x	x	-
		割合 (%)	32.6%	0.0%	19.1%	17.9%	-	4.0%	1.7%	-	-	-
	習志野市	産出額 (1,000万円)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		割合 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	柏市	産出額 (1,000万円)	22	-	-	-	x	15	x	-	x	-
		割合 (%)	3.1%	-	-	-	-	2.1%	-	-	-	-
流山市	産出額 (1,000万円)	0	-	-	-	-	0	0	-	-	-	
	割合 (%)	0.0%	-	-	-	-	0.0%	0.0%	-	-	-	
八千代市	産出額 (1,000万円)	110	1	91	72	x	-	-	-	x	-	
	割合 (%)	32.1%	0.3%	26.5%	21.0%	-	-	-	-	-	-	
我孫子市	産出額 (1,000万円)	1	-	-	-	-	1	x	-	0	-	
	割合 (%)	0.6%	-	-	-	-	0.6%	-	-	0.0%	-	
千葉県	産出額 (1億円)	1,194	94	255	223	447	388	295	47	11	2	
	割合 (%)	31.0%	2.4%	6.6%	5.8%	11.6%	10.1%	7.7%	1.2%	0.3%	0.1%	

(注) 「0」：単位に満たないもの（例：0.4ha→0ha）。

「-」：調査は行ったが事実のないもの。

「x」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

(出典) 農林業センサス（令和2年）

(2) 農家数

- ・ 本市の農家数は減少傾向にあり、令和2年時点では329戸となっています。
- ・ 周辺の市と比較すると、本市の農家数の減少率は最も小さくなっています。

		平成22年 (戸)	平成27年 (戸)	令和2年 (戸)	平成22年比 (%)
本市 及び 周辺市	鎌ヶ谷市	405	381	329	▲ 18.8
	市川市	533	456	403	▲ 24.4
	船橋市	1,067	979	799	▲ 25.1
	松戸市	843	768	662	▲ 21.5
	野田市	2,096	1,747	1,437	▲ 31.4
	習志野市	192	150	134	▲ 30.2
	柏市	1,682	1,410	1,218	▲ 27.6
	流山市	706	574	411	▲ 41.8
	八千代市	851	734	642	▲ 24.6
	我孫子市	657	536	447	▲ 32.0
	千葉県	73,716	62,636	50,826	▲ 31.1

(出典) 各年農林業センサス

(3) 農業経営者の平均年齢

- ・ 本市の令和2年における農業経営者の平均年齢は64.7歳で、周辺市および千葉県の水準を下回っています。
- ・ ただし、平成22年(60.9歳)と比較すると、3.8歳上昇しています。

		平成22年 (歳)	平成27年 (歳)	令和2年 (歳)	平成22年 との差 (歳)
本市 及び 周辺市	鎌ヶ谷市	60.9	62.3	64.7	+3.8
	市川市	66.0	66.4	69.2	+3.2
	船橋市	63.0	63.3	64.9	+1.9
	松戸市	64.7	67.1	69.1	+4.4
	野田市	64.6	67.0	68.6	+4.0
	習志野市	68.6	69.0	68.9	+0.3
	柏市	64.5	65.1	67.3	+2.8
	流山市	67.8	69.0	69.7	+1.9
	八千代市	63.7	66.1	67.3	+3.6
	我孫子市	66.0	67.8	69.9	+3.9
	千葉県	63.7	65.4	67.2	+3.5

(出典) 内閣府「地域経済分析システム (RESAS)」

(4) 経営耕地面積別経営体数

- 本市における経営耕地面積別経営体数を見ると、「0.5～1.0ha」が85経営体（33.9%）で最も多く、次いで「1.0～1.5ha」が66経営体（26.3%）、「1.5～2.0ha」が39経営体（15.5%）となっています。
- 周辺の市と比較すると、「0.3～0.5ha」の農家が占める割合が少なく、「1.0～1.5ha」、「1.5～2.0ha」の農家が多い状況にあります。

【総数】		計	経営耕地なし	0.3 ha未満	0.3～0.5	0.5～1.0	1.0～1.5	1.5～2.0	2.0～3.0	
本市及び周辺市	鎌ヶ谷市	経営体数(経営体)	251	2	7	19	85	66	39	28
		割合(%)	100.0%	0.8%	2.8%	7.6%	33.9%	26.3%	15.5%	11.2%
	市川市	経営体数(経営体)	291	9	22	48	82	68	23	30
		割合(%)	100.0%	3.1%	7.6%	16.5%	28.2%	23.4%	7.9%	10.3%
	船橋市	経営体数(経営体)	632	6	25	83	194	145	88	66
		割合(%)	100.0%	0.9%	4.0%	13.1%	30.7%	22.9%	13.9%	10.4%
	松戸市	経営体数(経営体)	498	61	35	78	164	84	41	27
		割合(%)	100.0%	12.2%	7.0%	15.7%	32.9%	16.9%	8.2%	5.4%
	野田市	経営体数(経営体)	724	15	30	151	275	103	52	41
		割合(%)	100.0%	2.1%	4.1%	20.9%	38.0%	14.2%	7.2%	5.7%
	習志野市	経営体数(経営体)	63	-	3	14	32	13	-	1
		割合(%)	100.0%	-	4.8%	22.2%	50.8%	20.6%	-	1.6%
	柏市	経営体数(経営体)	767	8	29	98	197	139	88	105
		割合(%)	100.0%	1.0%	3.8%	12.8%	25.7%	18.1%	11.5%	13.7%
	流山市	経営体数(経営体)	168	-	6	46	61	19	19	5
		割合(%)	100.0%	-	3.6%	27.4%	36.3%	11.3%	11.3%	3.0%
	八千代市	経営体数(経営体)	420	4	16	71	141	78	36	43
		割合(%)	100.0%	1.0%	3.8%	16.9%	33.6%	18.6%	8.6%	10.2%
	我孫子市	経営体数(経営体)	332	4	8	34	78	61	45	58
		割合(%)	100.0%	1.2%	2.4%	10.2%	23.5%	18.4%	13.6%	17.5%
千葉県	経営体数(経営体)	35,420	876	866	4,016	8,894	6,153	4,058	4,737	
	割合(%)	100.0%	2.5%	2.4%	11.3%	25.1%	17.4%	11.5%	13.4%	

【総数】		3.0 ~ 5.0	5.0 ~ 10.0	10.0 ~ 20.0	20.0 ~ 30.0	30.0 ~ 50.0	50.0 ~ 100.0	100.0 ~ 150.0	150.0ha 以 上
本市及び 周辺市	鎌ヶ谷市	経営体数(経営体)	4	1	-	-	-	-	-
		割合(%)	1.6%	0.4%	-	-	-	-	-
	市川市	経営体数(経営体)	8	-	1	-	-	-	-
		割合(%)	2.7%	-	0.3%	-	-	-	-
	船橋市	経営体数(経営体)	19	4	2	-	-	-	-
		割合(%)	3.0%	0.6%	0.3%	-	-	-	-
	松戸市	経営体数(経営体)	4	2	1	-	-	1	-
		割合(%)	0.8%	0.4%	0.2%	-	-	0.2%	-
	野田市	経営体数(経営体)	27	11	9	3	4	2	1
		割合(%)	3.7%	1.5%	1.2%	0.4%	0.6%	0.3%	0.1%
	習志野市	経営体数(経営体)	-	-	-	-	-	-	-
		割合(%)	-	-	-	-	-	-	-
	柏市	経営体数(経営体)	59	24	13	2	-	2	2
		割合(%)	7.7%	3.1%	1.7%	0.3%	-	0.3%	0.3%
	流山市	経営体数(経営体)	6	6	-	-	-	-	-
		割合(%)	3.6%	3.6%	-	-	-	-	-
	八千代市	経営体数(経営体)	16	10	2	1	2	-	-
		割合(%)	3.8%	2.4%	0.5%	0.2%	0.5%	-	-
我孫子市	経営体数(経営体)	23	15	4	-	2	-	-	
	割合(%)	6.9%	4.5%	1.2%	-	0.6%	-	-	
千葉県	経営体数(経営体)	3,197	1,665	640	156	107	46	6	
	割合(%)	9.0%	4.7%	1.8%	0.4%	0.3%	0.1%	0.0%	

(注) 「0」：単位に満たないもの(例：0.4ha→0ha)。

「-」：調査は行ったが事実のないもの。

「x」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

(出典) 農林業センサス(令和2年)

(5) 経営耕地（農業経営体※）

- 本市における経営耕地の面積を見ると、樹園地が171ha（57.0%）と最も多く、次いで畑が124ha（41.3%）、田が5ha（1.7%）となっています。
- 樹園地の面積は市川市に次いで多くなっています。

		計				田			
		経営耕地 のある 実経営体数 (経営体)	面積 (ha)	借入している耕地		経営耕地 のある 経営体数 (経営体)	面積 (ha)	借入している耕地	
				実経営体数 (経営体)	面積 (ha)			経営体数 (経営体)	面積 (ha)
本市及び 周辺市	鎌ヶ谷市	249	300	33	11	11	5	2	1
		100.0%	100.0%	13.3%	3.7%	4.4%	1.7%	0.8%	0.3%
	市川市	282	304	36	9	18	6	-	-
		100.0%	100.0%	12.8%	3.0%	6.4%	2.0%	-	-
	船橋市	626	765	99	80	207	131	22	36
		100.0%	100.0%	15.8%	10.5%	33.1%	17.1%	3.5%	4.7%
	松戸市	437	468	70	37	115	73	9	2
		100.0%	100.0%	16.0%	7.9%	26.3%	15.6%	2.1%	0.4%
	野田市	709	1,338	187	529	476	973	117	429
		100.0%	100.0%	26.4%	39.5%	67.1%	72.7%	16.5%	32.1%
	習志野市	63	47	16	7	9	3	2	1
		100.0%	100.0%	25.4%	14.9%	14.3%	6.4%	3.2%	2.1%
	柏市	759	1,892	181	799	464	1,194	99	644
		100.0%	100.0%	23.8%	42.2%	61.1%	63.1%	13.0%	34.0%
	流山市	168	193	40	39	82	87	20	28
		100.0%	100.0%	23.8%	20.2%	48.8%	45.1%	11.9%	14.5%
八千代市	416	649	90	209	277	340	50	164	
	100.0%	100.0%	21.6%	32.2%	66.6%	52.4%	12.0%	25.3%	
我孫子市	328	656	69	185	290	543	59	175	
	100.0%	100.0%	21.0%	28.2%	88.4%	82.8%	18.0%	26.7%	
千葉県	34,544	76,592	13,115	31,579	25,915	53,136	9,296	25,053	
	100.0%	100.0%	38.0%	41.2%	75.0%	69.4%	26.9%	32.7%	

	畑（樹園地を除く）				樹園地				畑のうち牧草専用地		
	経営耕地 のある 経営体数 (経営体)	面積 (ha)	借入している耕地		経営耕地 のある 経営体数 (経営体)	面積 (ha)	借入している耕地				
			経営体数 (経営体)	面積 (ha)			経営体数 (経営体)	面積 (ha)			
本市及び 周辺市	鎌ヶ谷市	139	124	23	6	159	171	9	4	8	8
		55.8%	41.3%	9.2%	2.0%	63.9%	57.0%	3.6%	1.6%	3.2%	2.7%
	市川市	136	78	14	3	193	221	23	7	1	0
		48.2%	25.7%	5.0%	1.0%	68.4%	72.7%	8.2%	2.5%	0.4%	0.0%
	船橋市	569	484	78	41	132	149	8	3	8	7
		90.9%	63.3%	12.5%	5.4%	21.1%	19.5%	1.3%	0.5%	1.3%	0.9%
	松戸市	393	337	60	34	80	58	8	1	1	0
		89.9%	72.0%	13.7%	7.3%	18.3%	12.4%	1.8%	0.2%	0.2%	0.0%
	野田市	489	357	106	100	16	8	2	0	12	33
		69.0%	26.7%	15.0%	7.5%	2.3%	0.6%	0.3%	0.0%	1.7%	2.5%
	習志野市	61	44	14	6	-	-	-	-	-	-
		96.8%	93.6%	22.2%	12.8%	-	-	-	-	-	-
	柏市	671	642	121	151	83	56	3	4	5	2
		88.4%	33.9%	15.9%	8.0%	10.9%	3.0%	0.4%	0.5%	0.7%	0.1%
	流山市	146	91	25	12	29	15	-	-	1	0
		86.9%	47.2%	14.9%	6.2%	17.3%	7.8%	-	-	0.6%	0.0%
	八千代市	305	243	50	40	88	66	11	5	5	20
		73.3%	37.4%	12.0%	6.2%	21.2%	10.2%	2.6%	1.2%	1.2%	3.1%
	我孫子市	231	110	14	10	11	3	1	0	-	-
		70.4%	16.8%	4.3%	1.5%	3.4%	0.5%	0.3%	0.0%	-	-
千葉県	21,270	21,597	5,448	6,395	2,630	1,859	304	131	380	886	
	61.6%	28.2%	15.8%	8.3%	7.6%	2.4%	0.9%	0.4%	1.1%	1.2%	

(注)「0」：単位に満たないもの（例：0.4ha→0ha）。

「-」：調査は行ったが事実のないもの。

「x」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

(出典) 農林業センサス（令和2年）

2 生産者アンケート調査結果

(1) アンケート実施概要

ア 調査の目的

鎌ヶ谷市内農業者の現状や今後の見通し、農業施策に対するニーズなどを把握することで、鎌ヶ谷市の今後の農業施策を検討するための基礎資料を得ることを目的とします。

イ 調査対象者

2022年7月20日において、鎌ヶ谷市内にて農業経営の実態があると想定される428件。

ウ 調査方法

郵送による配布・回収

エ 調査時期

2022年8月12日（金）～9月6日（火）

オ 回収状況

有効回収数：157サンプル

有効回答率：37%

※返戻が1件あり、また、現在農業経営を行っていない旨の連絡を多く受けているため、農業経営実態がある方からの回答率はより高いものになると推察されます。

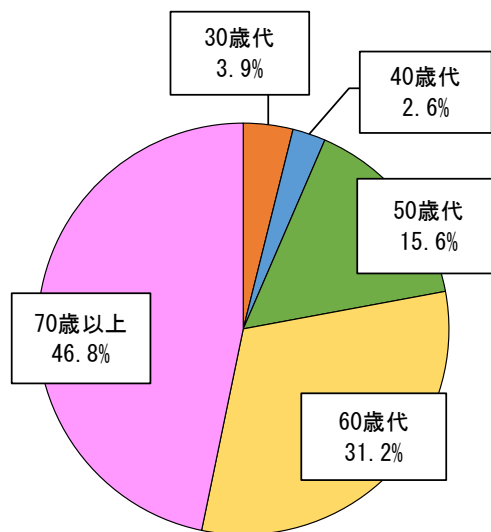
(注) 1 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%と一致しません。

2 複数回答形式の設問における「全体」の回答数は、有効回答者の人数を記載しています。そのため、各選択肢の回答数の合計とは必ずしも一致しません。

(2) アンケート結果

問1 あなたの年齢は、次のうちいずれに該当しますか？（1つだけ○）

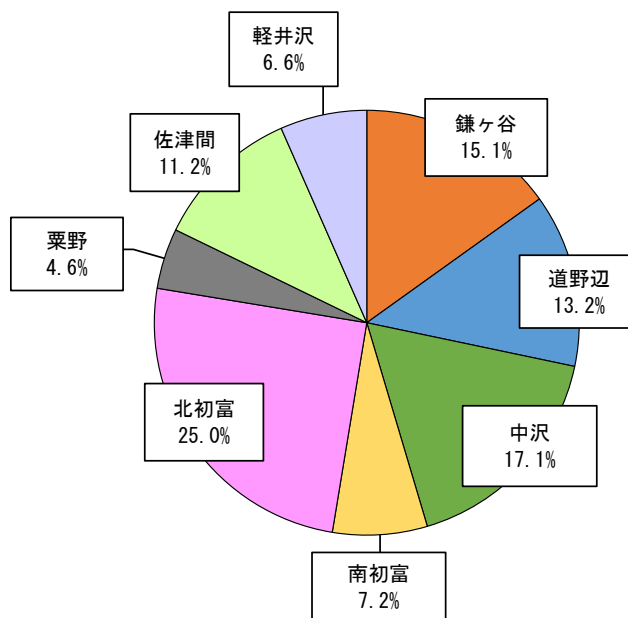
回答内容	回答数	比率
30歳代	6	3.9
40歳代	4	2.6
50歳代	24	15.6
60歳代	48	31.2
70歳以上	72	46.8
全体	154	100.0



(n=154)

問2 あなたのお住まいはどちらですか？（1つだけ○）

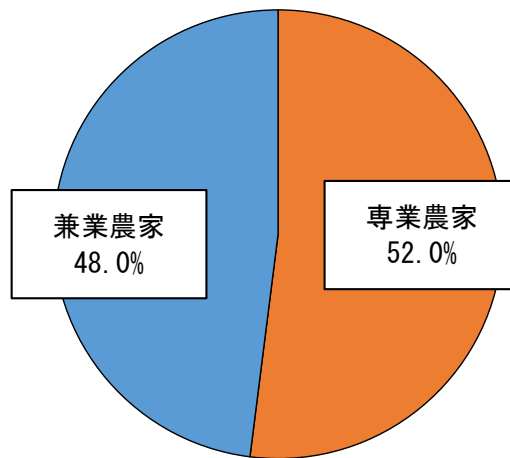
回答内容	回答数	比率
鎌ヶ谷	23	15.1
道野辺	20	13.2
中沢	26	17.1
南初富	11	7.2
北初富	38	25.0
粟野	7	4.6
佐津間	17	11.2
軽井沢	10	6.6
全体	152	100.0



(n=152)

問3 あなたは専業農家、兼業農家のいずれに該当しますか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
専業農家	77	52.0
兼業農家	71	48.0
全体	148	100.0



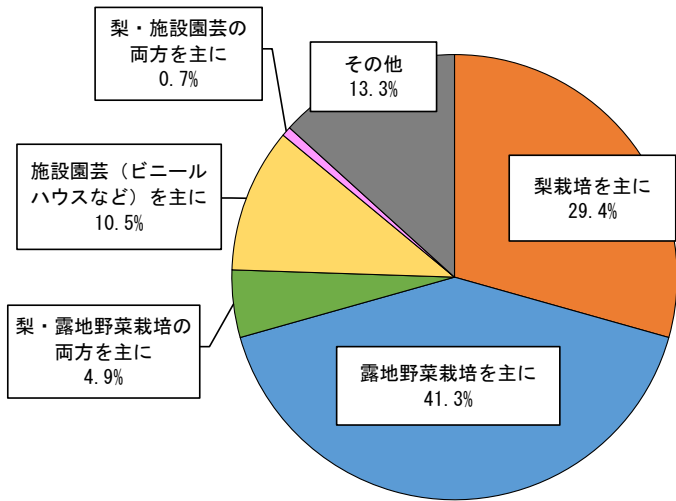
(n=148)

問4 世帯の中であなたを含め、農業従事者は男性と女性それぞれ何名ですか？（人数をご記入下さい）

回答内容	回答数	人数計	1件あたりの人数
男性	146	200	1.4
女性	131	167	1.3
無回答	31	-	-
全体	308	367	1.2

問5 あなたの農業経営で主になっているものは何ですか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
梨栽培を主に	42	29.4
露地野菜栽培を主に	59	41.3
梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	4.9
施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	15	10.5
梨・施設園芸の両方を主に	1	0.7
その他	19	13.3
全体	143	100.0



(n=143)

問6 現在の経営耕地面積等について、都市計画区域別・地目別にそれぞれ数字をご記入ください。（鎌ヶ谷市内に限ります）

地目	①市街化区域内			②市街化調整区域内			合計		
	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
田	2	62.0	31.0	11	527.3	47.9	13	589.3	45.3
畑	43	9,035.3	210.1	73	29,045.9	397.9	116	38,081.2	328.3
樹園地	17	838.5	49.3	40	4,900.5	122.5	57	5,739.0	100.7
未耕作地	3	150.0	50.0	12	5,868.8	489.1	15	6,018.8	401.3
山林	1	5.0	5.0	13	6,678.8	513.8	14	6,683.8	477.4
全体	66	10,090.8	152.9	149	47,021.3	315.6	215	57,112.1	265.6

問7 主な生産品目を、収穫面積の多い順に選んでください。また、収穫面積もご記入ください。

《1番目に多い品目》

品目	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
梨	50	3,378.0	67.6
大根	21	3,409.7	162.4
トマト	8	143.0	17.9
じゃが芋	8	36.3	4.5
その他野菜	30	845.3	28.2
その他果樹	14	227.0	16.2
その他	2	10.0	5.0
合計	133	8,049.3	60.5

◇「その他野菜」の内訳

ネギ、里芋、かぶ、キャベツ、ほうれん草、枝豆、小松菜、ブロッコリー、さつまいも 等

◇「その他果樹」の内訳

栗、いちご、ブルーベリー、桃 等

《2番目、3番目に多い品目》

2番目と3番目に多い品目の重複は、2番目に多いと答えた品目が「ネギ」以外の者が、3番目に多い品目を「ネギ」と回答したケースによるもの

◇2番目に多い品目（1番目が【梨】と回答した人）

品目	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
大根	5	285.0	57.0
かぶ	2	35.0	17.5
ぶどう	4	23.0	5.8
その他野菜	6	65.0	10.8
その他	1	40.0	40.0
合計	18	448.0	24.9

※「1番目の品目以外は生産していない」という回答者が14名。

◇3 番目に多い品目（1 番目が【梨】と回答した人）

品目	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
里芋	2	10.0	5.0
さつまいも	1	2.0	2.0
その他野菜	2	25.0	12.5
合計	5	37.0	7.4

※「1 番目と2 番目の品目以外は生産していない」という回答者が 15 名。

◇2 番目に多い品目（1 番目が【大根】と回答した人）

品目	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
ネギ	7	1,170.0	167.1
じゃが芋	2	20.0	10.0
かぶ	2	73.0	36.5
その他野菜	7	170.0	24.3
合計	18	1,433.0	79.6

※「1 番目の品目以外は生産していない」という回答者が 2 名。

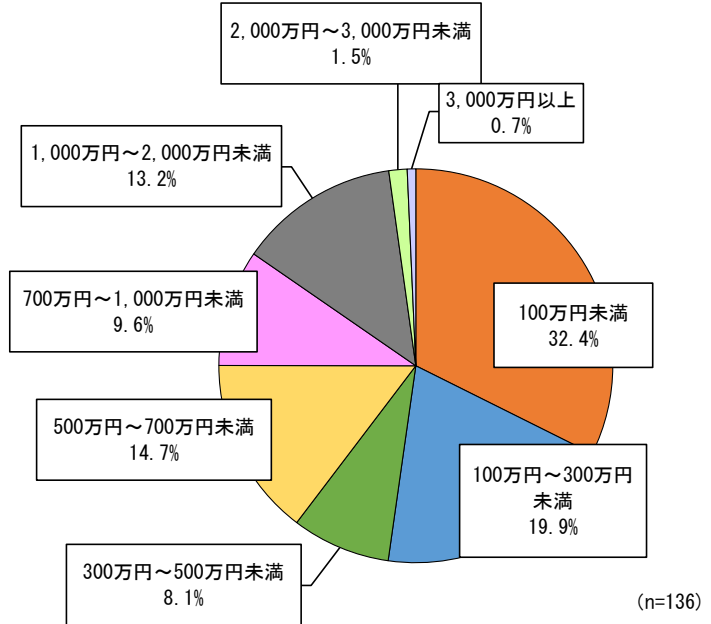
◇3 番目に多い品目（1 番目が【大根】と回答した人）

品目	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
ネギ	4	100.0	25.0
里芋	2	10.0	5.0
かぶ	3	50.0	16.7
キャベツ	1	10.0	10.0
ほうれん草	2	1,010.0	505.0
その他野菜	5	72.0	14.4
合計	17	1,252.0	73.6

※「1 番目と2 番目の品目以外は生産していない」という回答者が 2 名。

問8 あなたの世帯の、現在の農業での年間販売額はどの程度ですか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
100万円未満	44	32.4
100万円～300万円未満	27	19.9
300万円～500万円未満	11	8.1
500万円～700万円未満	20	14.7
700万円～1,000万円未満	13	9.6
1,000万円～2,000万円未満	18	13.2
2,000万円～3,000万円未満	2	1.5
3,000万円以上	1	0.7
全体	136	100.0

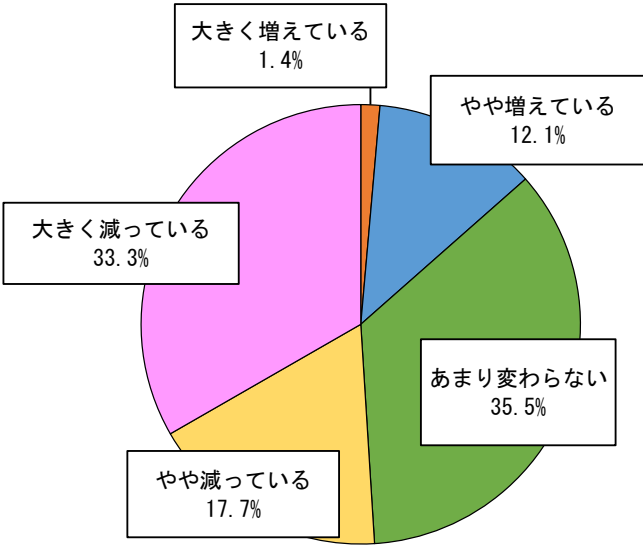


(単位：%)

		回答数 (人)	100万円未 満	100万円～ 300万円未 満	300万円～ 500万円未 満	500万円～ 700万円未 満	700万円～ 1,000万円 未満	1,000万円 ～2,000万 円未満	2,000万円 ～3,000万 円未満	3,000万円 以上
全体		136	32.4	19.9	8.1	14.7	9.6	13.2	1.5	0.7
年齢	30歳代	6	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0
	40歳代	4	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0
	50歳代	22	27.3	4.5	4.5	22.7	18.2	22.7	0.0	0.0
	60歳代	44	29.5	27.3	9.1	13.6	4.5	13.6	0.0	2.3
	70歳以上	60	38.3	20.0	10.0	13.3	8.3	8.3	1.7	0.0
居住地	鎌ヶ谷	20	65.0	20.0	0.0	5.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	道野辺	17	35.3	35.3	11.8	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0
	中沢	25	28.0	20.0	12.0	20.0	8.0	12.0	0.0	0.0
	南初富	9	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0
	北初富	33	18.2	12.1	9.1	24.2	9.1	18.2	6.1	3.0
	栗野	7	42.9	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0
	佐津間	15	20.0	26.7	6.7	13.3	0.0	33.3	0.0	0.0
	軽井沢	10	40.0	20.0	10.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0
兼業	専業農家	72	11.1	18.1	12.5	19.4	15.3	19.4	2.8	1.4
	兼業農家	63	55.6	22.2	3.2	9.5	3.2	6.3	0.0	0.0
主な 農業 経営	梨栽培を主に	42	14.3	16.7	9.5	23.8	19.0	16.7	0.0	0.0
	露地野菜栽培を主に	55	40.0	23.6	9.1	12.7	1.8	10.9	0.0	1.8
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	14	7.1	28.6	0.0	21.4	21.4	21.4	0.0	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	その他	14	85.7	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1

問9 5年前と比べて農業販売額は増えていますか、減っていますか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
大きく増えている	2	1.4
やや増えている	17	12.1
あまり変わらない	50	35.5
やや減っている	25	17.7
大きく減っている	47	33.3
全体	141	100.0



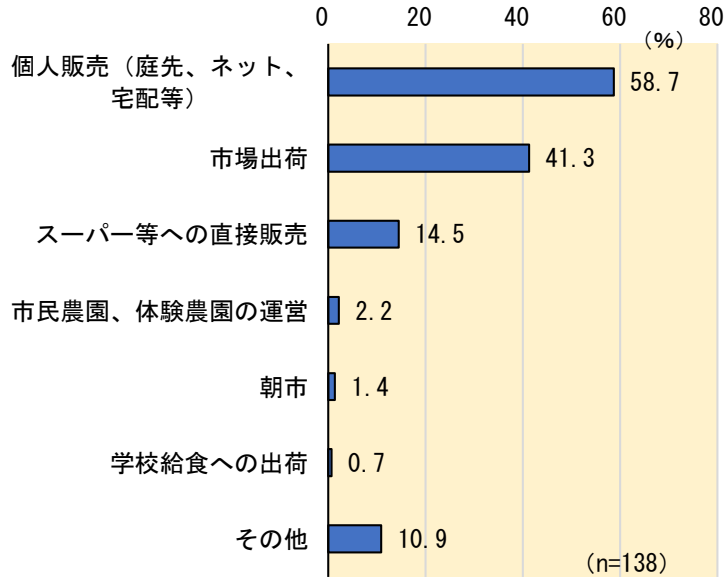
(n=141)

(単位：%)

		回答数 (人)	大きく増えて いる	やや増えて いる	あまり変わら ない	やや減ってい る	大きく減って いる
全体		141	1.4	12.1	35.5	17.7	33.3
年齢	30歳代	6	0.0	0.0	50.0	16.7	33.3
	40歳代	4	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	50歳代	23	0.0	26.1	21.7	17.4	34.8
	60歳代	44	4.5	4.5	45.5	11.4	34.1
	70歳以上	64	0.0	14.1	31.3	20.3	34.4
居住地	鎌ヶ谷	20	0.0	5.0	30.0	10.0	55.0
	道野辺	16	0.0	6.3	56.3	12.5	25.0
	中沢	25	0.0	20.0	28.0	28.0	24.0
	南初富	10	0.0	20.0	30.0	10.0	40.0
	北初富	35	2.9	11.4	28.6	17.1	40.0
	粟野	7	0.0	28.6	42.9	14.3	14.3
	佐津間	16	0.0	6.3	43.8	25.0	25.0
	軽井沢	10	10.0	10.0	40.0	20.0	20.0
専業・兼業	専業農家	74	2.7	16.2	33.8	18.9	28.4
	兼業農家	66	0.0	7.6	37.9	15.2	39.4
主な農業経営	梨栽培を主に	42	0.0	19.0	40.5	16.7	23.8
	露地野菜栽培を主に	56	1.8	8.9	30.4	21.4	37.5
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	0.0	0.0	42.9	42.9	14.3
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	15	6.7	13.3	40.0	20.0	20.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	16	0.0	12.5	31.3	0.0	56.3
現在の年間販売額	100万円未満	42	0.0	4.8	33.3	9.5	52.4
	100万円～300万円未満	27	0.0	3.7	25.9	22.2	48.1
	300万円～500万円未満	11	0.0	18.2	36.4	27.3	18.2
	500万円～700万円未満	20	0.0	20.0	40.0	15.0	25.0
	700万円～1,000万円未満	13	7.7	30.8	30.8	23.1	7.7
	1,000万円～2,000万円未満	18	0.0	16.7	55.6	22.2	5.6
	2,000万円～3,000万円未満	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	3,000万円以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問10 現在の主な販売先（収入源）はどちらですか？（○はいくつでも）

回答内容	回答数	比率
個人販売（庭先、ネット、宅配等）	81	58.7
市場出荷	57	41.3
スーパー等への直接販売	20	14.5
市民農園、体験農園の運営	3	2.2
朝市	2	1.4
学校給食への出荷	1	0.7
その他	15	10.9
全体	138	100.0

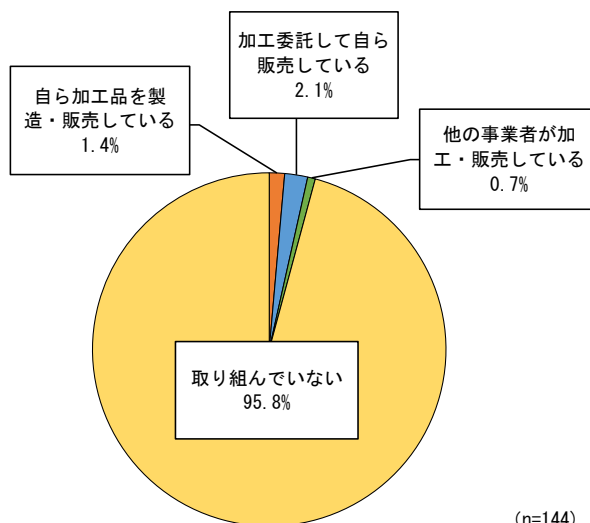


(単位：%)

		回答数 (人)	個人販売 (庭先、ネット、宅配等)	市場出荷	スーパー等への直接販売	市民農園、体験農園の運営	朝市	学校給食への出荷	その他
全体		138	58.7	41.3	14.5	2.2	1.4	0.7	10.9
年齢	30歳代	6	66.7	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	4	75.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	23	65.2	43.5	21.7	0.0	0.0	0.0	4.3
	60歳代	41	43.9	46.3	17.1	4.9	0.0	0.0	7.3
	70歳以上	64	64.1	34.4	7.8	1.6	3.1	1.6	17.2
居住地	鎌ヶ谷	19	63.2	15.8	15.8	10.5	0.0	0.0	15.8
	道野辺	17	52.9	41.2	11.8	0.0	0.0	0.0	11.8
	中沢	25	80.0	36.0	8.0	0.0	0.0	4.0	16.0
	南初富	10	50.0	40.0	20.0	10.0	0.0	0.0	10.0
	北初富	34	50.0	44.1	23.5	0.0	5.9	0.0	8.8
	粟野	7	85.7	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	佐津間	16	43.8	68.8	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	軽井沢	8	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
専業・兼業	専業農家	74	56.8	50.0	21.6	1.4	2.7	0.0	2.7
	兼業農家	63	60.3	31.7	6.3	3.2	0.0	1.6	20.6
主な農業経営	梨栽培を主に	42	90.5	45.2	4.8	0.0	0.0	2.4	4.8
	露地野菜栽培を主に	57	40.4	43.9	15.8	5.3	1.8	0.0	8.8
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	42.9	100.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	15	53.3	26.7	46.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	15	46.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	53.3
現在の年間販売額	100万円未満	39	59.0	10.3	2.6	2.6	0.0	0.0	28.2
	100万円～300万円未満	27	48.1	51.9	3.7	7.4	3.7	0.0	3.7
	300万円～500万円未満	11	27.3	63.6	36.4	0.0	9.1	0.0	0.0
	500万円～700万円未満	20	75.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	700万円～1,000万円未満	13	92.3	61.5	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	18	55.6	72.2	27.8	0.0	0.0	5.6	5.6
	2,000万円～3,000万円未満	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3,000万円以上	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 1 1 現在、自分で生産した農産物を使って加工品を製造・販売していますか？（1つだけ○）
また、製造・販売を行っている場合、どういった加工をされているかを具体的にご記入ください。

回答内容	回答数	比率
自ら加工品を製造・販売している	2	1.4
加工委託して自ら販売している	3	2.1
他の事業者が加工・販売している	1	0.7
取り組んでいない	138	95.8
全体	144	100.0



(加工品の製造・販売に取り組んでいる場合の具体例)

①自ら加工品を製造・販売している
・梅→梅干し
・苺→ジャム

②加工委託して自ら販売している
・いちじく→ジャム、飲むお酢、パウンドケーキ、ドライいちじく
・梨、ぶどう→ジャム、その他加工品

③他の事業者が加工・販売している
・梨→ワイン

(単位：%)

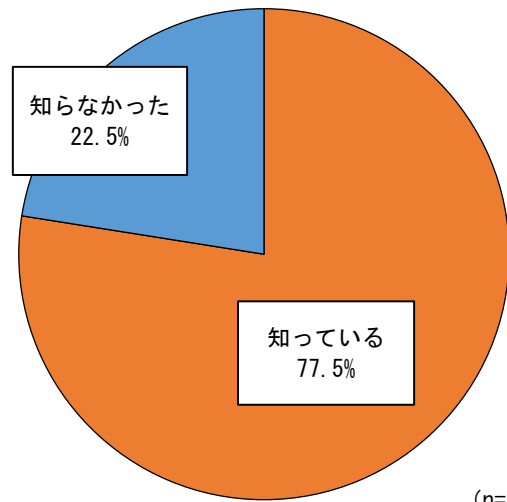
		回答数 (人)	自ら加工品を製造・ 販売している	加工委託して自ら 販売している	他の事業者が加 工・販売している	取り組んでいない
全体		144	1.4	2.1	0.7	95.8
年齢	30歳代	6	0.0	0.0	0.0	100.0
	40歳代	4	0.0	0.0	0.0	100.0
	50歳代	23	4.3	0.0	0.0	95.7
	60歳代	46	0.0	6.5	0.0	93.5
	70歳以上	65	1.5	0.0	1.5	96.9
居住地	鎌ヶ谷	22	4.5	9.1	0.0	86.4
	道野辺	19	0.0	0.0	0.0	100.0
	中沢	24	4.2	0.0	4.2	91.7
	南初富	11	0.0	0.0	0.0	100.0
	北初富	32	0.0	3.1	0.0	96.9
	栗野	7	0.0	0.0	0.0	100.0
	佐津間	17	0.0	0.0	0.0	100.0
	軽井沢	10	0.0	0.0	0.0	100.0
専業・ 兼業	専業農家	75	0.0	4.0	0.0	96.0
	兼業農家	66	3.0	0.0	1.5	95.5
主な 農業 経営	梨栽培を主に	40	0.0	2.5	2.5	95.0
	露地野菜栽培を主に	56	0.0	3.6	0.0	96.4
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	0.0	0.0	0.0	100.0
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	14	7.1	0.0	0.0	92.9
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	17	5.9	0.0	0.0	94.1
現在の 年間 販売額	100万円未満	43	2.3	0.0	0.0	97.7
	100万円～300万円未満	25	0.0	4.0	0.0	96.0
	300万円～500万円未満	11	0.0	0.0	0.0	100.0
	500万円～700万円未満	20	5.0	0.0	0.0	95.0
	700万円～1,000万円未満	12	0.0	8.3	0.0	91.7
	1,000万円～2,000万円未満	18	0.0	0.0	5.6	94.4
	2,000万円～3,000万円未満	2	0.0	0.0	0.0	100.0
	3,000万円以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0

問 1 2 鎌ヶ谷市で取り組んでいる、主な事業についてお尋ねします。

(1) 梨の剪定枝のリサイクル事業

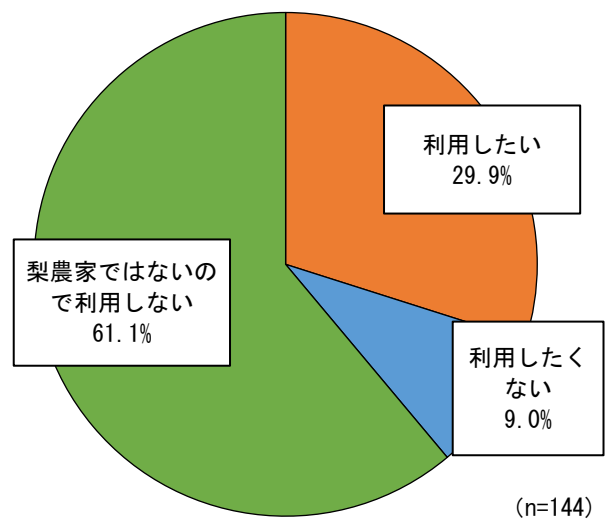
1 この事業についてご存知ですか？ (1つだけ○)

回答内容	回答数	比率
知っている	117	77.5
知らなかった	34	22.5
全体	151	100.0



2 この事業を今後利用したいですか？ (1つだけ○)

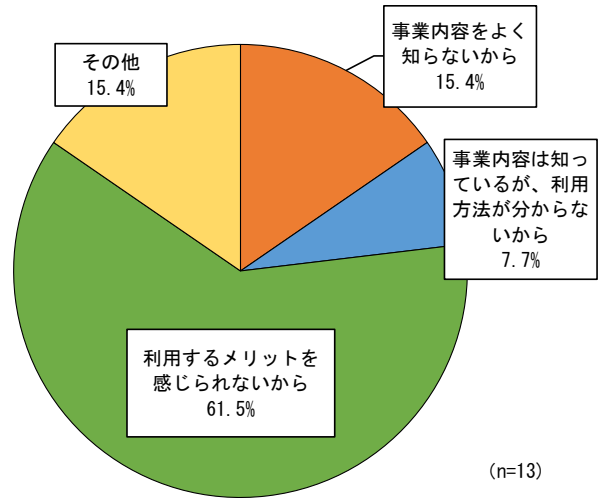
回答内容	回答数	比率
利用したい	43	29.9
利用したくない	13	9.0
梨農家ではないので 利用しない	88	61.1
全体	144	100.0



【「2 利用したくない」とご回答された方のみお答え下さい。】

3 利用したくない理由について、最も当てはまるものをお答え下さい。（1つだけ○）

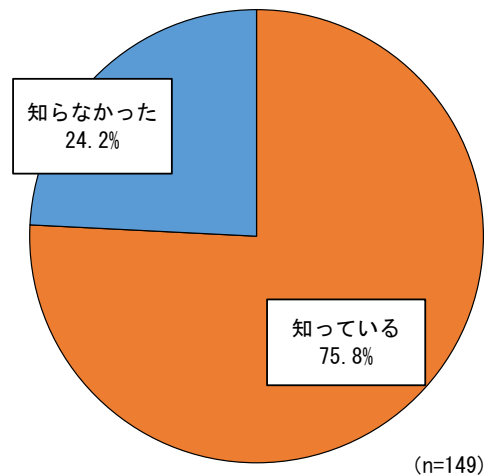
回答内容	回答数	比率
事業内容をよく知らないから	2	15.4
事業内容は知っているが、利用方法が分からないから	1	7.7
利用するメリットを感じられないから	8	61.5
その他	2	15.4
全体	13	100.0



(2) 鎌ヶ谷市マスコットキャラクター（かまたん）を活用した農産物ブランドのPR事業

1 この事業についてご存知ですか？（1つだけ○）

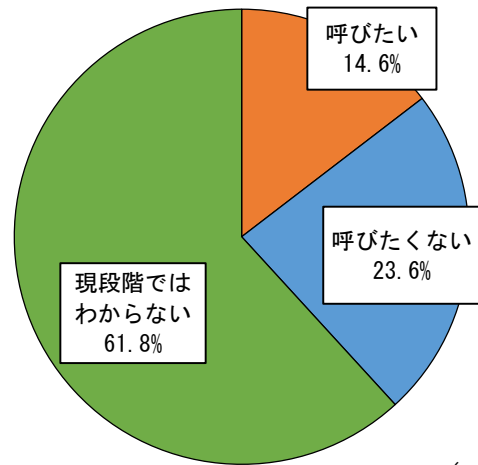
回答内容	回答数	比率
知っている	113	75.8
知らなかった	36	24.2
全体	149	100.0



【※ご自身で直売所を運営している方のみお答え下さい。】

2 かまたんを今後直売所に呼びたいとお考えですか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
呼びたい	13	14.6
呼びたくない	21	23.6
現段階ではわからない	55	61.8
全体	89	100.0

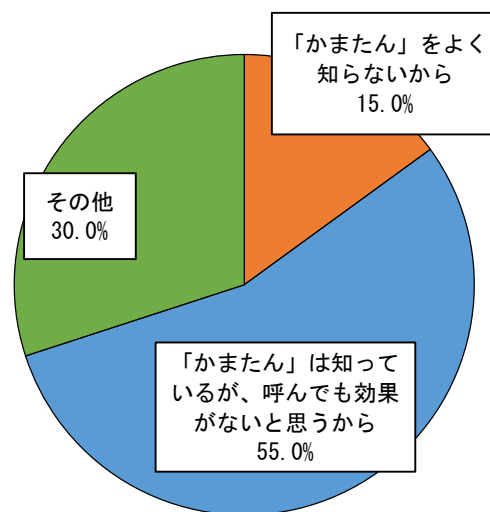


(n=89)

【「2 呼びたくない」とご回答された方のみお答え下さい。】

3 利用したくない理由について、最も当てはまるものをお答え下さい。（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
「かまたん」をよく知らないから	3	15.0
「かまたん」は知っているが、呼んでも効果がないと思うから	11	55.0
その他	6	30.0
全体	20	100.0

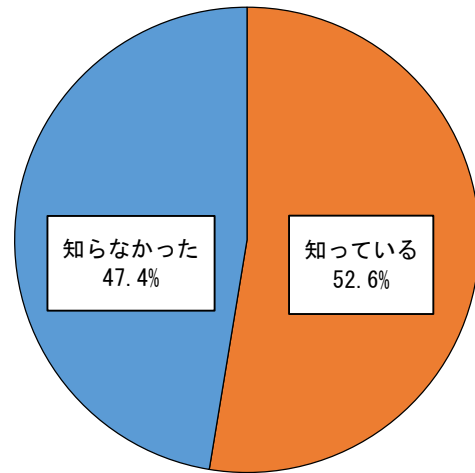


(n=20)

(3) 援農ボランティア制度

1 この事業についてご存知ですか？（1つだけ○）

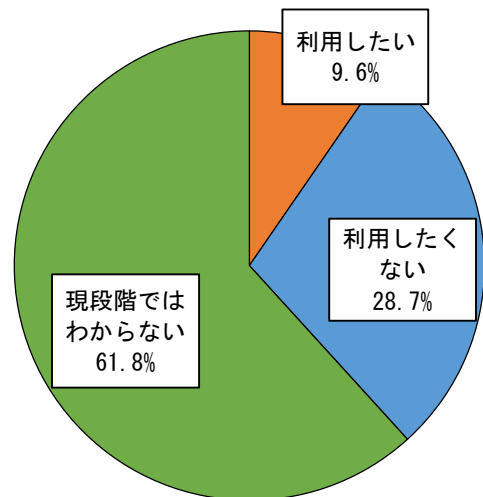
回答内容	回答数	比率
知っている	80	52.6
知らなかった	72	47.4
全体	152	100.0



(n=152)

2 この事業を今後利用したいですか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
利用したい	13	9.6
利用したくない	39	28.7
現段階ではわからない	84	61.8
全体	136	100.0

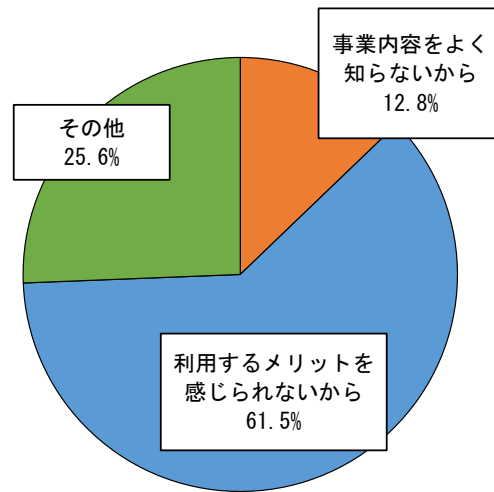


(n=136)

【「2 利用したくない」とご回答された方のみお答え下さい。】

3 利用したくない理由について、最も当てはまるものをお答え下さい。（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
事業内容をよく知らないから	5	12.8
事業内容は知っているが、利用方法が分からないから	0	0.0
利用するメリットを感じられないから	24	61.5
その他	10	25.6
全体	39	100.0

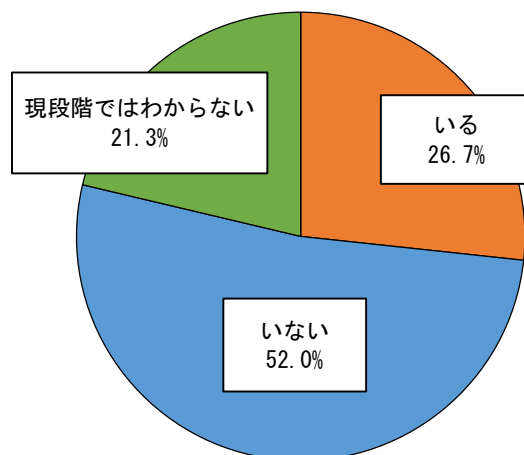


※「事業内容は知っているが、利用方法が分からないから」の回答者はなし

(n=39)

問 1 3 あなたの農業経営を引き継ぐ後継者はいますか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
いる	40	26.7
いない	78	52.0
現段階ではわからない	32	21.3
全体	150	100.0



(n=150)

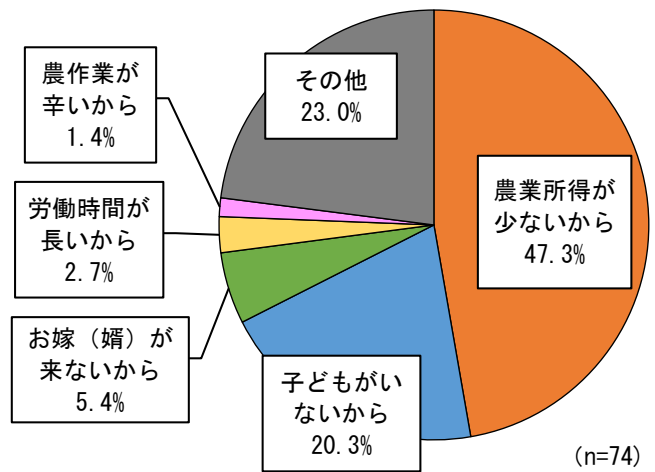
(単位：%)

		回答数 (人)	いる	いない	現段階では わからない
全体		150	26.7	52.0	21.3
年齢	30歳代	6	0.0	33.3	66.7
	40歳代	4	0.0	25.0	75.0
	50歳代	24	16.7	54.2	29.2
	60歳代	46	34.8	54.3	10.9
	70歳以上	70	28.6	52.9	18.6
居住地	鎌ヶ谷	22	13.6	63.6	22.7
	道野辺	19	21.1	57.9	21.1
	中沢	26	30.8	53.8	15.4
	南初富	10	40.0	50.0	10.0
	北初富	38	34.2	47.4	18.4
	粟野	7	14.3	57.1	28.6
	佐津間	17	29.4	41.2	29.4
	軽井沢	9	11.1	55.6	33.3
専業・兼業	専業農家	76	32.9	47.4	19.7
	兼業農家	69	21.7	55.1	23.2
主な農業経営	梨栽培を主に	42	35.7	47.6	16.7
	露地野菜栽培を主に	59	25.4	55.9	18.6
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	28.6	42.9	28.6
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	15	20.0	40.0	40.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	100.0	0.0
	その他	17	29.4	47.1	23.5
現在の年間販売額	100万円未満	43	14.0	67.4	18.6
	100万円～300万円未満	27	14.8	66.7	18.5
	300万円～500万円未満	11	18.2	54.5	27.3
	500万円～700万円未満	20	30.0	50.0	20.0
	700万円～1,000万円未満	13	46.2	30.8	23.1
	1,000万円～2,000万円未満	18	55.6	16.7	27.8
	2,000万円～3,000万円未満	2	50.0	0.0	50.0
	3,000万円以上	1	100.0	0.0	0.0

【問13で「2 いない」とご回答された方のみお答え下さい。】

問13-1 問13で「2 いない」と回答された理由は何ですか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
農業所得が少ないから	35	47.3
子どもがいないから	15	20.3
お嫁（婿）が来ないから	4	5.4
労働時間が長いから	2	2.7
農作業が辛いから	1	1.4
その他	17	23.0
全体	74	100.0

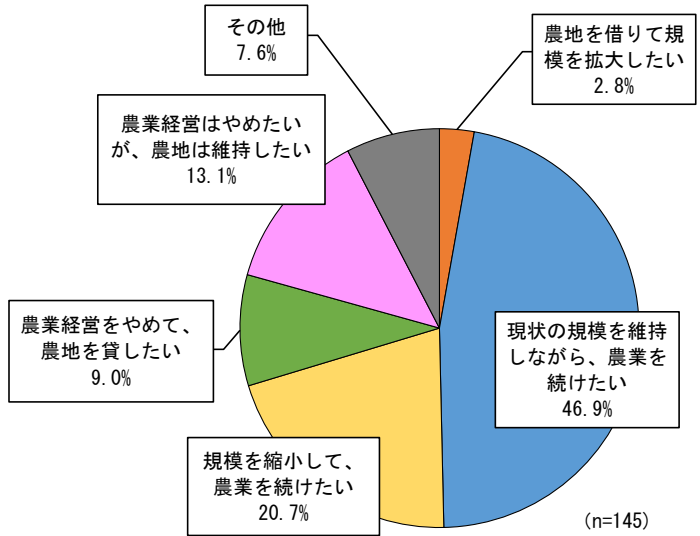


(単位：%)

		回答数 (人)	農業所得が 少ないから	子どもが いないから	お嫁（婿） が来ないから	労働時間が 長いから	農作業が辛 いから	その他
全体		74	47.3	20.3	5.4	2.7	1.4	23.0
年齢	30歳代	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	13	23.1	30.8	7.7	7.7	0.0	30.8
	60歳代	24	45.8	20.8	8.3	0.0	4.2	20.8
	70歳以上	34	55.9	14.7	2.9	2.9	0.0	23.5
居住地	鎌ヶ谷	12	50.0	33.3	0.0	8.3	0.0	8.3
	道野辺	10	40.0	10.0	10.0	0.0	0.0	40.0
	中沢	14	50.0	14.3	14.3	0.0	0.0	21.4
	南初富	4	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	北初富	18	50.0	22.2	0.0	5.6	0.0	22.2
	粟野	4	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	佐津間	7	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3
	軽井沢	5	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0
兼業・ 専業	専業農家	33	45.5	24.2	9.1	3.0	0.0	18.2
	兼業農家	38	52.6	18.4	2.6	2.6	2.6	21.1
主な 農業 経営	梨栽培を主に	18	55.6	16.7	5.6	0.0	5.6	16.7
	露地野菜栽培を主に	32	43.8	21.9	3.1	3.1	0.0	28.1
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	6	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	8	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
現在 の 年間 販売 額	100万円未満	28	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0	28.6
	100万円～300万円未満	17	76.5	5.9	5.9	0.0	0.0	11.8
	300万円～500万円未満	5	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	500万円～700万円未満	10	30.0	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0
	700万円～1,000万円未満	4	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7
	2,000万円～3,000万円未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3,000万円以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 1 4 今後の農業経営について、次のうちいずれに該当しますか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
農地を借りて規模を拡大したい	4	2.8
現状の規模を維持しながら、農業を続けたい	68	46.9
規模を縮小して、農業を続けたい	30	20.7
農業経営をやめて、農地を貸したい	13	9.0
農業経営はやめたいが、農地は維持したい	19	13.1
その他	11	7.6
全体	145	100.0



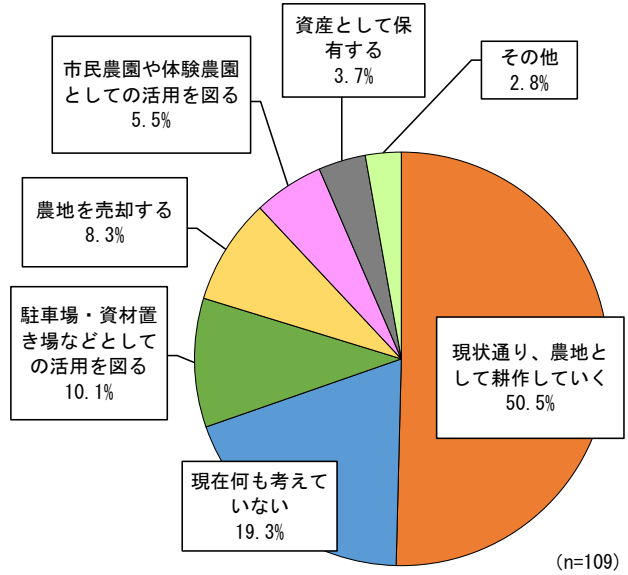
(単位: %)

		回答数 (人)	農地を借りて規模を拡大したい	現状の規模を維持しながら、農業を続けたい	規模を縮小して、農業を続けたい	農業経営をやめて、農地を貸したい	農業経営はやめたいが、農地は維持したい	その他
全体		145	2.8	46.9	20.7	9.0	13.1	7.6
年齢	30歳代	6	16.7	66.7	0.0	16.7	0.0	0.0
	40歳代	4	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	23	4.3	65.2	13.0	8.7	0.0	8.7
	60歳代	45	4.4	44.4	24.4	8.9	8.9	8.9
	70歳以上	67	0.0	38.8	22.4	9.0	22.4	7.5
居住地	鎌ヶ谷	19	0.0	52.6	15.8	10.5	15.8	5.3
	道野辺	18	0.0	55.6	22.2	0.0	11.1	11.1
	中沢	26	3.8	38.5	15.4	19.2	19.2	3.8
	南初富	10	0.0	50.0	30.0	10.0	10.0	0.0
	北初富	38	5.3	39.5	23.7	7.9	13.2	10.5
	栗野	7	0.0	28.6	28.6	14.3	28.6	0.0
	佐津間	16	6.3	62.5	18.8	0.0	0.0	12.5
	軽井沢	9	0.0	55.6	22.2	11.1	11.1	0.0
専業・兼業	専業農家	74	5.4	52.7	23.0	10.8	4.1	4.1
	兼業農家	68	0.0	41.2	19.1	5.9	23.5	10.3
主な農業経営	梨栽培を主に	42	4.8	54.8	11.9	11.9	9.5	7.1
	露地野菜栽培を主に	59	3.4	47.5	16.9	6.8	16.9	8.5
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	0.0	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	15	0.0	53.3	40.0	6.7	0.0	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	その他	16	0.0	18.8	37.5	6.3	25.0	12.5
現在の年間販売額	100万円未満	42	2.4	28.6	19.0	11.9	26.2	11.9
	100万円～300万円未満	27	0.0	55.6	29.6	3.7	7.4	3.7
	300万円～500万円未満	11	0.0	54.5	36.4	0.0	9.1	0.0
	500万円～700万円未満	20	10.0	30.0	30.0	15.0	10.0	5.0
	700万円～1,000万円未満	13	0.0	61.5	23.1	7.7	0.0	7.7
	1,000万円～2,000万円未満	18	0.0	83.3	0.0	11.1	0.0	5.6
	2,000万円～3,000万円未満	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3,000万円以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【問6で「②市街化調整区域内にお持ちの農地の面積」を回答した人のみお答え下さい。】

問15 市街化調整区域内に農地をお持ちの方のみ伺います。今後、市街化調整区域内の農地をどのように活用したいと考えますか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
現状通り、農地として耕作していく	55	50.5
現在何も考えていない	21	19.3
駐車場・資材置き場などとしての活用を図る	11	10.1
農地を売却する	9	8.3
市民農園や体験農園としての活用を図る	6	5.5
資産として保有する	4	3.7
その他	3	2.8
全体	109	100.0

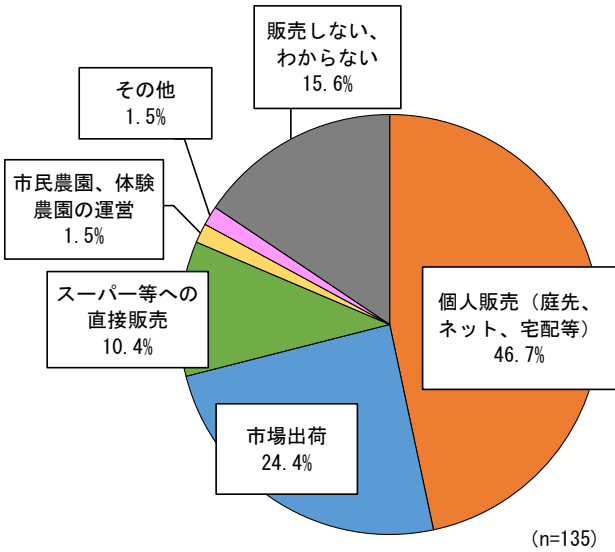


(単位：%)

		回答数 (人)	現状通り、 農地として 耕作していく	現在何も考 えていない	駐車場・資 材置き場な どとしての活 用を図る	農地を売却 する	市民農園や 体験農園と しての活用 を図る	資産として 保有する	その他
全体		109	50.5	19.3	10.1	8.3	5.5	3.7	2.8
年齢	30歳代	5	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
	40歳代	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	17	58.8	11.8	11.8	5.9	11.8	0.0	0.0
	60歳代	35	51.4	20.0	5.7	14.3	5.7	2.9	0.0
	70歳以上	48	45.8	22.9	14.6	4.2	2.1	6.3	4.2
居住地	鎌ヶ谷	11	45.5	27.3	0.0	0.0	18.2	0.0	9.1
	道野辺	11	27.3	36.4	0.0	18.2	0.0	18.2	0.0
	中沢	22	50.0	13.6	18.2	9.1	4.5	0.0	4.5
	南初富	9	44.4	11.1	11.1	0.0	22.2	11.1	0.0
	北初富	29	51.7	20.7	17.2	10.3	0.0	0.0	0.0
	栗野	7	71.4	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
	佐津間	13	76.9	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
	軽井沢	5	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
兼業・ 専業	専業農家	57	57.9	17.5	10.5	7.0	3.5	1.8	1.8
	兼業農家	49	42.9	18.4	10.2	10.2	8.2	6.1	4.1
主な 農業 経営	梨栽培を主に	34	47.1	26.5	14.7	2.9	2.9	0.0	5.9
	露地野菜栽培を主に	47	53.2	10.6	8.5	12.8	10.6	4.3	0.0
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	6	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	14	57.1	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1
現在 の 年間 販売 額	100万円未満	31	48.4	9.7	9.7	9.7	12.9	3.2	6.5
	100万円～300万円未満	21	33.3	42.9	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8
	300万円～500万円未満	8	62.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	500万円～700万円未満	15	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	700万円～1,000万円未満	9	66.7	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	13	92.3	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	2,000万円～3,000万円未満	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3,000万円以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 1 6 今後の主な販売先（収入源）としてどちらを考えていますか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
個人販売（庭先、ネット、宅配等）	63	46.7
市場出荷	33	24.4
スーパー等への直接販売	14	10.4
市民農園、体験農園の運営	2	1.5
朝市	0	0.0
学校給食への出荷	0	0.0
その他	2	1.5
販売しない、わからない	21	15.6
全体	135	100.0



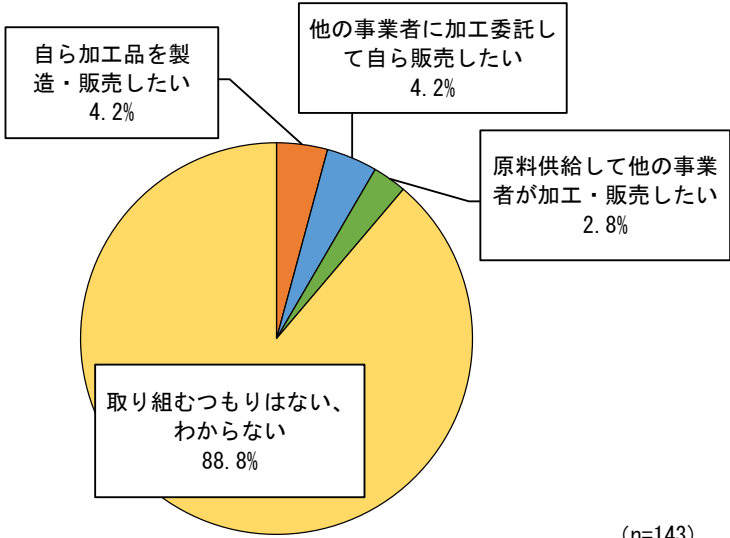
※「朝市」と「学校給食への出荷」の回答者はなし

(単位：%)

		回答数 (人)	個人販売 (庭先、ネット、 宅配等)	市場出荷	スーパー等へ の直接販売	市民農園、 体験農園の 運営	その他	販売しない、 わからない
全体		135	46.7	24.4	10.4	1.5	1.5	15.6
年齢	30歳代	6	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0
	40歳代	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	23	47.8	26.1	17.4	0.0	0.0	8.7
	60歳代	42	35.7	33.3	16.7	2.4	2.4	9.5
	70歳以上	60	51.7	18.3	3.3	0.0	1.7	25.0
居住地	鎌ヶ谷	20	40.0	10.0	10.0	5.0	0.0	35.0
	道野辺	17	35.3	41.2	11.8	0.0	0.0	11.8
	中沢	25	56.0	28.0	0.0	0.0	0.0	16.0
	南初富	10	40.0	10.0	20.0	10.0	0.0	20.0
	北初富	31	58.1	12.9	19.4	0.0	3.2	6.5
	栗野	7	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
	佐津間	16	31.3	62.5	0.0	0.0	6.3	0.0
	軽井沢	7	42.9	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3
専業・ 兼業	専業農家	71	49.3	29.6	16.9	1.4	0.0	2.8
	兼業農家	63	44.4	19.0	3.2	1.6	3.2	28.6
主な 農業 経営	梨栽培を主に	42	73.8	19.0	0.0	2.4	2.4	2.4
	露地野菜栽培を主に	55	27.3	32.7	16.4	1.8	1.8	20.0
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	6	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	14	42.9	21.4	35.7	0.0	0.0	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	15	46.7	6.7	0.0	0.0	0.0	46.7
現在の 年間 販売額	100万円未満	40	42.5	7.5	2.5	2.5	2.5	42.5
	100万円～300万円未満	25	36.0	44.0	12.0	4.0	4.0	0.0
	300万円～500万円未満	10	10.0	60.0	30.0	0.0	0.0	0.0
	500万円～700万円未満	20	60.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	700万円～1,000万円未満	12	75.0	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	18	61.1	27.8	11.1	0.0	0.0	0.0
	2,000万円～3,000万円未満	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3,000万円以上	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

問 1 7 今後、自分で生産した農産物を使って加工品を製造・販売したいですか？（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
自ら加工品を製造・販売したい	6	4.2
他の事業者に加工委託して自ら販売したい	6	4.2
原料供給して他の事業者が加工・販売したい	4	2.8
取り組むつもりはない、わからない	127	88.8
全体	143	100.0



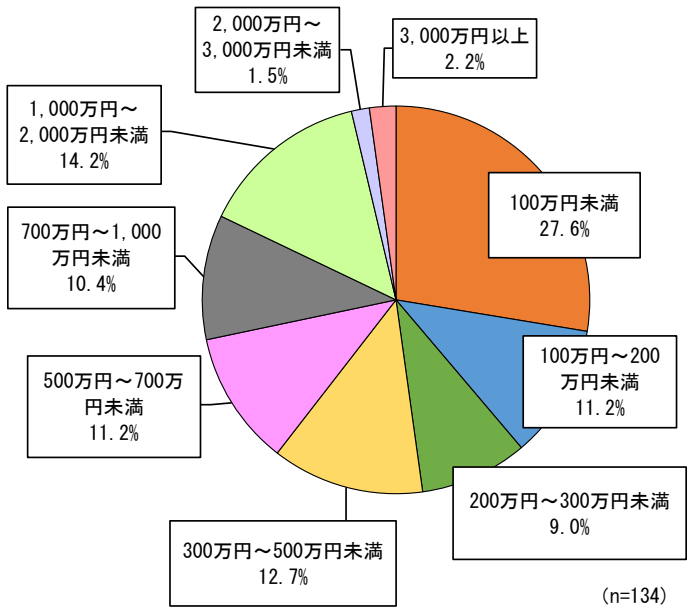
(n=143)

(単位：%)

		回答数 (人)	自ら加工品を製造・販売したい	他の事業者に加工委託して自ら販売したい	原料供給して他の事業者が加工・販売したい	取り組むつもりはない、わからない
全体		143	4.2	4.2	2.8	88.8
年齢	30歳代	6	0.0	16.7	16.7	66.7
	40歳代	4	0.0	0.0	0.0	100.0
	50歳代	24	8.3	8.3	0.0	83.3
	60歳代	44	2.3	6.8	4.5	86.4
	70歳以上	65	4.6	0.0	1.5	93.8
居住地	鎌ヶ谷	21	9.5	9.5	4.8	76.2
	道野辺	19	0.0	0.0	0.0	100.0
	中沢	25	4.0	0.0	12.0	84.0
	南初富	10	0.0	0.0	0.0	100.0
	北初富	33	6.1	3.0	0.0	90.9
	栗野	7	0.0	0.0	0.0	100.0
	佐津間	17	0.0	11.8	0.0	88.2
	軽井沢	9	11.1	11.1	0.0	77.8
兼業・専業	専業農家	75	5.3	6.7	2.7	85.3
	兼業農家	66	3.0	1.5	3.0	92.4
主な農業経営	梨栽培を主に	42	2.4	2.4	4.8	90.5
	露地野菜栽培を主に	57	3.5	5.3	0.0	91.2
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	14.3	0.0	0.0	85.7
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	14	0.0	14.3	7.1	78.6
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	16	12.5	0.0	6.3	81.3
現在の年間販売額	100万円未満	43	4.7	0.0	0.0	95.3
	100万円～300万円未満	26	3.8	0.0	3.8	92.3
	300万円～500万円未満	11	9.1	0.0	9.1	81.8
	500万円～700万円未満	20	5.0	10.0	0.0	85.0
	700万円～1,000万円未満	13	0.0	15.4	7.7	76.9
	1,000万円～2,000万円未満	18	0.0	5.6	5.6	88.9
	2,000万円～3,000万円未満	2	50.0	0.0	0.0	50.0
	3,000万円以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0

問 1 8 あなたの世帯の5年後の年間農業販売額はどの程度を目指したいですか？（1つだけ○）

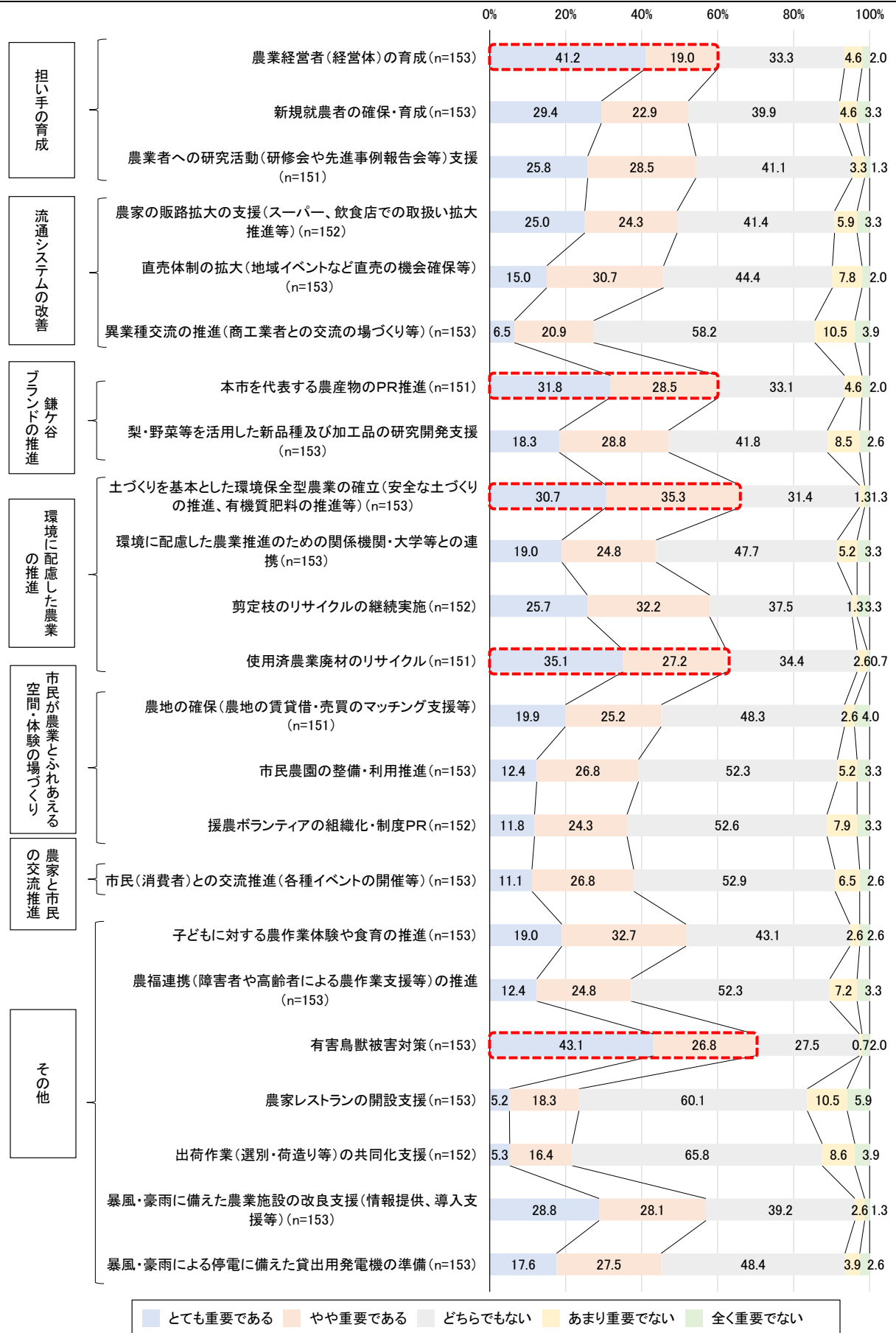
回答内容	回答数	比率
100万円未満	37	27.6
100万円～200万円未満	15	11.2
200万円～300万円未満	12	9.0
300万円～500万円未満	17	12.7
500万円～700万円未満	15	11.2
700万円～1,000万円未満	14	10.4
1,000万円～2,000万円未満	19	14.2
2,000万円～3,000万円未満	2	1.5
3,000万円以上	3	2.2
全体	134	100.0



(単位：%)

		回答数 (人)	100万 円未満	100万 円～ 200万 円未満	200万 円～ 300万 円未満	300万 円～ 500万 円未満	500万 円～ 700万 円未満	700万 円～ 1,000 万円未 満	1,000 万円～ 2,000 万円未 満	2,000 万円～ 3,000 万円未 満	3,000 万円 以上
全体		134	27.6	11.2	9.0	12.7	10.4	14.2	1.5	2.2	
年齢	30歳代	6	0.0	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0
	40歳代	4	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0
	50歳代	23	13.0	8.7	8.7	8.7	13.0	21.7	26.1	0.0	0.0
	60歳代	42	26.2	4.8	16.7	14.3	9.5	11.9	14.3	0.0	2.4
	70歳以上	59	39.0	13.6	5.1	11.9	11.9	6.8	8.5	1.7	1.7
居住地	鎌ヶ谷	20	55.0	20.0	5.0	5.0	10.0	5.0	0.0	0.0	0.0
	道野辺	16	31.3	12.5	18.8	6.3	18.8	0.0	12.5	0.0	0.0
	中沢	25	20.0	28.0	0.0	20.0	12.0	12.0	8.0	0.0	0.0
	南初富	9	22.2	0.0	11.1	22.2	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0
	北初富	33	15.2	3.0	9.1	12.1	15.2	15.2	18.2	3.0	9.1
	栗野	7	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0
	佐津間	16	25.0	6.3	12.5	12.5	0.0	12.5	25.0	6.3	0.0
	軽井沢	8	25.0	0.0	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0
専業・兼業	専業農家	73	12.3	9.6	9.6	11.0	13.7	15.1	21.9	2.7	4.1
	兼業農家	60	45.0	13.3	8.3	15.0	8.3	5.0	5.0	0.0	0.0
主な農業経営	梨栽培を主に	42	9.5	11.9	4.8	16.7	14.3	23.8	16.7	2.4	0.0
	露地野菜栽培を主に	55	40.0	7.3	12.7	14.5	7.3	3.6	10.9	1.8	1.8
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	15	6.7	20.0	6.7	0.0	33.3	6.7	26.7	0.0	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
その他	13	69.2	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	
現在の年間販売額	100万円未満	40	82.5	12.5	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0
	100万円～300万円未満	27	11.1	33.3	33.3	18.5	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0
	300万円～500万円未満	11	0.0	0.0	9.1	54.5	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	500万円～700万円未満	20	5.0	0.0	5.0	25.0	40.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	700万円～1,000万円未満	13	0.0	7.7	0.0	0.0	23.1	30.8	38.5	0.0	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	77.8	5.6	0.0
	2,000万円～3,000万円未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	3,000万円以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

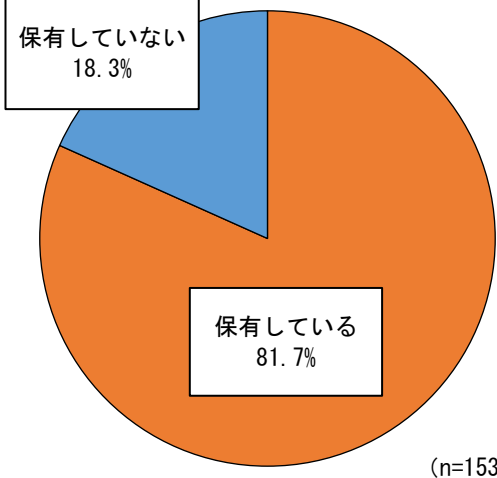
問 19 次の各施策について、それぞれどの程度重要だと思いますか。あてはまる番号 1 つずつに○をつけて下さい。



(注) 赤い印は、『重要である』(=「とても重要である」と「やや重要である」の合計)が6割を超えたもの。

問 2 0 鎌ヶ谷市内に農地を所有していますか。(1つだけ○)

回答内容	回答数	比率
保有している	125	81.7
保有していない	28	18.3
全体	153	100.0



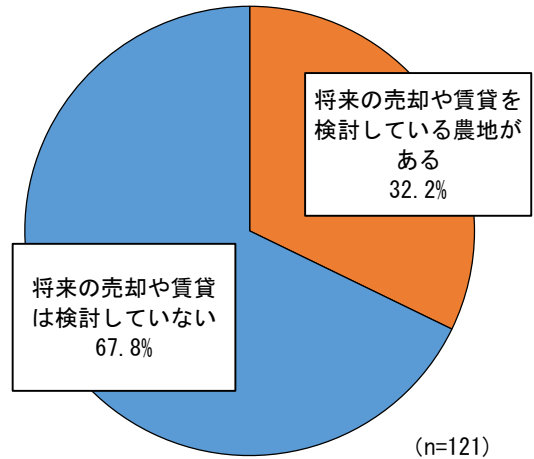
(単位：%)

		回答数 (人)	保有している	保有していない
全体		153	81.7	18.3
年齢	30歳代	6	100.0	0.0
	40歳代	4	100.0	0.0
	50歳代	24	79.2	20.8
	60歳代	48	83.3	16.7
	70歳以上	71	78.9	21.1
居住地	鎌ヶ谷	23	65.2	34.8
	道野辺	20	95.0	5.0
	中沢	25	96.0	4.0
	南初富	11	72.7	27.3
	北初富	38	73.7	26.3
	粟野	7	85.7	14.3
	佐津間	17	82.4	17.6
	軽井沢	10	100.0	0.0
専業・兼業	専業農家	77	88.3	11.7
	兼業農家	70	75.7	24.3
主な農業経営	梨栽培を主に	42	90.5	9.5
	露地野菜栽培を主に	59	79.7	20.3
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	85.7	14.3
	施設園芸(ビニールハウスなど)を主に	15	86.7	13.3
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	100.0
	その他	18	77.8	22.2
現在の年間販売額	100万円未満	43	72.1	27.9
	100万円～300万円未満	27	81.5	18.5
	300万円～500万円未満	11	90.9	9.1
	500万円～700万円未満	20	90.0	10.0
	700万円～1,000万円未満	13	92.3	7.7
	1,000万円～2,000万円未満	18	88.9	11.1
	2,000万円～3,000万円未満	2	100.0	0.0
	3,000万円以上	1	100.0	0.0

【問20で「1 保有している」とご回答された方のみお答え下さい。】

問20-1 鎌ヶ谷市では、将来の売却や賃貸を検討されている農地と、担い手とのマッチングを推進しています。あなた（貴事業所）は、所有している農地について、将来の売却や賃貸を検討していますか。（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
将来の売却や賃貸を検討している農地がある	39	32.2
将来の売却や賃貸は検討していない	82	67.8
全体	121	100.0

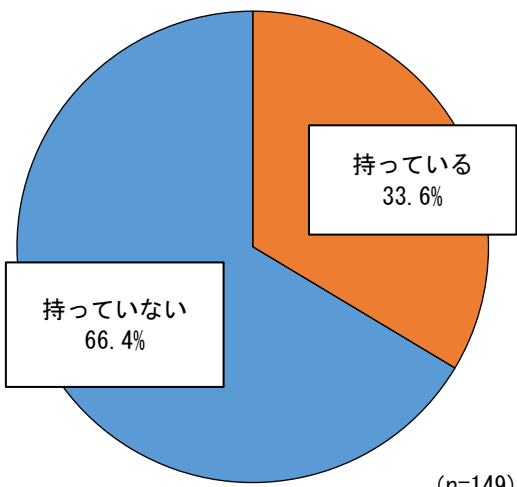


(単位：%)

		回答数 (人)	将来の売却や賃貸 を検討している農地 がある	将来の売却や賃貸 は検討していない
全体		121	32.2	67.8
年齢	30歳代	6	33.3	66.7
	40歳代	4	25.0	75.0
	50歳代	19	42.1	57.9
	60歳代	39	33.3	66.7
	70歳以上	53	28.3	71.7
居住地	鎌ヶ谷	15	26.7	73.3
	道野辺	18	33.3	66.7
	中沢	23	30.4	69.6
	南初富	8	12.5	87.5
	北初富	27	40.7	59.3
	栗野	6	33.3	66.7
	佐津間	14	28.6	71.4
	軽井沢	9	33.3	66.7
兼業	専業農家	66	31.8	68.2
	兼業農家	52	34.6	65.4
主な 農業 経営	梨栽培を主に	38	26.3	73.7
	露地野菜栽培を主に	47	34.0	66.0
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	6	0.0	100.0
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	12	25.0	75.0
	梨・施設園芸の両方を主に	0	0.0	0.0
	その他	11	54.5	45.5
現在の 年間 販売 額	100万円未満	31	48.4	51.6
	100万円～300万円未満	22	22.7	77.3
	300万円～500万円未満	10	30.0	70.0
	500万円～700万円未満	18	33.3	66.7
	700万円～1,000万円未満	11	36.4	63.6
	1,000万円～2,000万円未満	16	18.8	81.3
	2,000万円～3,000万円未満	1	0.0	100.0
	3,000万円以上	1	0.0	100.0

問 2 1 あなた（貴事業所）は生産緑地の指定を受けた農地を持っていますか。（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
持っている	50	33.6
持っていない	99	66.4
全体	149	100.0



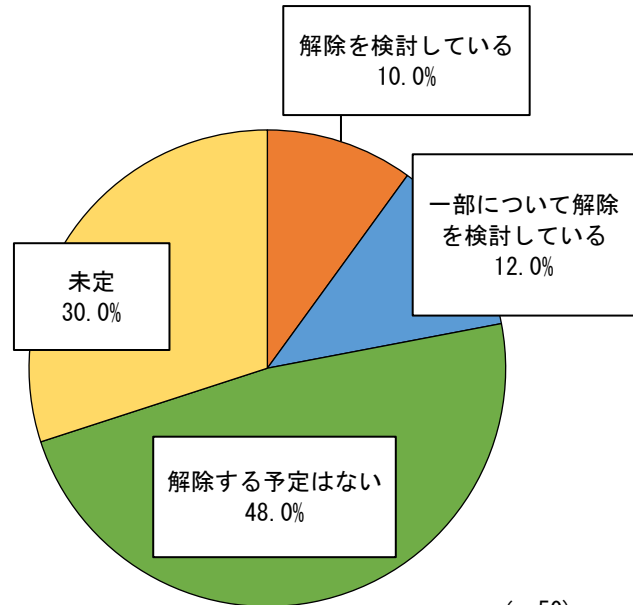
(単位：%)

		合計	持っている	持っていない
全体		149	33.6	66.4
年齢	30歳代	6	83.3	16.7
	40歳代	4	25.0	75.0
	50歳代	23	47.8	52.2
	60歳代	48	29.2	70.8
	70歳以上	68	27.9	72.1
居住地	鎌ヶ谷	22	50.0	50.0
	道野辺	19	73.7	26.3
	中沢	25	16.0	84.0
	南初富	10	50.0	50.0
	北初富	38	15.8	84.2
	粟野	7	0.0	100.0
	佐津間	16	62.5	37.5
	軽井沢	10	0.0	100.0
兼業	専業農家	73	39.7	60.3
	兼業農家	70	30.0	70.0
主な農業経営	梨栽培を主に	41	29.3	70.7
	露地野菜栽培を主に	57	31.6	68.4
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	42.9	57.1
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	15	66.7	33.3
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	100.0
	その他	18	33.3	66.7
現在の年間販売額	100万円未満	43	30.2	69.8
	100万円～300万円未満	27	51.9	48.1
	300万円～500万円未満	10	40.0	60.0
	500万円～700万円未満	20	25.0	75.0
	700万円～1,000万円未満	12	50.0	50.0
	1,000万円～2,000万円未満	18	33.3	66.7
	2,000万円～3,000万円未満	2	50.0	50.0
	3,000万円以上	1	0.0	100.0

【問 2 1 で「1 持っている」とご回答された方のみお答え下さい。】

問 2 1—1 あなた（貴事業所）は、所有している生産緑地について、指定から 30 年の期間が経過した後、生産緑地指定を解除することを検討していますか。（1 つだけ○）

回答内容	回答数	比率
解除を検討している	5	10.0
一部について解除を検討している	6	12.0
解除する予定はない	24	48.0
未定	15	30.0
全体	50	100.0

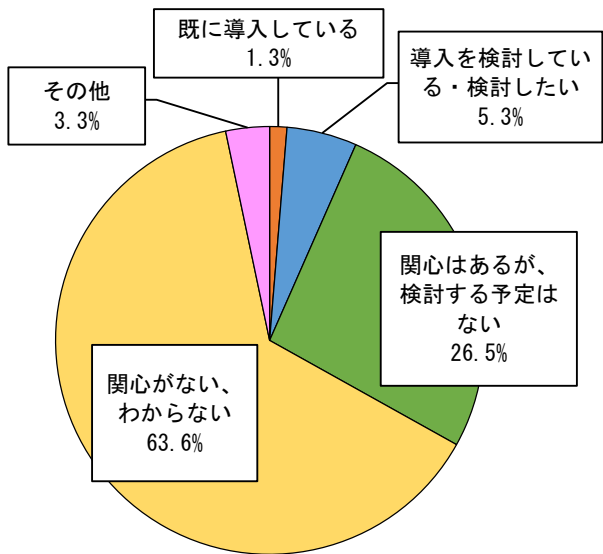


(単位：%)

		回答数 (人)	解除を検討 している	一部について解除 を検討している	解除する予定は ない	未定
全体		50	10.0	12.0	48.0	30.0
年齢	30歳代	5	0.0	0.0	40.0	60.0
	40歳代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	50歳代	11	9.1	18.2	54.5	18.2
	60歳代	14	14.3	7.1	57.1	21.4
	70歳以上	19	10.5	15.8	36.8	36.8
居住地	鎌ヶ谷	11	0.0	9.1	72.7	18.2
	道野辺	14	7.1	21.4	28.6	42.9
	中沢	4	25.0	25.0	25.0	25.0
	南初富	5	20.0	0.0	60.0	20.0
	北初富	6	16.7	0.0	50.0	33.3
	栗野	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	佐津間	10	10.0	10.0	50.0	30.0
	軽井沢	0	0.0	0.0	0.0	0.0
兼業・ 専業	専業農家	29	10.3	6.9	41.4	41.4
	兼業農家	21	9.5	19.0	57.1	14.3
主な 農業 経営	梨栽培を主に	12	8.3	25.0	41.7	25.0
	露地野菜栽培を主に	18	11.1	5.6	55.6	27.8
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	3	0.0	0.0	66.7	33.3
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	10	0.0	10.0	40.0	50.0
	梨・施設園芸の両方を主に	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	6	16.7	16.7	50.0	16.7
現在の 年間 販売 額	100万円未満	13	15.4	15.4	46.2	23.1
	100万円～300万円未満	14	7.1	14.3	42.9	35.7
	300万円～500万円未満	4	0.0	25.0	50.0	25.0
	500万円～700万円未満	5	20.0	0.0	60.0	20.0
	700万円～1,000万円未満	6	16.7	16.7	50.0	16.7
	1,000万円～2,000万円未満	6	0.0	0.0	50.0	50.0
	2,000万円～3,000万円未満	1	0.0	0.0	0.0	100.0
	3,000万円以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 2 2 あなたは、スマート農業（※）の導入について関心をお持ちですか。（1つだけ○）
 （※）ロボット技術やICT（情報通信技術）を活用し、農産物の栽培過程や収穫作業の省力化、品質管理を行う農業のことです。

回答内容	回答数	比率
既に導入している	2	1.3
導入を検討している・検討したい	8	5.3
関心はあるが、検討する予定はない	40	26.5
関心がない、わからない	96	63.6
その他	5	3.3
全体	151	100.0



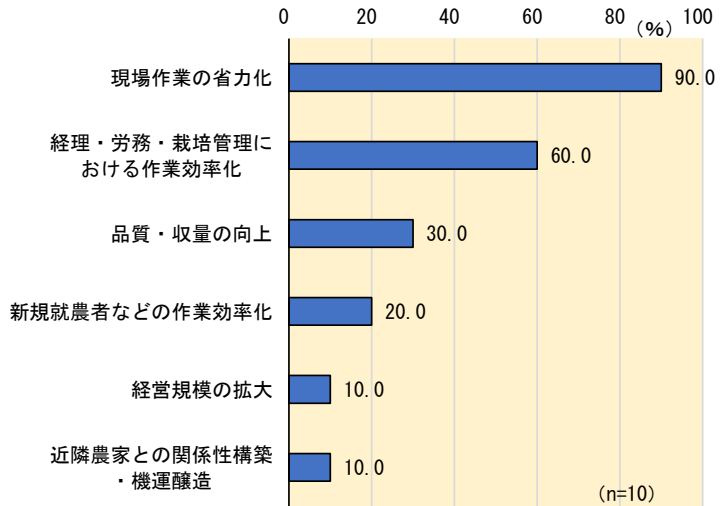
(n=151)

(単位：%)

		回答数 (人)	既に導入して いる	導入を検討 している・検 討したい	関心はある が、検討する 予定はない	関心がない、 わからない	その他
全体		151	1.3	5.3	26.5	63.6	3.3
年齢	30歳代	6	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0
	40歳代	4	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0
	50歳代	24	4.2	12.5	20.8	62.5	0.0
	60歳代	48	2.1	2.1	41.7	50.0	4.2
	70歳以上	69	0.0	1.4	14.5	79.7	4.3
居住地	鎌ヶ谷	22	0.0	18.2	4.5	68.2	9.1
	道野辺	20	0.0	5.0	40.0	55.0	0.0
	中沢	25	0.0	0.0	12.0	84.0	4.0
	南初富	11	0.0	0.0	18.2	81.8	0.0
	北初富	37	5.4	8.1	35.1	48.6	2.7
	粟野	7	0.0	0.0	42.9	57.1	0.0
	佐津間	17	0.0	0.0	41.2	52.9	5.9
	軽井沢	10	0.0	0.0	30.0	70.0	0.0
専業・兼業	専業農家	76	1.3	5.3	34.2	57.9	1.3
	兼業農家	69	1.4	5.8	20.3	68.1	4.3
主な農業経営	梨栽培を主に	41	2.4	2.4	31.7	61.0	2.4
	露地野菜栽培を主に	58	0.0	3.4	31.0	62.1	3.4
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	0.0	14.3	28.6	57.1	0.0
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	15	6.7	26.7	26.7	40.0	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	その他	19	0.0	0.0	5.3	89.5	5.3
現在の年間販売額	100万円未満	42	0.0	4.8	21.4	71.4	2.4
	100万円～300万円未満	27	0.0	0.0	14.8	74.1	11.1
	300万円～500万円未満	11	0.0	0.0	54.5	45.5	0.0
	500万円～700万円未満	19	5.3	5.3	26.3	63.2	0.0
	700万円～1,000万円未満	13	0.0	7.7	53.8	38.5	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	18	5.6	5.6	50.0	38.9	0.0
	2,000万円～3,000万円未満	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	3,000万円以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

【問22で「1 既に導入している」「2 導入を検討している・検討したい」とご回答された方のみお答え下さい。】
 問22-1 スマート農業の導入を検討する場合、経営上期待したい効果について、当てはまるものをご回答ください。(〇はいくつでも)

回答内容	回答数	比率
現場作業の省力化	9	90.0
経理・労務・栽培管理における作業効率化	6	60.0
品質・収量の向上	3	30.0
新規就農者などの作業効率化	2	20.0
経営規模の拡大	1	10.0
近隣農家との関係性構築	1	10.0
全体	10	100.0



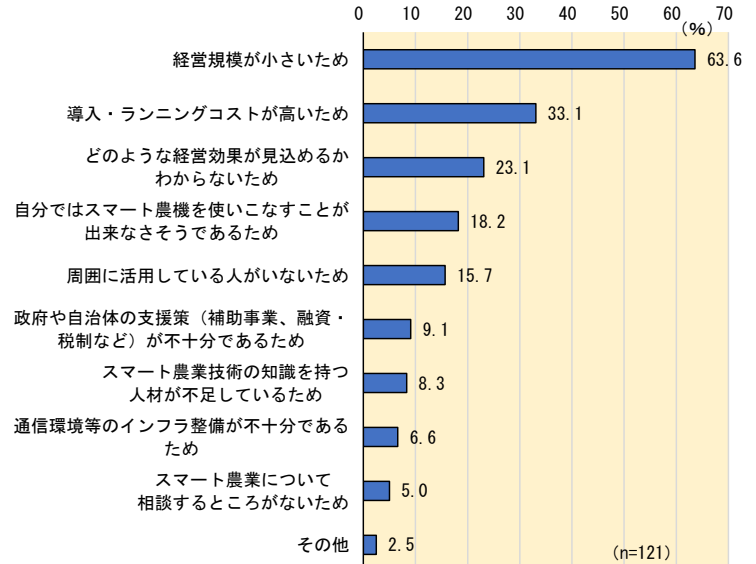
(単位: %)

		回答数 (人)	現場作業の省力化	経理・労務・栽培管理における作業効率化	品質・収量の向上	新規就農者などの作業効率化	経営規模の拡大	近隣農家との関係性構築・機運醸造
全体		10	90.0	60.0	30.0	20.0	10.0	10.0
年齢	30歳代	2	100.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	40歳代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50歳代	4	100.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	60歳代	2	100.0	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	70歳以上	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
居住地	鎌ヶ谷	4	100.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0
	道野辺	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中沢	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	南初富	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	北初富	5	80.0	60.0	40.0	20.0	20.0	20.0
	粟野	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	佐津間	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	軽井沢	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
専業・兼業	専業農家	5	80.0	80.0	20.0	40.0	20.0	20.0
	兼業農家	5	100.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0
主な農業経営	梨栽培を主に	2	100.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	露地野菜栽培を主に	2	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	施設園芸 (ビニールハウスなど) を主に	5	100.0	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
現在の年間販売額	100万円未満	2	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	100万円～300万円未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	300万円～500万円未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	500万円～700万円未満	2	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	700万円～1,000万円未満	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	2	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	2,000万円～3,000万円未満	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	3,000万円以上	1	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0

問22で「3 関心はあるが、検討する予定はない」「4 関心がない、わからない」とご回答された方のみお答え下さい。

問22-2 スマート農業の導入について、検討しない、又は関心が無い理由について、当てはまるものをご回答ください。(〇はいくつでも)

回答内容	回答数	比率
経営規模が小さいため	77	63.6
導入・ランニングコストが高いため	40	33.1
どのような経営効果が見込めるかわからないため	28	23.1
自分ではスマート農機を使いこなすことが出来なさそうであるため	22	18.2
周囲に活用している人がいないため	19	15.7
政府や自治体の支援策(補助事業、融資・税制など)が不十分であるため	11	9.1
スマート農業技術の知識を持つ人材が不足しているため	10	8.3
通信環境等のインフラ整備が不十分であるため	8	6.6
スマート農業について相談するところがないため	6	5.0
その他	3	2.5
全体	121	100.0

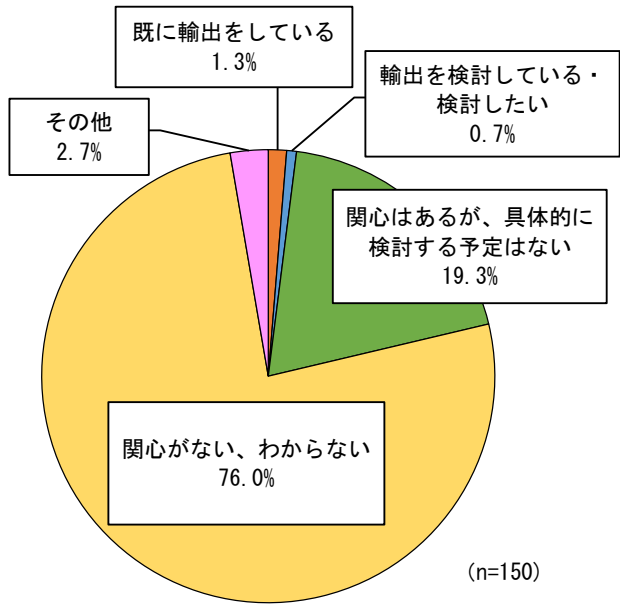


(単位：%)

	回答数(人)	経営規模が小さいため	導入・ランニングコストが高いため	どのような経営効果が見込めるかわからないため	自分ではスマート農機を使いこなすことが出来なさそうであるため	周囲に活用している人がいないため	政府や自治体の支援策(補助事業、融資・税制など)が不十分であるため	スマート農業技術の知識を持つ人材が不足しているため	通信環境等のインフラ整備が不十分であるため	スマート農業について相談するところがないため	その他
全体	121	63.6	33.1	23.1	18.2	15.7	9.1	8.3	6.6	5.0	2.5
年齢	30歳代	4	75.0	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	3	100.0	100.0	66.7	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3
	50歳代	18	50.0	38.9	27.8	11.1	11.1	0.0	0.0	5.6	0.0
	60歳代	39	71.8	25.6	25.6	20.5	12.8	17.9	15.4	10.3	5.1
	70歳以上	57	59.6	31.6	15.8	17.5	19.3	3.5	7.0	5.3	5.3
居住地	鎌ヶ谷	14	42.9	21.4	35.7	21.4	21.4	7.1	7.1	14.3	7.1
	道野辺	16	75.0	43.8	12.5	6.3	6.3	12.5	0.0	0.0	6.3
	中沢	23	69.6	52.2	26.1	26.1	17.4	8.7	13.0	13.0	8.7
	南初富	10	80.0	20.0	10.0	20.0	30.0	10.0	10.0	10.0	0.0
	北初富	27	70.4	37.0	18.5	11.1	18.5	7.4	7.4	7.4	0.0
	栗野	7	71.4	28.6	28.6	42.9	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3
	佐津間	16	50.0	18.8	37.5	18.8	0.0	12.5	6.3	0.0	0.0
	軽井沢	7	42.9	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0
専業農家、兼業農家	専業農家	62	59.7	38.7	32.3	21.0	16.1	9.7	9.7	8.1	4.8
	兼業農家	58	67.2	27.6	13.8	15.5	15.5	8.6	6.9	5.2	5.2
主な農業経営	梨栽培を主に	39	61.5	43.6	33.3	28.2	17.9	10.3	7.7	10.3	5.1
	露地野菜栽培を主に	48	62.5	20.8	18.8	10.4	16.7	8.3	6.3	2.1	4.2
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	6	50.0	50.0	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7
	施設園芸(ビニールハウスなど)を主に	9	88.9	33.3	11.1	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14	64.3	35.7	14.3	14.3	21.4	0.0	7.1	14.3	0.0	
現在の年間販売額	100万円未満	37	67.6	24.3	8.1	5.4	18.9	0.0	2.7	0.0	2.7
	100万円～300万円未満	24	70.8	20.8	25.0	20.8	12.5	16.7	4.2	8.3	8.3
	300万円～500万円未満	9	77.8	33.3	33.3	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	11.1
	500万円～700万円未満	17	76.5	35.3	29.4	17.6	11.8	11.8	11.8	0.0	5.9
	700万円～1,000万円未満	10	40.0	70.0	30.0	40.0	0.0	10.0	10.0	20.0	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	15	46.7	40.0	40.0	13.3	13.3	13.3	6.7	6.7	0.0
	2,000万円～3,000万円未満	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0
3,000万円以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

問 2 3 あなたは、農産物の輸出に関心をお持ちですか。（1つだけ○）

回答内容	回答数	比率
既に輸出をしている	2	1.3
輸出を検討している・検討したい	1	0.7
関心はあるが、具体的に検討する予定はない	29	19.3
関心がない、わからない	114	76.0
その他	4	2.7
全体	150	100.0

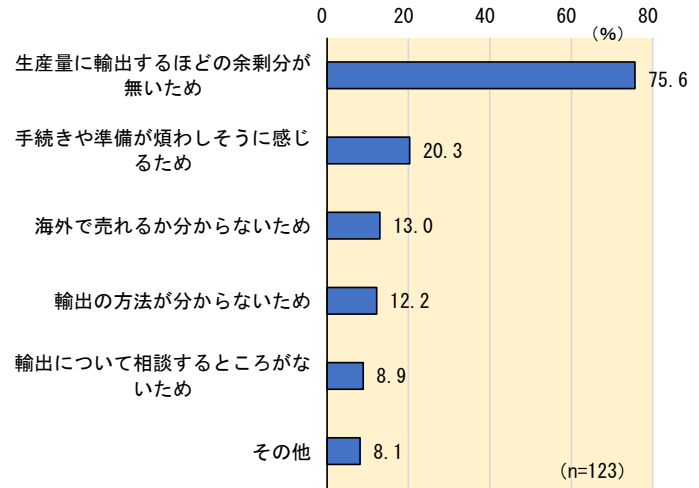


(単位：%)

	回答数 (人)	既に輸出をしている	輸出を検討している・検討したい	関心はあるが、具体的に検討する予定はない	関心がない、わからない	その他	
全体	150	1.3	0.7	19.3	76.0	2.7	
年齢	30歳代	6	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0
	40歳代	4	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
	50歳代	24	0.0	0.0	29.2	70.8	0.0
	60歳代	47	0.0	0.0	25.5	70.2	4.3
	70歳以上	69	2.9	1.4	10.1	82.6	2.9
居住地	鎌ヶ谷	21	0.0	0.0	14.3	81.0	4.8
	道野辺	19	5.3	5.3	21.1	68.4	0.0
	中沢	25	4.0	0.0	16.0	76.0	4.0
	南初富	11	0.0	0.0	9.1	90.9	0.0
	北初富	38	0.0	0.0	28.9	68.4	2.6
	粟野	7	0.0	0.0	14.3	85.7	0.0
	佐津間 軽井沢	17 10	0.0 0.0	0.0 0.0	23.5 10.0	70.6 90.0	5.9 0.0
専業・兼業	専業農家	74	1.4	1.4	20.3	75.7	1.4
	兼業農家	70	1.4	0.0	20.0	75.7	2.9
主な農業経営	梨栽培を主に	41	4.9	0.0	19.5	73.2	2.4
	露地野菜栽培を主に	59	0.0	0.0	23.7	72.9	3.4
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	6	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	15	0.0	6.7	20.0	73.3	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
その他	18	0.0	0.0	11.1	88.9	0.0	
現在の年間販売額	100万円未満	43	0.0	0.0	16.3	83.7	0.0
	100万円～300万円未満	27	0.0	3.7	7.4	77.8	11.1
	300万円～500万円未満	10	10.0	0.0	50.0	40.0	0.0
	500万円～700万円未満	20	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
	700万円～1,000万円未満	12	0.0	0.0	8.3	91.7	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	18	5.6	0.0	38.9	55.6	0.0
	2,000万円～3,000万円未満	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	3,000万円以上	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

【問23で「3 関心はあるが、検討する予定はない」「4 関心がない、わからない」とご回答された方のみお答え下さい。】
 問23—1 輸出を検討しない、又は関心が無い理由について、当てはまるものをご回答ください。（〇はいくつでも）

回答内容	回答数	比率
生産量に輸出するほどの余剰が無いいため	93	75.6
手続きや準備が煩わしそうに感じるため	25	20.3
海外で売れるか分からないため	16	13.0
輸出の方法が分からないため	15	12.2
輸出について相談するところがないため	11	8.9
その他	10	8.1
全体	123	100.0

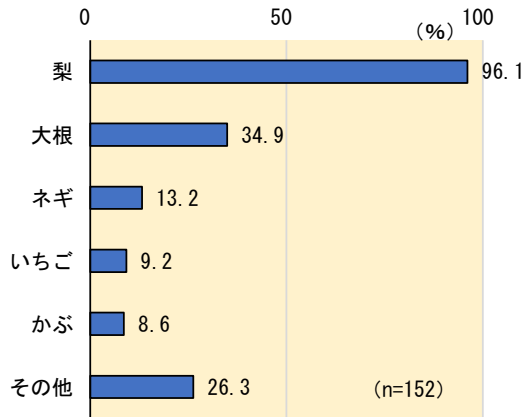


(単位：%)

		回答数 (人)	生産量に輸出するほどの余剰が無いいため	手続きや準備が煩わしそうに感じるため	海外で売れるか分からないため	輸出の方法が分からないため	輸出について相談するところがないため	その他
全体		123	75.6	20.3	13.0	12.2	8.9	8.1
年齢	30歳代	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	40歳代	4	75.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	50歳代	20	75.0	25.0	10.0	10.0	5.0	0.0
	60歳代	38	76.3	26.3	13.2	10.5	5.3	7.9
	70歳以上	55	72.7	16.4	16.4	16.4	12.7	10.9
居住地	鎌ヶ谷	18	66.7	22.2	22.2	16.7	22.2	5.6
	道野辺	15	73.3	20.0	0.0	6.7	13.3	6.7
	中沢	22	81.8	18.2	9.1	13.6	4.5	9.1
	南初富	9	77.8	22.2	22.2	11.1	0.0	0.0
	北初富	32	75.0	18.8	12.5	15.6	6.3	12.5
	粟野	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	佐津間	14	64.3	28.6	21.4	7.1	7.1	7.1
	軽井沢	6	100.0	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0
専業・兼業	専業農家	60	73.3	25.0	15.0	16.7	11.7	6.7
	兼業農家	62	79.0	16.1	11.3	8.1	6.5	8.1
主な農業経営	梨栽培を主に	36	77.8	19.4	5.6	11.1	2.8	5.6
	露地野菜栽培を主に	50	80.0	22.0	16.0	10.0	6.0	8.0
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	5	60.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0
	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	13	76.9	15.4	7.7	7.7	15.4	7.7
	梨・施設園芸の両方を主に	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	15	66.7	20.0	26.7	13.3	20.0	13.3
現在の年間販売額	100万円未満	39	71.8	12.8	12.8	10.3	10.3	7.7
	100万円～300万円未満	20	90.0	20.0	15.0	15.0	10.0	0.0
	300万円～500万円未満	8	100.0	50.0	25.0	12.5	12.5	0.0
	500万円～700万円未満	19	89.5	21.1	10.5	10.5	0.0	5.3
	700万円～1,000万円未満	8	75.0	12.5	0.0	25.0	12.5	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	17	52.9	29.4	11.8	5.9	5.9	11.8
	2,000万円～3,000万円未満	2	50.0	50.0	50.0	50.0	100.0	0.0
	3,000万円以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

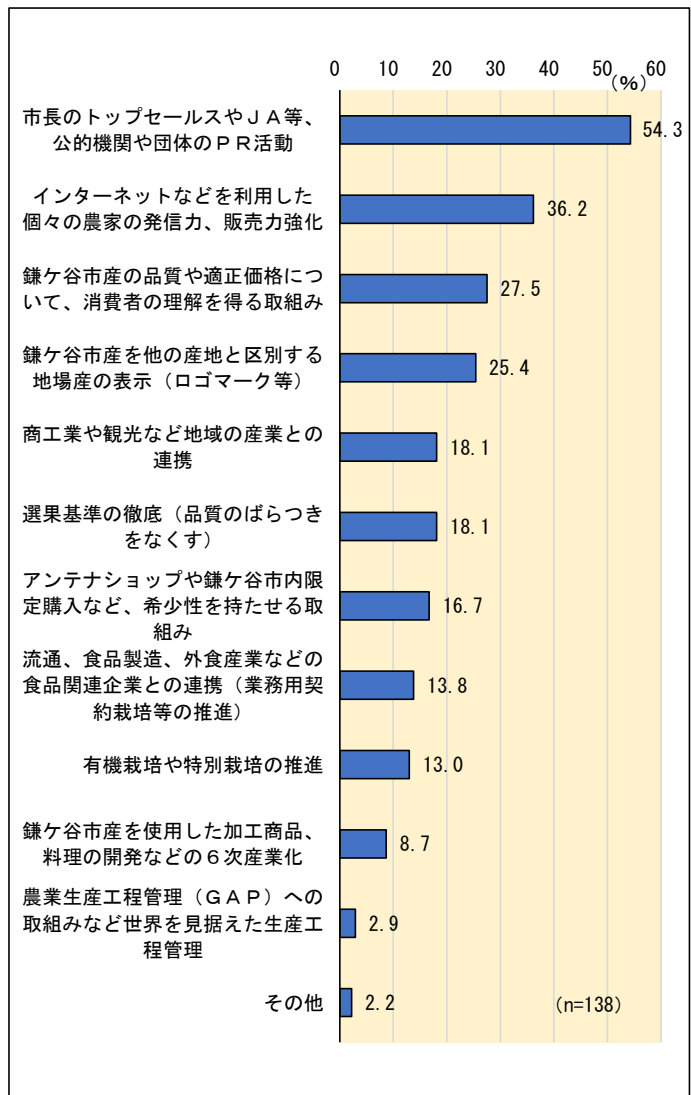
問 2 4 鎌ヶ谷市産農産物として、鎌ヶ谷市以外の方からも知名度が高いと感じる生産物に当てはまるものをご回答ください。(○はいくつでも)

回答内容	回答数	比率
梨	146	96.1
大根	53	34.9
ネギ	20	13.2
いちご	14	9.2
かぶ	13	8.6
その他	40	26.3
全体	152	100.0



問 2 5 鎌ヶ谷市産農産物の知名度を上げる、またはブランド化をしていくためには、どのような取組みが必要だとお考えですか。(○はいくつでも)

回答内容	回答数	比率
市長のトップセールスやJ A等、公的機関や団体のP R活動	75	54.3
インターネットなどを利用した個々の農家の発信力、販売力強化	50	36.2
鎌ヶ谷市産の品質や適正価格について、消費者の理解を得る取組み	38	27.5
鎌ヶ谷市産を他の産地と区別する地場産の表示(ロゴマーク等)	35	25.4
商工業や観光など地域の産業との連携	25	18.1
選果基準の徹底(品質のばらつきをなくす)	25	18.1
アンテナショップや鎌ヶ谷市内限定購入など、希少性を持たせる取組み	23	16.7
流通、食品製造、外食産業などの食品関連企業との連携(業務用契約栽培等の推進)	19	13.8
有機栽培や特別栽培の推進	18	13.0
鎌ヶ谷市産を使用した加工商品、料理の開発などの6次産業化	12	8.7
農業生産工程管理(G A P)への取組みなど世界を見据えた生産工程管理	4	2.9
その他	3	2.2
全体	138	100.0



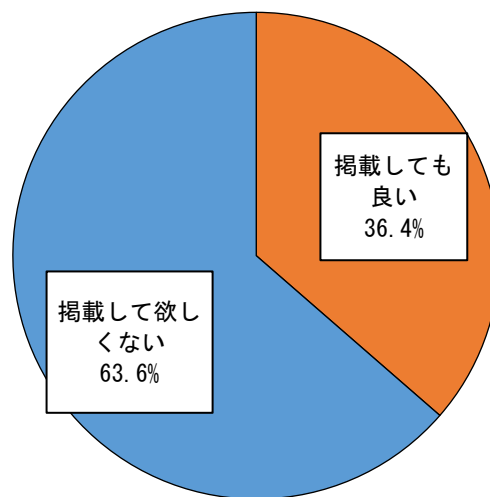
(単位：%)

		回答数 (人)	市長のトップ セールスやJ A等、公的 機関や団体 のP R活動	インターネット などを利用し た個々の農 家の発信 力、販売力 強化	鎌ヶ谷市産 の品質や適 正価格につ いて、消費者 の理解を得る 取組み	鎌ヶ谷市産 を他の産地と 区別する地 場産の表示 (ロゴマーク 等)	商工業や観 光など地域の 産業との連 携	選果基準の 徹底(品質 のばらつきを なくす)	アンテナショッ プや鎌ヶ谷 市内限定購 入など、希少 性を持たせる 取組み	流通、食品 製造、外食 産業などの食 品関連企業 との連携 (業務用契 約栽培等の 推進)	有機栽培や 特別栽培の 推進	鎌ヶ谷市産 を使用した加 工商品、料 理の開発など の6次産業 化	農業生産工 程管理(G A P)への 取組みなど世 界を見据えた 生産工程管 理	その他
全体		138	54.3	36.2	27.5	25.4	18.1	18.1	16.7	13.8	13.0	8.7	2.9	2.2
年齢	30歳代	6	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	4	50.0	50.0	50.0	25.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	22	54.5	22.7	31.8	27.3	13.6	22.7	18.2	18.2	13.6	9.1	4.5	4.5
	60歳代	46	58.7	45.7	28.3	23.9	15.2	15.2	23.9	17.4	13.0	13.0	4.3	2.2
	70歳以上	60	53.3	33.3	23.3	25.0	21.7	18.3	11.7	10.0	15.0	6.7	1.7	1.7
居住地	鎌ヶ谷	21	61.9	23.8	23.8	28.6	23.8	9.5	9.5	19.0	9.5	9.5	4.8	0.0
	道野辺	15	40.0	26.7	26.7	46.7	26.7	13.3	6.7	6.7	26.7	6.7	0.0	0.0
	中沢	24	70.8	37.5	37.5	25.0	20.8	33.3	25.0	8.3	12.5	8.3	4.2	0.0
	南初富	10	60.0	30.0	10.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	北初富	37	54.1	32.4	27.0	18.9	8.1	21.6	16.2	21.6	13.5	10.8	5.4	2.7
	粟野	6	50.0	50.0	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	佐津間	16	37.5	37.5	37.5	25.0	18.8	12.5	18.8	6.3	0.0	6.3	0.0	12.5
	軽井沢	8	50.0	100.0	25.0	12.5	37.5	25.0	37.5	12.5	37.5	25.0	0.0	0.0
専業・ 兼業	専業農家	70	52.9	44.3	25.7	24.3	14.3	17.1	14.3	15.7	12.9	7.1	4.3	1.4
	兼業農家	63	52.4	30.2	28.6	25.4	22.2	20.6	15.9	12.7	14.3	11.1	1.6	3.2
主な 農業 経営	梨栽培を主に	39	66.7	41.0	17.9	20.5	25.6	25.6	17.9	5.1	12.8	7.7	2.6	2.6
	露地野菜栽培を主に	53	41.5	35.8	30.2	26.4	18.9	17.0	18.9	20.8	13.2	11.3	3.8	3.8
	梨・露地野菜栽培の両方を主に	7	71.4	71.4	57.1	28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	0.0
	施設園芸(ビニールハウスなど)を主に	14	35.7	28.6	28.6	28.6	7.1	7.1	7.1	7.1	21.4	0.0	0.0	0.0
	梨・施設園芸の両方を主に	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	16	68.8	25.0	31.3	31.3	12.5	18.8	12.5	18.8	12.5	6.3	0.0	0.0
現在 の年 間販 売額	100万円未満	41	51.2	31.7	26.8	31.7	26.8	17.1	17.1	12.2	14.6	12.2	2.4	4.9
	100万円～300万円未満	23	69.6	26.1	26.1	17.4	8.7	8.7	4.3	17.4	8.7	4.3	0.0	0.0
	300万円～500万円未満	11	36.4	45.5	36.4	27.3	27.3	9.1	18.2	9.1	0.0	27.3	0.0	0.0
	500万円～700万円未満	20	45.0	45.0	35.0	25.0	5.0	35.0	25.0	20.0	15.0	10.0	5.0	0.0
	700万円～1,000万円未満	10	40.0	50.0	10.0	20.0	20.0	10.0	20.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	1,000万円～2,000万円未満	17	64.7	35.3	11.8	23.5	29.4	29.4	23.5	17.6	17.6	5.9	5.9	5.9
	2,000万円～3,000万円未満	2	50.0	100.0	100.0	50.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3,000万円以上	1	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0

【※ご自身で直売所を運営している方のみお答え下さい。】

問 2 6 鎌ケ谷市では、ホームページに市内の直売所の情報を掲載しています。鎌ケ谷市のホームページに、あなたの直売所の情報を掲載しても良いですか。掲載しても良い場合は、後の記入例に従い、直売所の情報をご記入ください。

回答内容	回答数	比率
掲載しても良い	16	36.4
掲載して欲しくない	28	63.6
全体	44	100.0



(n=44)

問 2 7 鎌ケ谷市の農業施策に関するご意見や、農業経営にあたってのお困り事等がありましたら、ご自由にお書き下さい。

(営農環境について)

主なご意見
・ 市街化区域内農地のため冬場の日当たりや、風通しが少し悪い。住宅に囲まれているため。
・ 補助金制度の拡充を希望。
・ 農地にゴミを投げ捨てる人が多い。
・ 耕作放棄地の草で困っている。
・ 相続により、畑が半分になってしまい、収穫量も半分以下になってしまった。残った農地の傍も住宅街等ができてしまい、農薬散布等の作業がしづらい。
・ コロナの影響もあり、自宅でリモートワークをする方が増え、自宅に居る時間が多くなり、農作業がしづらくなった。

(販路やブランド化について)

主なご意見
・ 現状では、無農薬・化学肥料不使用で生産している野菜をスーパーで販売するとき、その旨を表示することができない。同じ野菜という括りになっている。
・ 現在、地元スーパーで野菜を販売させてもらっている。(他の販売者で) 極端に値の安い人がいるため困っている。
・ 高齢化してきたため、先行きは規模を縮小して今の市場出荷から、小売・直売へと移って行きたいと思っている。市営の道の駅があると良い。
・ 梨の直売価格の鎌ヶ谷市のキロ単価を決めて欲しい。直売・ブランド化で全国に知れ渡っている地区は多数ある。

(その他)

主なご意見
・ 廃プラスチック事業は助かっている。昨今ゴミの問題が深刻になっている。使えなくなったプランター、農具他いろいろなゴミが出るが、そのゴミの引取が難しくなっている。ビニール等だけでなく、色々なゴミの混合も処分できるような方法を考えてもらえると助かる。
・ 鎌ヶ谷市のデジタル化をもっと強化して欲しい。
・ 他市は農業者に市からの支援がとても充実している(例:トラクターを買う際市から4割補助してくれるなど)。鎌ヶ谷市にはどのようなことがあるのかよく分からない。

(注) 読みやすさ及び記載者の特定防止の観点から、趣旨を損なわない範囲で修正を行っています。

3 消費者アンケート調査結果

(1) アンケート実施概要

ア 調査の目的

鎌ヶ谷市の農業や農産物に対する消費者の意識やニーズを把握することで、鎌ヶ谷市の今後の農業施策を検討するための基礎資料を得ることを目的とします。

イ 調査対象者

市内住民：264 件

市外住民：414 件

ウ 調査方法

直売会などイベント実施時の手渡しによる配布・回収

エ 調査時期

市内住民：令和4年6月11日（土）～7月9日（土）までの毎週土曜日

市外住民：令和4年6月12日（日）、6月25日（土）、7月2日（土）、
8月27日（土）

オ 回収状況

市内住民：70 サンプル

市外住民：414 サンプル

(注) 1 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%と一致しません。

2 複数回答形式の設問における「全体」の回答数は、有効回答者の人数を記載しています。そのため、各選択肢の回答数の合計とは必ずしも一致しません。

(2) アンケート結果

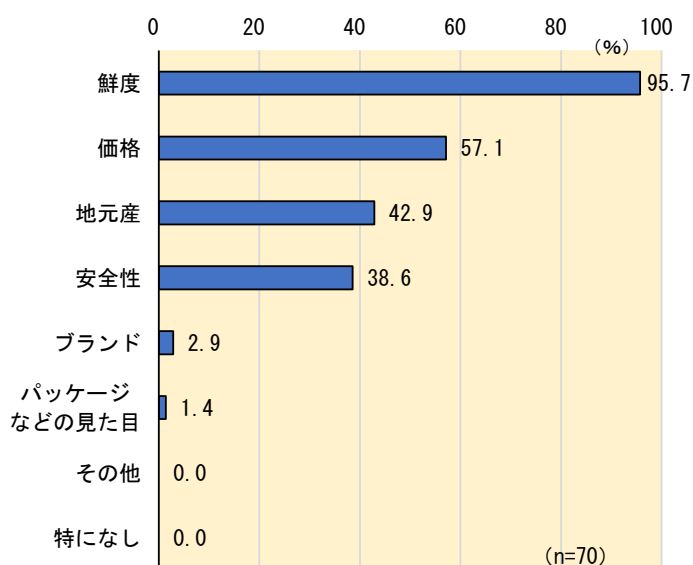
問1 お住まいの地域について教えてください。

(自由記述形式・省略)

問2 農産物を選ぶ際に、重視することは何ですか。(○はいくつでも)

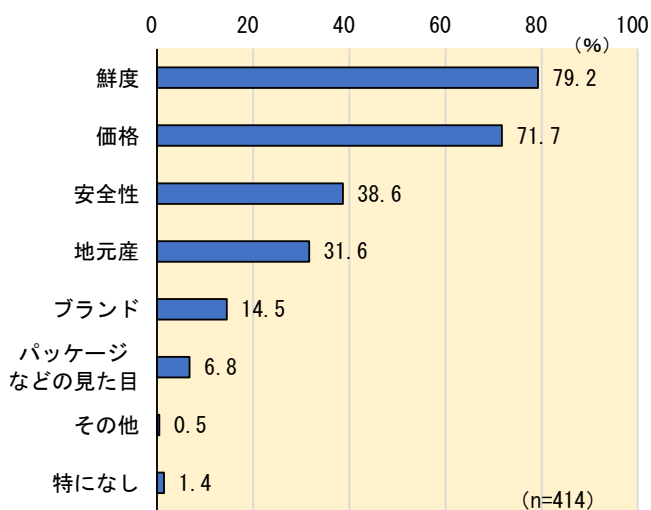
【市内】

回答内容	回答数	比率
鮮度	67	95.7
価格	40	57.1
地元産	30	42.9
安全性	27	38.6
ブランド	2	2.9
パッケージなどの見た目	1	1.4
その他	0	0.0
特になし	0	0.0
全体	70	100.0



【市外】

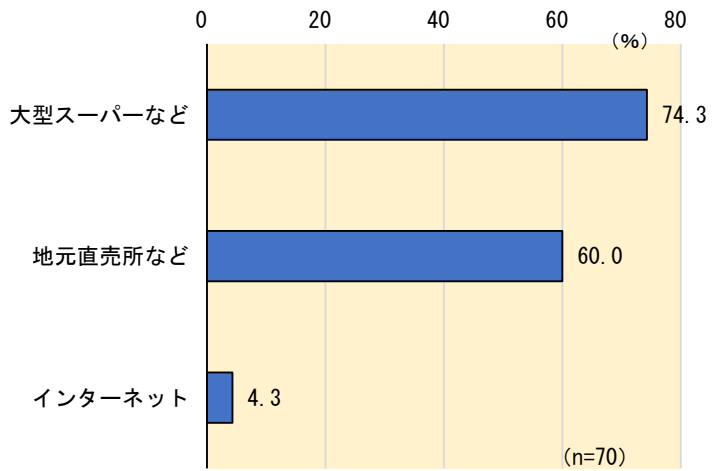
回答内容	回答数	比率
鮮度	328	79.2
価格	297	71.7
安全性	160	38.6
地元産	131	31.6
ブランド	60	14.5
パッケージなどの見た目	28	6.8
その他	2	0.5
特になし	6	1.4
全体	414	100.0



問3 農産物を普段どこで購入しますか。(〇はいくつでも)

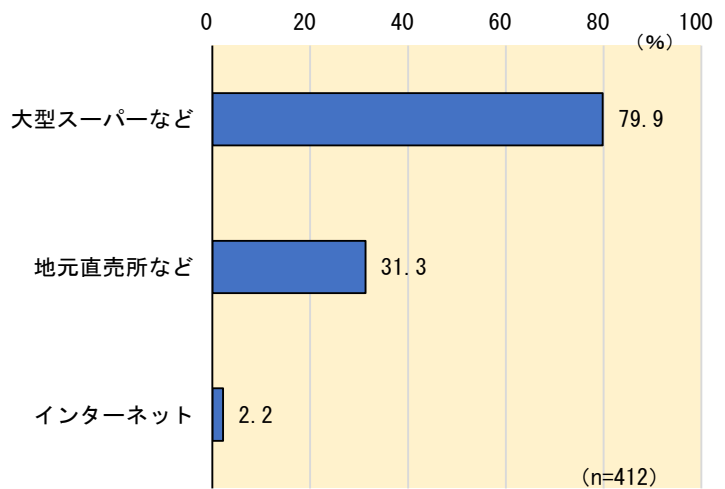
【市内】

回答内容	回答数	比率
大型スーパーなど	52	74.3
地元直売所など	42	60.0
インターネット	3	4.3
全体	70	100.0



【市外】

回答内容	回答数	比率
大型スーパーなど	329	79.9
地元直売所など	129	31.3
インターネット	9	2.2
全体	412	100.0

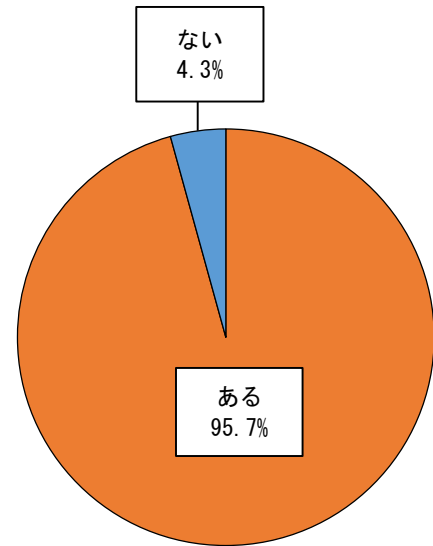


問4 鎌ヶ谷産の農産物を購入したことがありますか。

※ある場合は、購入したことのある農産物を選んでください。（選択はいくつでも可）

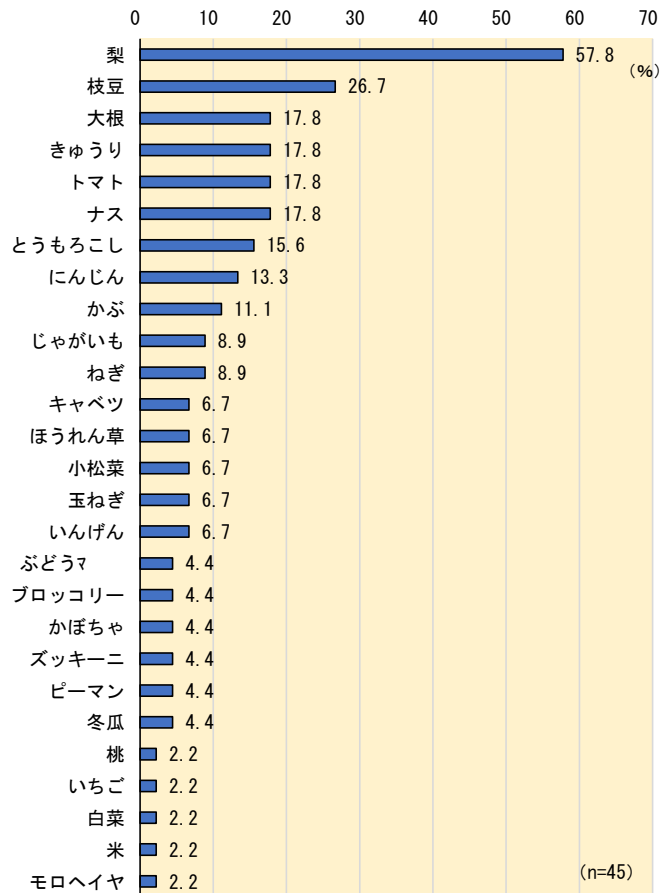
【市内】

回答内容	回答数	比率
ある	67	95.7
ない	3	4.3
全体	70	100.0



(n=70)

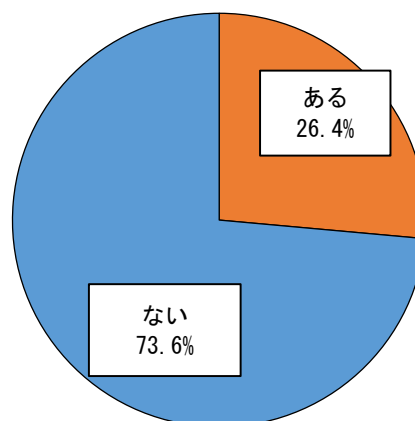
回答内容	回答数	比率
梨	26	57.8
枝豆	12	26.7
大根	8	17.8
きゅうり	8	17.8
トマト	8	17.8
ナス	8	17.8
とうもろこし	7	15.6
にんじん	6	13.3
かぶ	5	11.1
じゃがいも	4	8.9
ねぎ	4	8.9
キャベツ	3	6.7
ほうれん草	3	6.7
小松菜	3	6.7
玉ねぎ	3	6.7
いんげん	3	6.7
ぶどうマ	2	4.4
ブロッコリー	2	4.4
かぼちゃ	2	4.4
ズッキーニ	2	4.4
ピーマン	2	4.4
冬瓜	2	4.4
桃	1	2.2
いちご	1	2.2
白菜	1	2.2
米	1	2.2
モロヘイヤ	1	2.2
全体	45	100.0



(n=45)

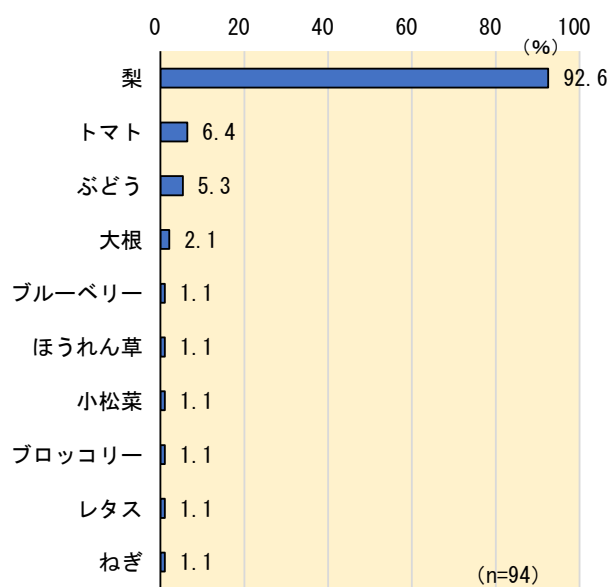
【市外】

回答内容	回答数	比率
ある	106	26.4
ない	295	73.6
全体	401	100.0



(n=401)

回答内容	回答数	比率
梨	87	92.6
トマト	6	6.4
ぶどう	5	5.3
大根	2	2.1
ブルーベリー	1	1.1
ほうれん草	1	1.1
小松菜	1	1.1
ブロッコリー	1	1.1
レタス	1	1.1
ねぎ	1	1.1
全体	94	100.0

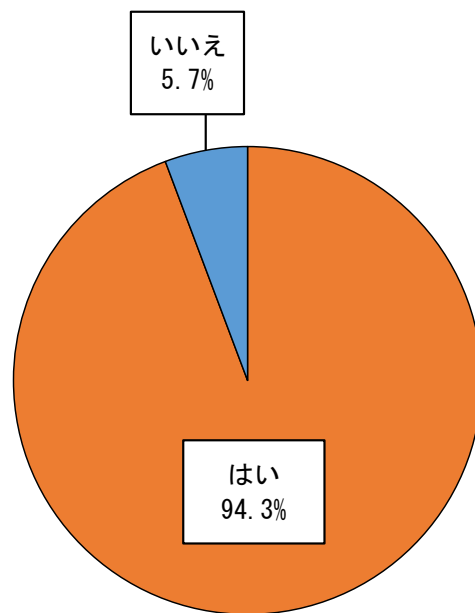


(n=94)

問5 梨を購入したことがありますか。(鎌ヶ谷市以外でも可)

【市内】

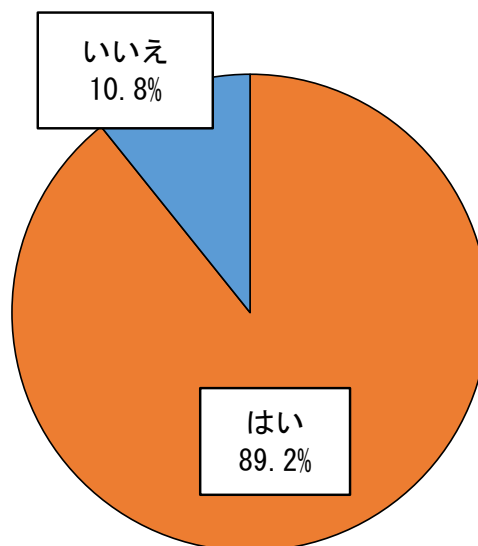
回答内容	回答数	比率
はい	66	94.3
いいえ	4	5.7
全体	70	100.0



(n=70)

【市外】

回答内容	回答数	比率
はい	365	89.2
いいえ	44	10.8
全体	409	100.0

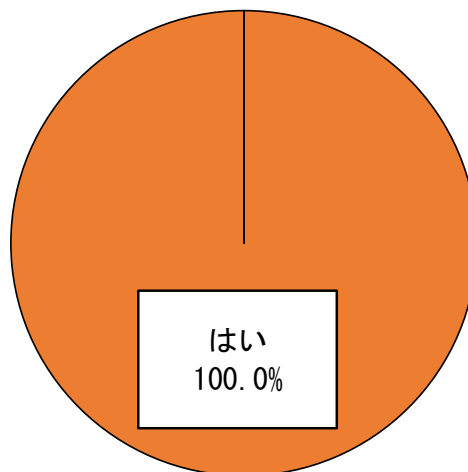


(n=409)

問6 鎌ヶ谷市が梨の産地であることを知っていますか。

【市内】

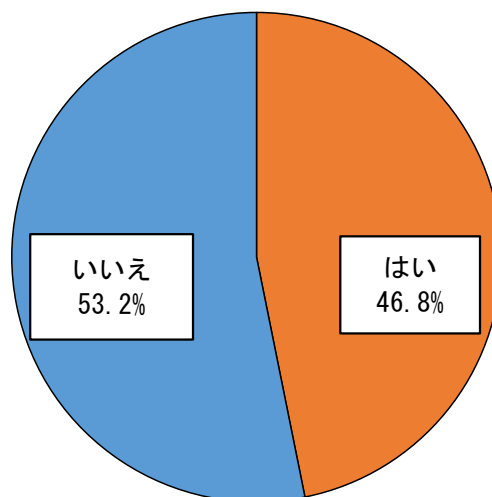
回答内容	回答数	比率
はい	70	100.0
いいえ	0	0.0
全体	70	100.0



(n=70)

【市外】

回答内容	回答数	比率
はい	192	46.8
いいえ	218	53.2
全体	410	100.0

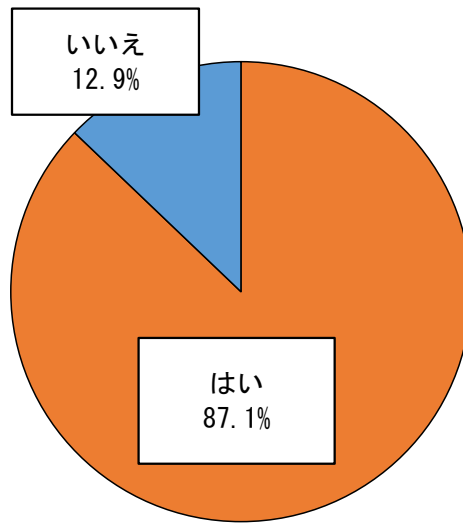


(n=410)

問7 鎌ヶ谷市で梨やぶどうの“もぎ取り体験”ができることを知っていますか。

【市内】

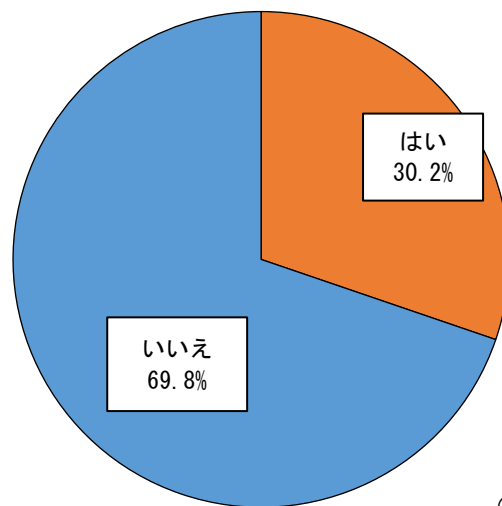
回答内容	回答数	比率
はい	61	87.1
いいえ	9	12.9
全体	70	100.0



(n=70)

【市外】

回答内容	回答数	比率
はい	124	30.2
いいえ	286	69.8
全体	410	100.0

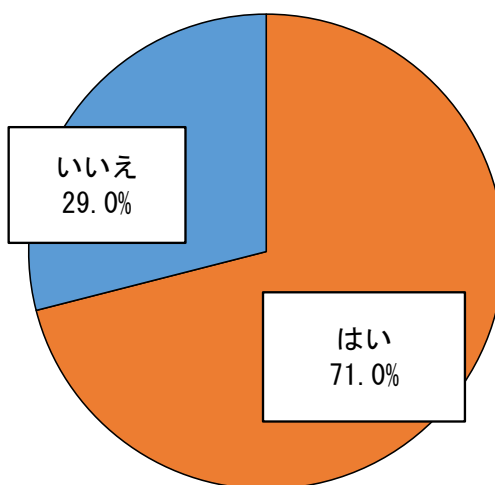


(n=410)

問8 市民農園や体験農園を利用したいと思いますか。

【市内】

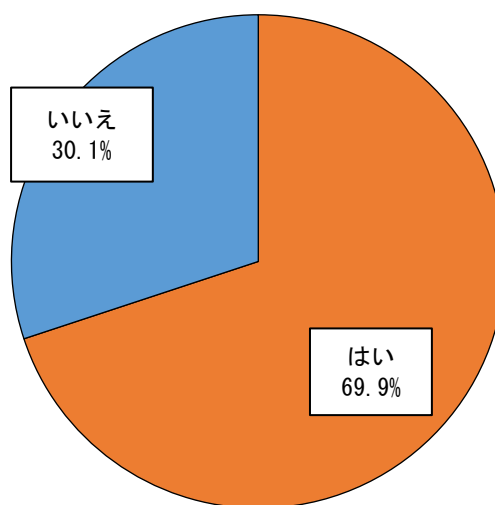
回答内容	回答数	比率
はい	49	71.0
いいえ	20	29.0
全体	69	100.0



(n=69)

【市外】

回答内容	回答数	比率
はい	286	69.9
いいえ	123	30.1
全体	409	100.0

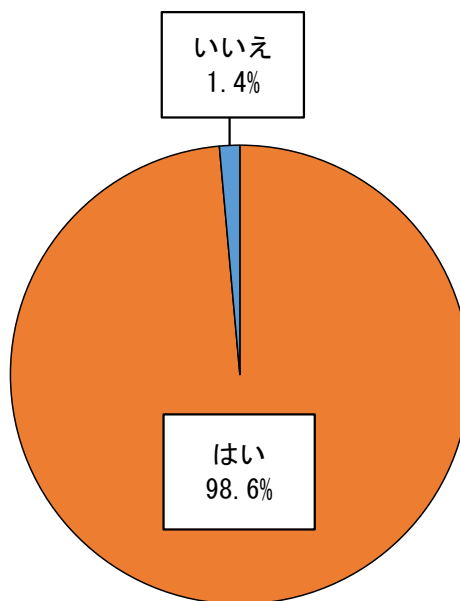


(n=409)

問9 今後、農地は残していくべきだと思いますか。

【市内】

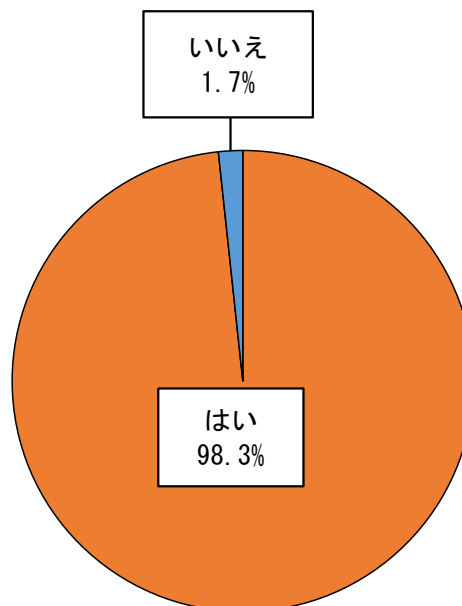
回答内容	回答数	比率
はい	69	98.6
いいえ	1	1.4
全体	70	100.0



(n=70)

【市外】

回答内容	回答数	比率
はい	406	98.3
いいえ	7	1.7
全体	413	100.0

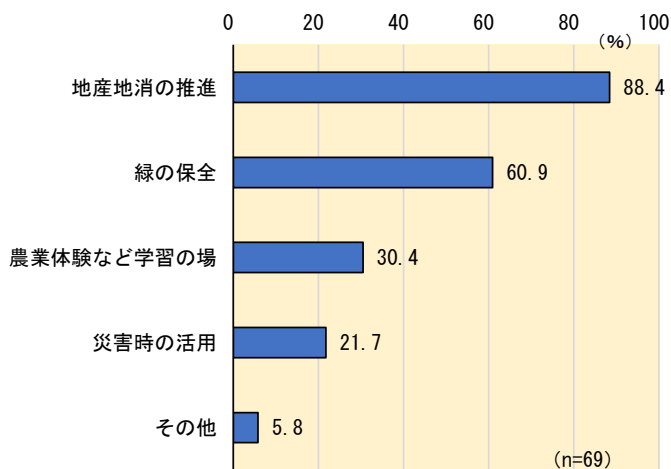


(n=413)

問10 なぜ、農地を残すべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

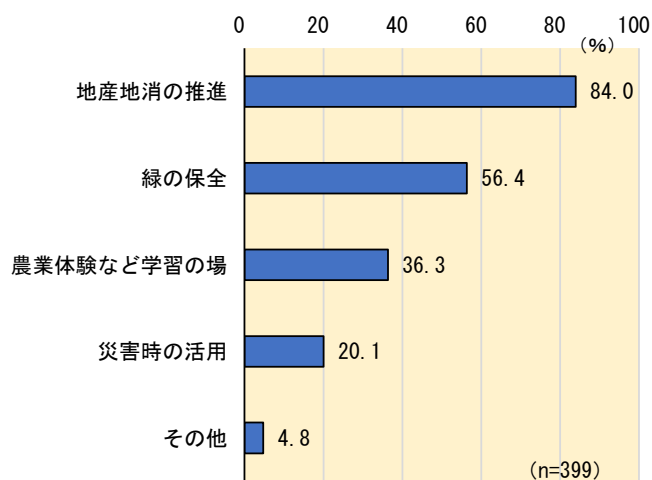
【市内】

回答内容	回答数	比率
地産地消の推進	61	88.4
緑の保全	42	60.9
農業体験など学習の場	21	30.4
災害時の活用	15	21.7
その他	4	5.8
全体	69	100.0



【市外】

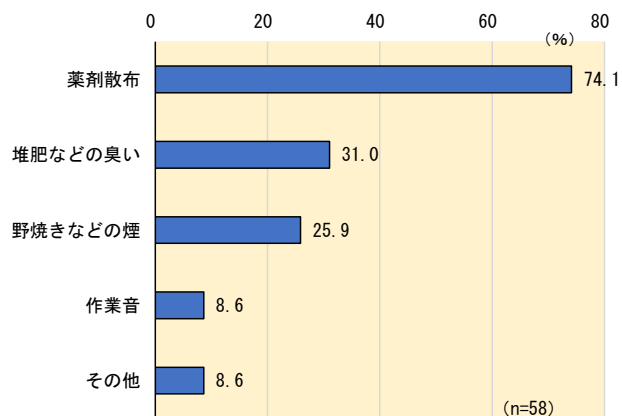
回答内容	回答数	比率
地産地消の推進	335	84.0
緑の保全	225	56.4
農業体験など学習の場	145	36.3
災害時の活用	80	20.1
その他	19	4.8
全体	399	100.0



問 1 1 農地が近くにある場合、気がかりな点は何ですか。(○はいくつでも)

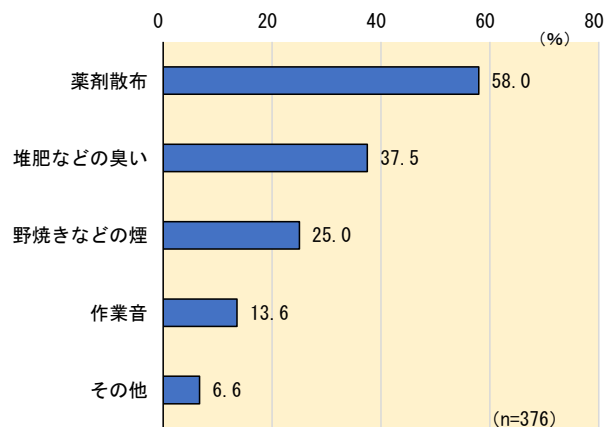
【市内】

回答内容	回答数	比率
薬剤散布	43	74.1
堆肥などの臭い	18	31.0
野焼きなどの煙	15	25.9
作業音	5	8.6
その他	5	8.6
全体	58	100.0



【市外】

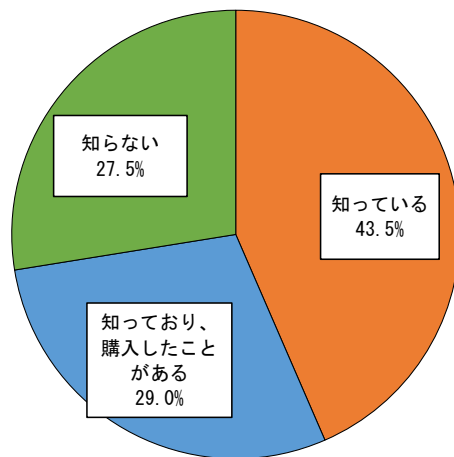
回答内容	回答数	比率
薬剤散布	218	58.0
堆肥などの臭い	141	37.5
野焼きなどの煙	94	25.0
作業音	51	13.6
その他	25	6.6
全体	376	100.0



問 1 2 鎌ヶ谷の梨をネット（“かまたん”のふるさと梨）で購入できることを知っていますか。
また、購入したことはありますか。

【市内】

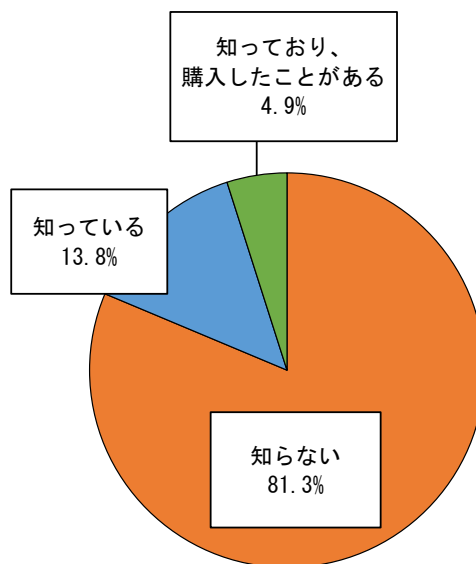
回答内容	回答数	比率
知っている	30	43.5
知っており、 購入したことがある	20	29.0
知らない	19	27.5
全体	69	100.0



(n=69)

【市外】

回答内容	回答数	比率
知らない	331	81.3
知っている	56	13.8
知っており、 購入したことがある	20	4.9
全体	407	100.0



(n=407)

4 鎌ケ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 鎌ケ谷市における都市農業のあり方について調査検討を行うとともに、鎌ケ谷市みどりあふれる都市農業創造プランを策定するに当たり、鎌ケ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について調査検討する。

- (1) 鎌ケ谷市みどりあふれる都市農業創造プランの策定に関すること。
- (2) その他委員会が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員13人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 千葉県職員の職員で農業を所管する者
- (3) 農業関係者
- (4) 消費者
- (5) その他市長が必要と認める者

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(作業部会)

第6条 委員会は、専門事項を調査研究するため、作業部会を置くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、市民生活部農業振興課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公示の日から施行する。

(失効)

2 この告示は、令和5年3月31日限り、その効力を失う。

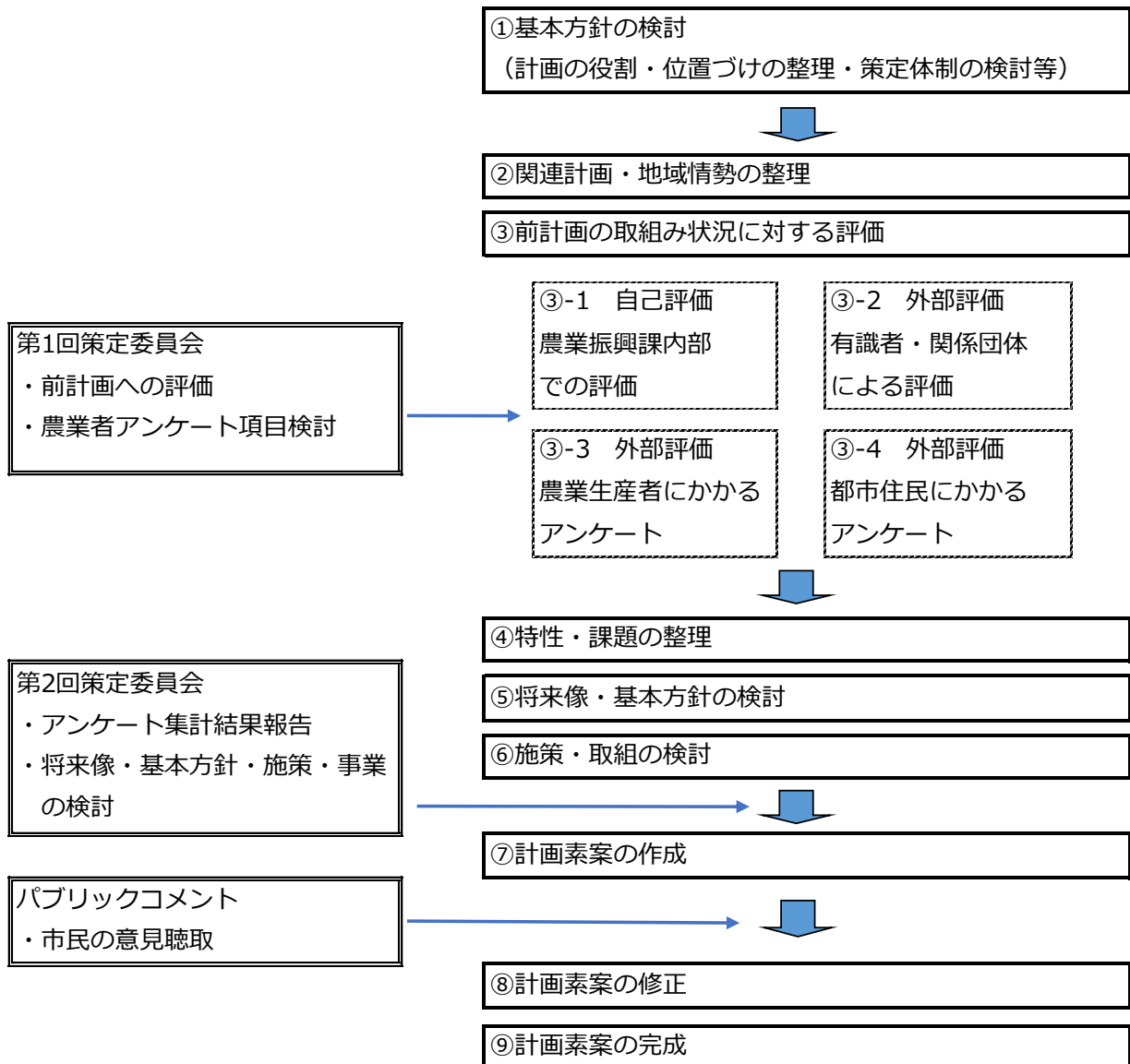
5 鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン策定委員名簿

■策定委員			
選出区分		職名等	氏名
第1号委員	学識経験者	東京聖栄大学客員教授	◎藤島 廣二
第2号委員	行政（県）	東葛飾農業事務所代表	吉田 昭夫
第3号委員	農業関係者	鎌ヶ谷市農業委員会代表	川村 誠司
		とうかつ中央農業協同組合代表	山崎 明
		鎌ヶ谷市農業士等協会代表	石井 秀一
		果樹農家代表	時田 将
		野菜農家代表	石原 孝志
		家畜農家代表	鈴木 利一
		施設園芸農家代表	秋澤 修
		鎌ヶ谷市観光農業組合代表	○小金谷 茂子
		鎌ヶ谷市農業青少年クラブ代表	齊藤 勇真
		女性農業者代表	酒井 京子
第4号委員	消費者	消費者代表	砂見 正子
			◎：委員長 ○：副委員長

6 計画策定の流れ

本計画は、以下の流れで策定しました。策定にあたっては、生産者や住民等の意見を適切に反映した計画とするために、策定の各段階で策定委員会やパブリックコメントを実施し、意見聴取を行いました。

計画策定の流れ



7 用語解説

用語	解説
IoT	「モノのインターネット」(Internet of Things)を指す言葉で、様々なモノがインターネットに接続され、相互に情報交換する仕組みを言う。
家族経営協定	家族で取り組む農業経営について、家族全員が意欲とやりがいを持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指すために、経営方針や役割分担・家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき取り決め、「ルール」として文書化するもの。
かまがや朝市	毎週土曜日、市役所の駐車場で開かれている朝市。鎌ヶ谷市の農家から成る「鎌ヶ谷市朝市組合」によって催されており、地元の農家で収穫した新鮮な朝採り野菜を買えることから、開店前から市民が並ぶほど人気がある。 5月～10月の間は朝7時から8時まで、11月～4月の間は朝8時から9時の営業時間となっている。
鎌ヶ谷市農産物ブランド化推進協議会	市内で生産された農産物の販路拡大及び安定供給を図るとともに、効率的かつ安定的な農業経営基盤の強化に資すること、また鎌ヶ谷市農産物の高付加価値化の推進を図ることを目的に設置された協議会。
鎌ヶ谷市農政推進協議会	農業関係機関や農業者団体の代表、市内農業者などから組織される、地域農業の振興及び農業関係者間の連絡調整を図ることを目的に設置された協議会。
環境保全型農業	農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料・農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業。
耕作放棄地	農家が以前耕作していた土地で、過去1年以上作物を作付け(栽培)しておらず、この数年の間に再び作付け(栽培)する考えのない土地をいう。
CO ₂ ゼロエミッション化	脱炭素社会の実現に向けて、気候変動の要因とされるCO ₂ (二酸化炭素)の排出量を、実質ゼロとすること。
自給的農家	経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家。
市民農園	農業者以外の住民が、レクリエーション目的などで、小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園。
スマート農業	省力化・高品質生産の実現に向け、農業にロボット・AI・IoTといった先端技術を活用する取組み。
ちばエコ農産物	環境保全と食の安心・安全に配慮した千葉県独自の農産物認証制度。農業の自然環境に与える負荷を軽減し、持続的な農業の推進を図るとともに、生産者と消費者のお互いの顔が見える農業を実現し、消費者の求める安全・安心な農産物の供給体制の構築を目指す。

用語	解説
特定生産緑地	生産緑地の指定後 30 年を経過するまでに、市町村が所有者等の同意を得て、その生産緑地を「特定生産緑地」として指定する制度。この特定生産緑地に指定されると、生産緑地の買取り申出ができる時期が 10 年延期される代わりに、現在生産緑地地区に適用されている税制等の優遇措置が継続されるため、引続き農地として存続しやすくなる。
認定農業者制度	農業経営基盤強化促進基本構想に基づき、農業経営者が自らの経営の目標を示した「農業経営改善計画」を作成し、その計画を市町村等が認定する制度。認定を受けた事業者に対し重点的な支援措置が講じられる。複数市町村で農業を営む農業者が農業経営改善計画の認定を申請する場合は、営農区域に応じて都道府県又は国が認定する。
農業経営体	次のいずれかに該当する事業を行う者のこと。 (1)経営耕地面積が 30a 以上の規模の農業 (2)農作物の作付面積又は栽培面積、家畜の飼養頭羽数、その他の事業の規模が一定基準以上の農業 (3)農作業の受託の事業
農業士	優れた農業経営を営むとともに、新規就農者等の育成に指導的役割を果たしている農業者で、都道府県知事の認定を受けた者。
農業青少年クラブ（4Hクラブ）	将来の日本の農業を支える 20～30 代前半の若い農業者が中心となって組織される。農業経営をしていくうえでの身近な課題の解決方法を検討したり、より良い技術を検討するためのプロジェクト活動を中心に、消費者や他クラブとの交流・地域ボランティア活動を行う。 4H とは次の頭文字を指す。 Head（頭脳）：科学的に物を考えることのできる頭（Head）の訓練をする Hand（技術）：農業の改良と生活の改善に役立つ腕を磨く Heart（心）：誠実で友情に富む心を培う Health（健康）：楽しく暮らし、元気で働くための健康を増進する
農福連携	農業と福祉が連携し、障がい者等が適性に応じた農作業などに従事する。農業にとっては労働力の確保、福祉にとっては障がい者等の就労促進など、双方にメリットのある取組み。
販売農家	経営耕地面積が 30a 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家。
ビッグデータ	従来のシステム等では記録や保管、解析が難しいような、巨大なデータ群を指す。これまで見過ごされてきたこうしたデータ群を解析することで、新たな情報を得たり、商品やサービスの開発につなげたりことが期待されている。
利用権設定等促進事業	地権者と農家の貸借等を集団的に行うため、市町村が個々の権利移動を 1 つの計画（農用地利用集積計画）にまとめ、個々の契約をとりかわすことなく、一挙に貸借等の効果を生じさせる事業のこと。

用語	解説
6次産業化	<p>農林水産物の生産（1次産業）だけでなく、食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）にも主体的に取り組むことにより新たな付加価値を生み出し、付加価値を生み出す農林水産業を実現し、農山漁村の雇用確保と所得向上を目指す取組み。</p> <p>「6次産業」＝「1次産業の1」×「2次産業の2」×「3次産業の3」。</p>

第3次鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン

発行 令和5年3月

発行者 鎌ヶ谷市市民生活部農業振興課

〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷二丁目6番1号

電話 047(445)1141

FAX 047(445)1400

ホームページ <https://www.city.kamagaya.chiba.jp/>



鎌ヶ谷市

